

ダニエル12

1260日、1290日、1335日

著者のメモ:

この著作の著者は、エレン・G・ホワイトは神の靈感を受けた女預言者であり、そのため神の愛する人たちが「狭い道」を安全に歩けるよう、神の民に警告し、聖書の真理を明らかにするよう神から命じられたと信じています。永遠の命へ。したがって、彼女の著作は、この研究で提示された結論を裏付けるために広く使用されています。

エレン・G・ホワイトの宣教に対する著者の信念は、彼女が聖書に記述されている神の靈感を受けた女預言者の特徴を備えているという事実に基づいている。

- 彼の言うことはすべて律法と預言者の証言に従っています - イザヤ書 8:19,20。
- 彼の予言は現実になります - エレミヤ 28:9;
- 人々を背教に導かないでください - 申命記 13:1-3。
- 神が彼に言うようにと靈感を与えたことを宣言し、自分自身については語らない - エレミヤ 14:14。
- 聖霊に導かれたスピーチ - ペテロ第二 1:21。
- イエスの受肉を認識する - 聖ヨハネ第一 4:1-3

したがって、エレン・G・ホワイトの著作から抽出されたテキストは、この著作の中で「啓示」、つまり神が彼女に与えた啓示に由来するものとして言及されます。

序文

黙示録は私たちに自分で聖書を学ぶよう繰り返し勧めています。そうするとき、常に謙虚さと祈りの精神をもって行う必要があります。

「私たちは毎日聖書を熱心に研究し、あらゆる考えを熟考し、聖句と聖句を比較しなければなりません。私たちは神の前で自分自身で答えなければならないのと同じように、神の助けを得て自分自身の意見を形成しなければなりません。」

(『大論争』、598ページ)

「聖書の真理を理解することは、研究に専念する知性の活力よりも、目的の単純さと正義への熱烈な願望に依存します。

祈りなしに聖書を勉強してはなりません。聖霊だけが、私たちにわかりやすいものの重要性を理解させたり、理解しにくい真実をねじ曲げたりするのを防ぐことができるのです。」

(『大論争』、599ページと600ページ)

私たちは毎日神の言葉を研究し、聖書と啓示の中に示されている真理に関する啓発が与えられるよう熱心に祈ってきました。したがって、この著作で提示されたすべての議論は、聖書の本文と啓示の間の完全な一貫性を得るとともに、明確な「主はこう言われる」によって裏付けられていない個人的な意見を完全に免除することを目指して、熱心な研究と祈りの後に組み立てられました。”。

この作品にアクセスできるすべての人が、これを読むことによって、再臨に先立って起こる厳粛な今後の出来事に直面する準備ができていると感じることができれば幸いです。

序文

私たちの最愛の救い主、主イエス・キリストを、あらゆる力と大いなる栄光をもって天の雲の中に。

この本を読み始める前に、ここに示されているメッセージを正しく理解できるよう、神に祈り、説明を求めてください。

神のお恵みがありますように、

著者。

ありがとう

神とその最愛の御子イエス・キリストに、私たちがあらゆる善行を行えるようにして下さる方、人々に与えられたこのような素晴らしい預言的なメッセージについて書く特権にあるかもしれないすべての栄誉と栄光を ダニエル12章、そしてすべての行動に捧げてください。この本を通してメッセージを説くための力、推論、時間、そして手段を私たちに与えてくれてありがとう。

両親、エドナとハイロ、何よりも神への畏れと、聖書の預言を研究する際に使用される論理的推論を身につけるために必要な教育を私が受けられるようにするために、しばしば時間と資源を犠牲にしてくれたことに対して。

主イエス・キリストの恵みが皆さんとともにありますように。

ハイロ・カルヴァーリヨ。

「私は、ダニエルと黙示録の預言を必要な説明とともに小さな本に印刷し、世界中に送るようにと指示されました。私たち国民は、より明確な線で彼らの前に光が置かれる必要があります。」

(大臣への証言、117ページ)

「ダニエル書 12 章を読んで研究しましょう。
彼は、困難が起こる前に私たち全員が理解する必要がある警告です。」
(最終イベント、15 ページ)

「私たちは多くのものを失いました。なぜなら、私たちが民族として重要な真理をすべてすでに持っていることを牧師や人々が理解するようになったからです。しかし、そのような結論は誤りであり、神と調和せず、サタンの欺瞞と調和します。真実は、ますます増加し、発展し、私たちの前により明確に現れるでしょう。

」

(『Signs of Times』第 5 巻、26 ページ - 1890 年)

「この世界の歴史の終わりが近づいている今、ダニエルが記録した預言は、私たちが生きているまさにその時代に関係するものであるため、特別な注意を払う必要があります。彼らと、新約聖書の最後の本の教えが結びつけられなければなりません。サタンは多くの人に次のように信じさせました。

ダニエルと啓示者ヨハネの著作の預言的な部分は理解できません。しかし、これらの預言の研究には特別な祝福が伴うという約束は明らかです。」

(預言者と王たち、546～547ページ)

「天使がダニエルに、その成就を目撃する私たちに記録されることになっている非常に興味深い預言を明らかにしようとしていたとき、天使は言いました。「強くなれ、強くなりなさい」。ダニエル 10:19。私たちはダニエルに啓示されたのと同じ栄光を受けなければなりません。それは、この終わりの日に神の民がラツパの音を響かせるためだからです。」

(抜粋メッセージ、第3巻、ページ 390 および 391)

提示された聖書テキストは、出典が特定されていませんが、ブラジル図書館協会発行の『Study Bible – Translation by João Ferreira de Almeida Revista e Atualizada』、1999年版に属しています。この本で他のバージョンの聖書テキストが紹介されている場合、それらは後に正式に識別されます。

同じ。

第1章

ダニエル 12 章を研究する必要があるのはなぜでしょうか。

私たちはクリスチャンとして、聖書の預言の知識がクリスチャンの生活にどのような影響を与えるか疑問に思うことがよくあります。キリストを実際に体験するには、キリストを知り、カルバリの十字架で私たちのために捧げられたキリストの犠牲を受け入れ、キリスト・イエスによる救いのメッセージを他の人々に伝えることが必要であるように私たちには思えます。救いへの彼の招きを受け入れることができます。しかし、聖書の新約聖書に書かれている使徒パウロの手紙をより深く研究すると、キリストとの実際の経験が、キリストの性格とその内容の両方について、より完全に深い知識をもたらすことがわかります。彼は私たちに期待しています。テサロニケ第一 5:6-22 でパウロは、イエスの再臨に向けて適切に備えるために私たちクリスチャンが何をしなければならないかをさらに詳しく示しています。

「6ですから、私たちは他の人のように眠らないようにしましょう。それどころか、冷静になって見守りましょう。

7 さて、眠る者は夜も眠り、酔う者は夜も酔う。

8 しかし、今日の私たちは、信仰と愛の胸当てを身に着け、救いの希望をかぶるとして、身を引き締めましょう。

9 神が私たちを任命されたのは、怒りを起こさせるためではなく、私たちの主イエス・キリストによって救いを得るために任命されたからです。

10 わたしたちのために死んでくださった方は、私たちが寝ても覚めても彼と一致して生きるためです。

第1章

11 ですから、あなたがたのように、互いに慰め合い、高め合いなさい。

12 兄弟たち、わたしたちは、あなたがたの間で働いている人々や、主にあつてあなたがたを管理し、戒めている人々に感謝の気持ちを持ってくださるようお願いいたします。

13 そして、彼らの働きのゆえに、あなたが彼らに愛を持って最大限の敬意を払ってくださるようお願いいたします。お互いに平和に暮らしてください。

14 また、兄弟たち、わたしたちはあなたがたに、不従順な人を戒め、落胆している人を慰め、弱い人を助け、すべての人に対して忍耐強く接するよう勧めます。

15 だれもが悪を他人に報いることがないようにしなさい。それどころか、常に自分自身の間で、そしてすべての人に対して善を追求してください。

16 常に喜びなさい。

17 絶えず祈りなさい。

18 すべてのことにおいて感謝しなさい。これがあなたに対するキリスト・イエスにおける神の御心だからです。

19 御霊を消してはなりません。

20 預言を軽蔑してはならない。

21 すべてのことを裁き、良いことをしっかりと守りなさい。 22

あらゆる悪を避けなさい。」

(テサロニケ第一 5:6-22) (強調あり)

この聖句の中で使徒パウロは、キリストの再臨に備えるために私たちクリスチャンが従わなければならない一連のアドバイスを示しています。パウロは、「預言を軽蔑してはならない」、「すべてのことを裁き、良いことをしっかりと持ちなさい」とアドバイスしていますが、これは「絶えず祈りなさい」などのアドバイスにも同じ重要性を与えています。パウロは、あるアドバイスが他のアドバイスよりも重要であるとは考えていないことに注意してください。それどころか、提示されたすべてのアドバイスに同じ程度の重要性を与えます。したがって、聖書によれば、預言の研究には同じ程度の効果があります。

第1章

祈り、信仰、慈善よりも重要です。したがって、私たちは預言を研究して預言を知る必要があります。これは、祈りによって神を求めること、神の約束への信仰を守り、困っている人々を助けることと同じくらい重要なことだからです。

また、黙示録の中に、ダニエル書の預言の研究を奨励する一連の勧めが見られ、使徒パウロが使徒パウロへの手紙で述べたことを裏付けています。

テサロニケ人:

「私は、ダニエルと黙示録の預言を必要な説明とともに小さな本に印刷し、世界中に送るようにと指示されました。私たち国民は、より明確な線で彼らの前に光が置かれる必要があります。」

(閣僚への証言、117 ページ) (強調)

「ダニエル書と黙示録がよく理解されると、信者はまったく異なる宗教体験をすることになるでしょう。彼らは天国に開かれた門を垣間見ることになるので、心の純粋な人に与えられる祝福を理解するために、すべての人が培わなければならない人格に心と心が感銘を受けるでしょう。」

(閣僚への証言 114 ページ) (強調)

「ダニエルが神から受け取った光は、特にこの終わりの日に与えられたものです。シナルの大河、ウライ川とヒデケル川のほとりで彼が見たビジョンは今成就しつつあり、予告されたすべての出来事が間もなく実現するだろう。」

(上を向く朝の瞑想、15ページ) (強調あり)

第1章

「神の子の肉を食べ、血を飲む者は、聖霊の靈感を受けたダニエル書と黙示録から真理をもたらすでしょう。彼らは抑制できない力を行動に移すだろう。」

(閣僚への証言、116 ページ) (強調)

「ダニエルに関連して黙示録を研究してください。なぜなら、歴史は繰り返すからである……宗教的利点を備えた私たちは、今よりもずっと多くのことを知っているはずだ。」

(閣僚への証言、116 ページ) (強調)

提示されたすべてのテキストは、ダニエル書の預言を研究することの重要性を示しています。ただし、ダニエル 12 章の研究に関しては、以下に示す特定の戒めがあります。

「ダニエル書 12 章を読んで研究しましょう。彼は、困難が起こる前に私たち全員が理解する必要がある警告です。」

(最終イベント 15 ページ)」 (強調)

上に示した啓示の本文を詳しく調べてみましょう。今のところ重要なのは、ダニエル 12 章の預言は私たちの時代へのメッセージであるため、この預言を研究して理解することの重要性を私たちに確信させることだけです。

第2章

予言はそれが理解される時を指し示す

ダニエル 12 章の預言を学び始める前に、聖書に示されている預言を全文読んでみましょう。

「終わりの時は

1 その時、あなたの民の子供たちの擁護者である偉大な君主ミカエルが立ち上がるでしょう。そして、それまで国家が存在して以来、決してなかったような大きな困難の時代が来るでしょう。しかしその時には、あなたの民、この本に書かれているすべての人が救われるでしょう。

2 地の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥と永遠の恐怖に陥るだろう。

3 賢い人は大空の輝きで輝きます。そして、星のように、永遠に多くの人を義に導く者たち。

4 しかし、あなたがたは、言葉を閉ざし、本を封印しなさい。終わりの時まで、多くの人がそれを調べ、知識は増えるでしょう。

5 そこでダニエルが見ると、ほかに二人が立っており、一人は川の片側に、もう一人は反対側に立っていた。

6 そのうちの一人が、川の水辺に立っている亜麻布を着た人に言った、「これらの不思議はいつ実現するのでしょうか。」

7 亜麻布を着た男の話を聞いてください。彼は川の水面に立っていました。その時、彼は右手と左手を天に上げて、永遠に生きる方にかけて、一度か二度になると誓ったのです。そして半分の時間。そして聖なる民の力の破壊が終わるとき、これらすべてのことは成就するでしょう。

8 聞いたのですが、分かりませんでした。それから私は言いました、「主よ、これらの結末はどうなりますか？」

9 彼は答えた、「行きなさい、ダニエル。この言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからです。」

10 多くの人が清められ、白くされ、試みられるでしょう。しかし、悪人は悪事を行い、誰も理解できませんが、賢い人は理解します。

11 日々のいけにえが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしい行為が行われた後も、まだ千二百九十日ある。

12 待ち続けて千三百三十五日に達する者は幸いである。

13 しかし、あなたは最後まで自分の道を進みなさい。あなたは休んで、世の終わりには立ち上がって相続財産を受け取るからです。」

(ダニエル 12:1-13)

ダニエル 12 章には、それが理解できる時を示す預言が記されています。ダニエル 12 章 4 節では、「多くの人が調べて知識が増える終わりの時まで」その書に封印されるよう命じられています。この節で、神はダニエル 12 章の幻は終わりの時にのみ理解されるということをダニエルに理解させています。8 節と 9 節では、ダニエルが彼に幻を与えた天使との対話を通してこの情報を確認しています。

「8聞いたのですが、分かりませんでした。それから私は言いました、「主よ、これらの結末はどうなりますか？」

9 彼は答えた、「行きなさい、ダニエル。この言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからです。」

(ダニエル 12:8-9) (強調)

ダニエルは天使が見せた幻の意味を理解していませんでした。そこで彼は天使にこう尋ねます。

第 2 章 - 預言は7 の時を示しています。

理解した

天使がビジョンの意味を明らかにしてくれるのを待っています。しかし、天使はダニエルが期待していたような反応をしませんでした。天使はダニエルの質問に答えて、その幻は「終わりの時」まで「封印されている」と告げます。天使はダニエルに反応しませんでした。なぜなら、何らかの理由で（神のみぞ知るですが）ダニエルと彼の同時代人が幻の意味を知ることが都合が悪かったからです。天使はダニエルに、「終わりの時」が来るまでその幻は理解できないことを明らかにしました。「終わりの時」が到来すると、多くの人が預言を精査し、それが理解されるでしょう。4 節で天使がダニエルに与えた「知識は増える」という表現は、ダニエル 12 章の幻の意味を多くの人が理解できることを意味しています。

黙示録は、「終わりの時」がいつ始まるかを明らかにしています。

「天国とこの世の間には素晴らしいつながりが見られます。ダニエルに啓示された事柄は、後にパトモス島でヨハネに与えられた啓示によって完成されました。この 2 冊の本は注意深く研究する必要があります。ダニエルは二度尋ねました :いくらですか最後まで残ってるのかな? 「それで、私は聞いたのですが、理解できませんでした。そこで私は言いました、『主よ、これらのことの結末はどうなりますか?』そして彼は言った、「行きなさい、ダニエル、これらの言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからです。」多くの人は浄化され、白くされ、テストされるでしょう。しかし、悪人は悪事を行い、悪人は誰も理解できませんが、賢い人は理解します。そして、絶え間ない犠牲が取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしいものが取り除かれる時から、千二百九十日ある。待ち続けて千三百三十五日に達する者は幸いである。しかし、あなたは最後まで行きます。あなたは休んで、日々の終わりには自分の運命にあるからです。」

この本を開いて、この終わりの日に何が起こるべきかについてヨハネに啓示を与えたのは、ユダ族のライオンでした。

ダニエルは自分の証言をする運命に残り、最初の天使のメッセージが世界に宣言される終わりの時まで封印されていました。」

(閣僚への証言 115 ページ) (強調あり、強調追加)

上の強調表示されたテキストは、「終わりの時」が最初の天使のメッセージが宣言されるべき時であることを示しています。最初の天使のメッセージは、黙示録 14:6-7 に示されているメッセージです。

「6 私は、もう一人の天使が天の真ん中を飛んでおり、地上に座っている人々、すべての国、同族、言語、人々に永遠の福音を宣べ伝えているのを見た。

7 大声で言う、「神を畏れ、神に栄光を帰せよ。神の裁きの時が来たのだから。」そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拜せよ。」

(黙示録 14:6,7)

このメッセージは「最初の天使のメッセージ」とも呼ばれ、1844 年の少し前、19 世紀に力強く宣言されました。このとき、ダニエル 8 章の 2300 の夜と朝の預言に関するウィリアム・ミラーの研究を信じた何千人もの信者が宣言しました。ギリエルメ・ミラーと他の何人かの信者の研究によると、裁きの時は 1844 年 10 月 22 日に始まり、その時、預言によれば「聖域は浄化される」という。彼らは聖域は地球であると考え、聖域の浄化は黙示録に記されているキリストの再臨後の火による地球の浄化を表しました。しかし、(イエスが戻らず、彼らの希望も確認されなかったために)大きな失望を経験した後、再び熱心に研究に専念しました。

第 2 章 - 預言は9時を指します。

理解した

聖書で言及されている聖所が、ヘブライ人への手紙 9章11節、24節、25節で言及されている天の聖所であることを検証しました。

「11 しかし、キリストが、手で作られたものではなく、つまりこの被造物ではない、より大きく、より完全な幕屋を通して、すでに成し遂げられた良いことの大祭司として来られたとき、

24なぜなら、キリストは、真の聖所の一種である手で造られた聖所には入らず、天そのものに入って、今、私たちのために神の御前に現れてくださったからです。

25 大祭司が毎年他人の血を携えて至聖所に入るのと同じように、まだ何度も自分自身をささげることはありません。」

(ヘブライ人への手紙 9:11,24,25) (強調あり)

天の聖所の清めは、ダニエル書 7章9節と10節に表されている「調査判決」と呼ばれる、天で行われる救いの計画の一部を表していました。

「9 玉座が設置され、日の古き者が座るまで、私は見続けました。彼の服は雪のように白く、頭の髪は純粋な羊毛のようでした。彼の玉座は炎であり、車輪は燃え盛っていた。

10 彼の前から火の川が流れ出た。何千もの何千もの人々が彼に仕え、無数の無数の人々が彼の前に立った。法廷が開かれ、帳簿が開かれた。」

(ダニエル 7:9 と 10)

捜査判決では、各人間の魂の場合は永遠の命か第二の死かが決定されます。イエスはこの判決の弁護士であり裁判官であり、彼の主張を受け入れるすべての人たちの大義を擁護しています。

罪の赦しのために十字架で犠牲を払うこと。最初の天使のメッセージは、この裁きの始まりを告げました。

したがって、黙示録 14 章の最初の天使のメッセージの成就是、調査判決が天で始まった 1844 年に起こりました。私たちは今、「終わりの時」が最初の天使のメッセージが宣べ伝えられる時であることを示す黙示録の文章を見ました。

「ダニエルは自分の証をする運命に残りましたが、その証は、最初の天使のメッセージが世界に宣言される終わりの時まで封印されていました。」

(閣僚への証言 115 ページ) (強調あり、強調追加)

したがって、ダニエル 12 章に記されている「終わりの時」は、19 世紀半ば、1844 年の少し前に始まりました。これは、聖書学者がダニエル 12 章を理解できるのはこの時期以降だけであることを意味します。神がこの預言は「封印されている」と主張されたため、それ以前にはこの預言を理解することは不可能でした。しかし、19世紀以降、預言はもはや「封印」されておらず、理解される時期が来ました。したがって、21世紀に生きる私たちは今、ダニエル12章の預言を理解する時期に来ています。

この時点で、あなたは、アドベンチスト運動の先駆者であるミラー、ユーライア・スミス、プレスコット、エレン G.

ホワイト、バトラー、その他の人々は、この時代に生きていましたが、確かにすでにこの理解を持っていました。したがって、今日私たちがしなければならないことは、この預言について彼らがどのような理解を持っているかを宣伝することだけでしょう。しかし、1903 年という早い時期に、エレン・G・ホワイトという人による啓示がダニエル 12 章についてどのように述べているかを見てください。

「ダニエル書 12 章を読んで研究しましょう。彼は、困難が起こる前に私たち全員が理解する必要がある警告です。」

(最終イベント 15 ページ / 原稿リリース Vol. 15 228 ページ - 1903 年) (強調あり)

19世紀には、ユーライア・スミスのようなアドベンチスト派の先駆者の何人かが、ダニエル12章で示されている期間が過去のものとして成就したことを指摘する研究をすでに発表しており、その期間は1844年までに及んでいた。1903年に書かれた啓示は、それまでに存在していた理解を支持していません。それどころか、ダニエル 12 章の預言はまだ理解されておらず、研究する必要があると述べています。

研究中に神の靈感を受けた兄弟がいたとき、啓示はそれを指摘していたということを確認することが重要です。これは、ワゴナー牧師とジョーンズ牧師が提示した「信仰による義認」のメッセージに当てはまります。

「主はその深い憐れみをもって、[EJ]ワゴナー牧師と[AT]牧師を通して、貴重なメッセージを民に送られました。ジョーンズ。このメッセージは、全世界の罪のための犠牲である十字架につけられた救い主を、より目立つように世界の前に置くことでした。それは保証人への信仰による義を示しました。キリストの義を受け入れるよう人々を招きましたが、それは神のすべての戒めに従うことによって現れます。」

(最終的な出来事、15 ページ) (強調)

ある兄弟が神からのメッセージを持ってきたり、研究を発表したりしたとき、その啓示は明らかにその兄弟に向けられたものでした。この啓示は既存のダニエル 12 章の研究のいずれにも言及していないという事実

そのとき、それは神からの真理として私たちの注目を集めるはずです。

聖書の預言を正しく理解するための節制への呼びかけ

聖書の預言全般をよりよく理解するために、非常に重要な点、つまり「節制」を強調したいと思います。この主題に関する啓示のテキストを見てみましょう。

「私たちには神の戒めと、預言の霊であるイエス・キリストの証があります。貴重な宝石は神の言葉の中に見出されます。この御言葉を吟味する人は、心を澄ましておかなければなりません。彼らは決して食べたり飲んだりして異常な食欲に耽るべきではありません。

そうなると、脳は混乱してしまいます。彼らは、地球の歴史の最後の場面に関連する物事の重要性を発見するために深く掘り下げる負担に耐えることができないでしょう。」

(大臣への証言、114ページ)

この文章は私たちに非常に明確なアドバイスを残しています。神から与えられた健康の原則を守らないと、「深く掘り下げるができなくなり」、つまり聖書の預言を正しく理解することができなくなります。私たちは、コーヒー、紅茶、あらゆる種類の動物の肉、あらゆる種類のアルコール飲料など、有害な物質や有害なホルモンを含む食品を食べることを控えなければなりません。飲食における節制の実践方法についてさらに詳しく知りたい場合は、福音派書店で販売されている「良い生活の科学」、「節制」、「食事に関するアドバイス」を読むことをお勧めします。。

第3章

ダニエル 12 の期間 – 過去か未来?

ダニエル書 12 章で語られている預言的な出来事を分析すると、それを 3 つのブロックに分けることができることがわかります。最初のブロックは、この章の 1 節から 3 節で構成され、一連の出来事を報告します。

「終わりの時は

1 その時、あなたの民の子供たちの擁護者である偉大な君主ミカエルが立ち上がるでしょう。そして、それまで国家が存在して以来、決してなかったような大きな困難の時代が来るでしょう。しかしその時には、あなたの民、この本に書かれているすべての人が救われるでしょう。

2 地の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥と永遠の恐怖に陥るだろう。

3 賢い人は大空の輝きで輝きます。そして、星のように、永遠に多くの人を義に導く者たち。」

(ダニエル 12:1-3) (強調)

このブロックは、第 11 章で天使が始めた物語の続きであり、一連の出来事を強調しています。識別を容易にするために、このテキスト ブロックで説明されているイベントを強調します。彼らは：

- ミゲルは起きます。
- 大きな苦悩の時が来るだろう。

第 3 章 – ダニエル 12 の期間 – 過去か未来? 13

- 神の民と、塵の中で眠っている多くの人々は救われるでしょう
彼らは地から立ち上がるでしょう。
- 賢い人は大空の輝きのように輝くでしょう。

上記の各イベントの意味については、次の章で詳しく見ていきます。現時点では、これらすべてのイベントが同じブロックに属していること、つまり、テキストがそれらが順番に発生することを明確にしていることだけを強調したいと思います。

4 節を読むと、天使がダニエルに具体的な指示を与えていることがわかります。

「4 しかし、あなたがたは、言葉を閉じて本を封印してください。終わりの時まで、多くの人々がそれを調べ、知識が増えます。

(ダニエル12:4) 』

このようにして、1節から3節までの物語が終わったことがはっきりと分かります。したがって、ダニエル 12 章の最初の部分は 3 節で終わっていることがわかります。

2 番目のブロックは 4 節、8 節、9 節で構成されており、ダニエル 12 章の預言は「終わりの時」が始まったときのみ理解できることを告げています。

「4 しかし、あなたがたは、言葉を閉じて本を封印してください。終わりの時まで、多くの人々がそれを調べ、知識が増えます。

8 聞いたのですが、分かりませんでした。それから私は言いました、「主よ、これらの結末はどうなりますか？」

9 彼は答えた、「行きなさい、ダニエル。この言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからです。」

(ダニエル 12:4,8,9) (強調あり)

前の章で、「終わりの時」とは黙示録 14 章の最初の天使のメッセージが宣べ伝えられる時であり、この時が 1844 年の少し前に起こったことを学びました。したがって、私たちはすでに 4 節を理解しています。8 と 9 がこの 2 番目のブロックを構成します。彼らは、ダニエル 12 章の預言は 19 世紀半ば、1844 年の少し前になってからしか理解できなかったと報告しています。

ダニエル 12 章の 3 番目のブロックは期間で構成されています。
預言には 3 つの時代が示されています。

- 「一度、二度、そして半分」 - 7 節;
- 「1290日と1225日」 - 11 節と12 節。

これらはダニエル 12 章の時代です。それが過去なのか未来なのかを知るために、ダニエル 12 章について啓示によってもたらされた文章を分析してみましょう。

「ダニエル書 12 章を読んで研究しましょう。彼は、困難が起こる前に私たち全員が理解する必要がある警告です。」

(最終イベント、15 ページ / 原稿リリース Vol. 15、228 ページ -
1903 年) (強調あり)

前の章でこの啓示の言葉を簡単に分析しました。この声明の中で、啓示は「苦難の時」が始まる前にダニエル12章を理解する必要があると明確に述べています。注記：

「黙示録は、当時ダニエル12章のいかなる部分も理解されていたとは主張していません。」

第 3 章 – ダニエル 12 の期間 – 過去か未来? 15

この章の一部の部分はすでに理解されているが、他の部分は理解されていない可能性があります。したがって、この記述がダニエル 12 章全体を指しているのか、それともその一部を指しているのかを理解する必要があります。そして、彼女が預言の一部に言及したのであれば、私たちは彼女がどの部分に言及したかを知る必要があります。ダニエル 12 章を 3 つのブロックに分けたので、ダニエル 12 章を理解する必要があると述べた黙示録がどのブロックに言及していたかを知る必要があります。

黙示録の文書を調査したところ、1888 年以降、ダニエル 12 章の最初のブロック (1 節から 3 節で構成) に記述されている出来事についての説明があったことがわかりました。1888 年には「大論争」と題された本が出版され、現在では「大論争」として英語ポルトガル語に翻訳され、3 度目の改訂が行われた。これはこの本の最後から 2 番目の改訂であり、啓示の文章が追加された最後の改訂でした。1911 年に行われたこの本の最後の改訂では、最も重要な変更は歴史的参照の追加でした (「Selected Messages, Vol. 3, Pages 433-440」を参照)。したがって、1888 年の改訂版には、ダニエル 12 章の最初のブロック (1 節から 3 節) の内容を明らかにする情報がすでに含まれていました。以下にそれを引用します。

「その時、あなた方の民の子供たちを代表する偉大な君主ミカエルが立ち上がり、それまで国家が存在して以来かつてなかったような困難の時代が訪れるだろう。しかしその時には、あなたの民、本に書かれているすべての人々が救出されるでしょう。」
ダニエル 12.1

第三の天使のメッセージが閉じられると、慈悲はもはや地球上の罪を犯した住民に有利に訴えることはできなくなります。神の民は自分たちの働きを達成するでしょう。...その後、イエスは天の聖所での執り成しをやめます。」

(『大論争』、613 ページ) (強調、斜体追加)

「第七の疫病と特別な復活」

「人類が地球上に存在して以来、一度も経験したことのないような大地震が起きています。今回の大地震もそうでした。」黙示録 16:18 大空は開いたり閉じたりしているようです。神の御座の栄光は大気を貫くように見えるでしょう。 ...

墓が開かれ、「土の塵の中で眠っている人々の多くが目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥辱と永遠の軽蔑にさらされる」。ダニエル 12:2 第三の天使のメッセージを信じて死んだ人は皆、神が律法を守った人々との間に立てた平和の契約を聞くために、栄光を受けて墓を去ります。「彼を刺したのと同じ者たちだ」

(黙示録 1:7)キリストの苦しみをあざけり嘲笑した人々、そしてキリストの真理と人々の最も痛烈な敵は、栄光の中でキリストを見つめ、忠実で従順な者に与えられる栄誉を見るために再び立ち上がります。 ...

キリストのためにすべてを犠牲にした人々は今、あたかも主の館の秘密の場所に隠れているかのように安全です。

彼らは試され、世界と真理を軽蔑する人々の前で、彼らのために死んでくださった方への忠誠を示しました。死に直面しても確固たる誠実さを保ってきた人々に素晴らしい変化が訪れました。彼らは悪魔に変えられた人間たちの暗く恐ろしい圧制から突然解放されました。

直前まで晝ざめ、不安で荒れ果てていた彼の顔は、今では賞賛と信仰と愛で輝いています。 [ダニエル 12:3]

(『大論争』、636 および 637 ページ) (強調あり、強調追加)

第 3 章 – ダニエル 12 の期間 – 過去か未来? 17

本書の第 4 章のダニエル 12 章 1 節から 3 節を明らかにする、上に示した啓示の文章をさらに詳しく説明しましょう。

今のところ、ダニエル 12 章の預言のブロック 1 (1 節から 3 節) が 1888 年の時点ですでに明らかにされていることを確認するためだけにそれらを紹介します。

ダニエル書 12 章の第 2 ブロック (4,8,9 節) も 1903 年にはすでに理解されていました。これは、啓示が 1890 年に以下に示す本文を通じてすでに説明されていたからです。

「ダニエルは自分の証をする運命に残りましたが、その証は、最初の天使のメッセージが世界に宣言される終わりの時まで封印されていました。」

(閣僚への証言 115 ページ / レビュー アンド ヘラルド、1890 年 2 月 18 日)
(強調を追加、強調を追加)

したがって、アドベンチスト運動の先駆者たちは、1890年の時点で、「終わりの時」が1844年の少し前に始まったことを知っており、したがってダニエル12章の預言はすでに理解できていたのです。

したがって、ブロック 1 とブロック 2 がそれぞれ 1888 年と 1890 年にすでに理解されていたとすれば、1903 年になされたダニエル 12 章に関する啓示の記述は、ダニエル 12 章の期間をカバーするブロック 3 のみを参照している可能性があります。 :

「ダニエル書 12 章を読んで研究しましょう。彼は、困難が起こる前に私たち全員が理解する必要がある警告です。」

(最終イベント、15 ページ / 原稿リリース Vol. 15、228 ページ – 1903 年) (強調あり)

私たちは、この啓示が、1903 年には時代というものが理解されておらず、「困難の時代」が始まる前にその意味を理解する必要があることを伝えていと理解しています。

ダニエル 12 章には 3 つの時代が描かれていることを思い出してください。

- 「一度、二度、そして半分」、7 節。
- 1290 日、11 節。
- 1335 日、12 節。

したがって、1903 年の啓示で、「困難の時」の前にこれらの期間を理解する必要があると述べられていた場合、この推論から 2 つのステートメントを抽出できます。

1 - 1903 年にはまだ時代が到来していませんでした。

満たされました。

なぜなら、すべての預言は神によって与えられ、その成就の前に神の僕たちがそれを理解できるからです。これを明確にするために、実際の例を示します。あなたが火山の山の中腹に住んでいて、この山の火山が月曜日の 12 時に噴火するという予言があったと想像してみましょう。予言には、少なくとも 24 時間前にその場を離れなければ、火山から噴出する大量の溶岩に飲み込まれて死ぬだろう、とも述べられていた。月曜日の 12 時 5 分、予言通りに火山が噴火した直後、あなたがその予言を理解し、まだ家の中にいたとします。何のための預言だったのでしょうか？数時間後には熱い溶岩に飲み込まれて死ぬだろうということを確認するための。しかし、もしあなたが時間内に預言を理解し、その勧告に耳を傾け、前日の日曜日の午前 10 時までには逃げていれば。

第 3 章 - ダニエル 12 の期間 - 過去か未来? 19

たとえば、預言の勧めに耳を傾けていれば救われたでしょう。したがって、預言は、成就する前にそれを理解する人にとって有益です。

もしその預言が成就する前にそれを理解する人々にとって有益であるならば、アドベンティスト派は1903年の「苦難の時」よりも前にダニエル12章を理解する必要があると啓示が述べているという事実は、ダニエル12章の時代にはまだ達していないことを意味する。 .理解できました。

2 - 期間は「時間」に関連しています。
苦悩”。

黙示録が、ダニエル 12 章の期間は「苦難の時」の前に理解する必要があると述べている場合、これは、その期間が何らかの形で「苦難の時」に関連していることを意味します。

もしこれらの期間が 1903 年まで満たされず、「困難の時代」に関連していたとしたら、エレン・G・ホワイトは次のように述べているので、それらの期間は確かに 1903 年 (彼女がこの声明を書いたとき) 以降に満たされることになるでしょう。ダニエル 12 章の「困難の時」を前に理解する必要がある、それは将来の時を指します。

4.1 - 天上の聖域を照らす光

天の聖所におけるイエスの宣教を学ぶことによって、私たちはダニエル 12 章の出来事とその期間が展開する時期を明確に理解することができます。

ヘブライ人への手紙に示されている聖書によれば、天の聖所は真の幕屋であり、イスラエルの人々によって地上に建てられた聖所はその「モデル」にすぎません。つまり、地上の聖所は神の幕屋のモデルでした。地球上に存在する真の聖域。

「1 さて、私たちが述べたことの本質は、天の陛下の御座の右に座されたこのような大祭司（イエス）が私たちにいらっしゃるということです。

2人間ではなく、聖所と、主が建てられた真の幕屋の奉仕者として。」

(ヘブライ 8:1,2) (強調、斜体追加)

したがって、地上の聖域で起こったことはすべて、天国の聖域で起こったことのモデルでした。ある儀式が地上で行われたということは、同じ儀式が天国でも行われたことを意味します。言い換えれば、与えられた地上の聖域は、神によってイスラエルの民に与えられ、そこで行われる儀式は、何世紀にもわたって天の聖所で起こるであろう現実の場面を例示しており、それは人間の救いのために神が立てた計画において基本的な役割を果たすことになる。

ダニエル 12 章の預言では、7 節で「亜麻布を着た人」について言及されており、天の聖所について言及しています。したがって、ダニエル 12 章を明確に理解するには、次のように判断する必要があります。

第 3 章 – ダニエル 12 の期間 – 過去か未来? 21

まさにこの表現が意味するものです。次に、地上の聖所の物体と儀式の意味を簡単に学び、聖書に示されている天の聖所の場面を描写する出来事と比較してみましょう。これはダニエル 12 章を理解するのに役立ちます。

イスラエルの人々が使用していた聖所は、神によってモーセに与えられました。出エジプト記 25 章から 31 章の記述によると、シナイ山。それは 3 つの部分で構成されていました。

- 外側アトリウム;
- 聖地: 7 本の金の燭台が置かれた燭台、ショーブレッドと呼ばれる 12 個のパンが置かれたテーブル、そして香の祭壇が置かれていた場所。
- 至聖所: 契約の箱が置かれていた場所。
それは神の栄光である「シェキナ」でした。

この聖域には、後にダニエル書 12 章の預言を理解する上で興味深い 2 つの儀式がありました。それは、継続的な捧げ物と贖いの日です。

継続的な捧げ物 (出エジプト記 29:38-45)は次の 2 つから構成されていました。毎日行われる子羊の犠牲。午前中に一頭の小羊が犠牲になり、午後にもう一頭の小羊が犠牲になりました。これらの犠牲を通して、イスラエルの人々は日々主に聖別され、いつか神の子羊であるイエスが地上に来て人々の罪のために死ぬことを思い出しました。継続的ないけにえに加えて、罪のためのいけにえとして他のいけにえが毎日ささげられました。これらの犠牲では、罪人が動物の頭に手を置くと、罪が象徴的に動物に移されました。

その後、その動物は、いつか罪のために死ぬキリストを表す罪人によって殺されました。その動物の血は、

それは容器に入れられ、司祭によって聖所の聖なる区画に運ばれ、聖書では「第二のベール」とも呼ばれる、天の聖所の聖所と至聖所を分けるカーテンに振りかけられました。この手順を通じて、赦された罪は象徴的に聖域内に預けられました。

このようにして、聖域には毎日、赦された罪がどんどん蓄積されていきました。これは、聖域の第二の幕に毎日振りかけられる血の一部によって表されています。

神はモーセに、祭司と呼ばれる神聖な奉仕に専念する男性だけが聖所の奉仕を行うべきであると指示しました。祭司の中から、主祭司、つまり大祭司となる人が神によって選ばれました（出エジプト記 28 章参照）。地上の聖所で奉仕するために神によって選ばれた最初の大祭司は、モーセの兄弟アロンでした（民数記 16 章と 17 章を参照）。祭司たちは人々の罪のための犠牲に関連する毎日の礼拝を行いました。大祭司は贖いの日の礼拝を行うという主な仕事をしていました。

一般の祭司の服装と大祭司の服装との間にも顕著な違いがありました。一般的な司祭の服装は、白い亜麻布のチュニックを腰でベルトで結び、頭にはやはり白い亜麻布でできた留め留めと呼ばれる一種のターバンを巻いていました。大祭司は 2 種類の服を着ていました。彼が毎日司式を務めた最も一般的な服装は、白いチュニックに青いストールを巻いたものでした（出エジプト記 28 章参照）。ストールには金の胸当てがあり、そこには 12 個の石が入っていました。衣服には留め継ぎも付いていました。

第3章 - ダニエル 12 の期間 - 過去か未来? 23

頭は白い麻糸で作られています。2番目の衣服は「神聖な亜麻布の衣服」と呼ばれ、贖いの日を司るためにのみ使用されました。レビ記 16 章の本文はこれを証明しています。

「償いの日」

2 そこで主はモーセに言われた、「あなたの兄弟アロンに、死なないように、常に聖所の中、幕の中、箱舟の上にある憐れみの座の前に入らないように言いなさい。というのは、私は慈悲の座の上の雲の中に現れるからです。

3 アロンは罪のためのいけにえとして雄牛、全焼のいけにえとして雄羊を携えて聖所に入る。

4 彼は聖なる亜麻布のチュニックを着、亜麻布のズボンを肌の上に履き、亜麻布のベルトを締め、亜麻布の留め具で身を覆う。これらは神聖な衣服です。彼は体を水に浸してから服を着ます

32 父に代わって祭司として仕えるために油そそがれ聖別された者は、亜麻布の衣、聖なる衣を着て、罪を償わなければならない。

33 彼は聖所、会見の天幕、祭壇のために罪を償うであろう。彼は祭司たちと会衆のすべての人々のためにもそれをしてくださるでしょう。」

(レビ記 16:2-4,32,33) (強調、斜体追加)

ユダヤ暦の7月10日に、贖罪の日の儀式が行われました。その中で聖所は象徴的に清められ、一年の間にその中に蓄積されたすべての罪が「浄化」されることとなります。すべての人々は、聖域内のすべての礼拝の中で最も厳粛なこの儀式に備える必要があります。この儀式は最高神のみによって執り行われた

祭司。彼は自分の罪と自分の家（家族）の罪のために雄牛を犠牲にし、聖域の至聖所にある箱舟の上にある贖罪の座にそのいけにえの血を振りかけました。そしてイスラエルの人々の罪のためにヤギをいけにえとしてささげ、そのいけにえの血を憐れみの座に振りかけました。

最後に、彼は2つの捧げ物（雄牛と山羊）の血を取り、それらを混ぜて祭壇の角に渡し、1年間に蓄積された罪から聖所を清めました。この後、大祭司は「スケープゴート」と呼ばれる別のヤギに手を置き、象徴的に聖域から取り除かれた罪をその動物に移し、砂漠に連れて行かれました。この儀式を通して、聖域は象徴的に浄化されました。

贖罪の日の儀式を執り行うために、司祭は先ほど見た「神聖な亜麻布の衣服」を着なければなりませんでした。

イスラエルの聖所と天の聖所の比較

地上の聖所の毎日の儀式と贖罪の日の儀式について簡単に説明しましたが、ダニエル 12 章にある「亜麻布を着た人」という表現の意味を理解するために、それらを天の聖所と比較してみましょう。

地上の聖所では、一般祭司（大祭司ではない）が亜麻布の衣服を着て全焼のいけにえを捧げました。地上の聖所の象徴において、全焼のいけにえはキリストの犠牲を意味しました。天の聖所には燔祭は存在せず、

第 3 章 – ダニエル 12 の期間 – 過去か未来? 25

なぜなら、本当の犠牲はカルバリのキリストによってすでに成し遂げられているからです。イエス・キリストは、世の罪を取り除く真の神の子羊です。したがって、地上の聖所で祭司たちが毎日行っている働きは、イエス・キリストがこの地上におられたとき、真の小羊として私たちのために死なれたときに、イエス・キリストによって行われたのです。ヘブライ人への手紙 7 章と 8 章に書かれているように、イエスは天に昇られた後、天の聖所で大祭司としての務めを始めました。

「22 まさにこの理由から、イエスはより優れた契約の保証人となったのです。

23 今、彼ら（古代イスラエルの祭司）は、死によって継続が妨げられているので、さらに多くなっている。

24 しかし、この人は永遠に続くので、変わらない祭司職を持っています。

25 したがって、イエスは、自分を通して神のもとに来る人々を完全に救うこともでき、常に生きて彼らのために執り成しをすることができます。

26 確かに、このような大祭司が得られるのは、私たちにふさわしいことです。聖であり、傷がなく、罪のない者であり、罪人から分けられ、天よりも高くされたのです。

27 この人は、大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえをささげる必要はありません。なぜなら、彼は自分をささげたときに一度だけこれをしたからです。

28 というのは、律法は弱い立場にある人々を大祭司に任命するからですが、律法の後に与えられた誓いの言葉は、永遠に完全な御子を任命するからです。」

(ヘブライ 7:22-28) (強調、斜体追加)

「1 さて、私たちが述べてきたことの本質は、私たちにはそのような大祭司（イエス）がいて、その王座の右に座っていたということです。

天上の威厳よ、

2人間ではなく、聖所と、主が建てられた真の幕屋の奉仕者として。

(ヘブライ 8:1,2 - アルメイダ学習聖書 - 1999)」 (強調あり)

地上の聖所にいる大祭司は、普通の祭司とは異なる衣服を着ていました。大祭司の服は刺繍入りのチュニックで、その上に司祭用のストールが巻かれていました。祭司のストールの上には胸当てがあり、そこにはイスラエルの12部族の名前が刻まれた12個の石が入っていました。この衣服を着て、大祭司は地上の聖所の聖室で毎日奉仕をしました。後で見るように、大祭司は贖罪の日にのみ地上の聖所の至聖所に入ることができました。

天上の聖所でも、地上の聖所で起こったことと同じように、大祭司イエス・キリストが聖なる区画で奉仕をされました。

黙示録 1:12-15:

「12 誰が私に話しかけているのか見ようと振り向くと、七つの金の燭台が見えました。

13 そして燭台の真ん中に、祭服を着て胸に帯を締めた人の子のような人がいた。

金。

14 彼の頭と髪は白い羊毛のように、雪のように白かった。目は炎のようだ。

15 足は、まるで炉で精錬されたかのように、磨かれた青銅のようです。その声は、多くの水の声のようなものです。

(黙示録 1:12-15)」 (強調あり)

使徒ヨハネは幻の中で、私たち的大祭司イエスが栄光を受けて、天の聖所の金の燭台のそばに立っているのを見ました。あなた

第3章 - ダニエル 12 の期間 - 過去か未来? 27

天の聖所からの金色のランプは、地上の聖所の聖なる場所にある燭台によって表されました。

したがって、イエスは天の聖所の聖なる区画にいました。

イエスは「タールの衣服」を着ていたため、毎日の礼拝を司るのに使われた衣服を着ていました。タールローブには「カラフルなローブ」という意味もあります。創世記には、ヤコブが「タール」チュニックを作ったことが記されています（創世記 37:3 - ジョアン・フェレイラ・デ・アルメイダの改訂および最新訳を参照）。聖書の他のバージョンでは、このチュニックはさまざまな色のチュニックとして示されています。したがって、黙示録の中で、天の聖所の聖室の燭台の隣でヨハネが見たとき、私たちの大祭司であるイエスが着ていた服装は、地上の高位者の服装と同じようにさまざまな色であったことが黙示録に示されています。司祭は一年中ほぼ毎日勤務していました。

黙示録の幻では、天の聖所での贖罪の日に相当する期間はまだ始まっていませんでした。なぜなら、これが起こったとき、イエスは聖なる区画を出て、天の聖所の至聖所に行くことになるからです。

地上の聖所の贖いの日に、地上の大祭司はタールの衣服を脱ぎ、「神聖な亜麻布の衣服」を着てイスラエルの民のために贖罪の奉仕を行いました。同じことが天の聖所でも起こるはずですが、天の聖所で贖罪の日に相当する期間が始まると、大祭司イエス・キリストは「神聖な亜麻布の衣」を着て、天の聖所の至聖所に入りました。その時から、「調査審判」とも呼ばれる、天上の聖域の浄化が始まることになる。イエスは「調査判決」が終わるまで神聖な亜麻布の衣服を着たまになります。

SDA 安息日学校教師からのレッスンのテキスト - クォーター
2002 年 4 月から 6 月、2002 年 5 月 5 日、本の本文を引用
ジャック・ドゥーカン著『ダニエルの秘密』は、このことを再確認しています。

「レビ記の雰囲気は、「日々の犠牲」、「罪」、「聖域」に関わる小さな角の行動でさらに認識されます。ダニエル 8:11 と 12。この箇所では、いけにえの制度の最高の役人である大祭司についても言及されています。「君」または「君の君」（サール ;11節と25節）と訳されているヘブライ語は、大祭司を表す専門用語です。エズラ記 8:24。ダニエル書では、この言葉はキプールの日に司式する大祭司として亜麻布の服を着たミカエルを指します(ダニエル10:5、13、21、12 :1)。レビ記 16:4。」

(IASD 安息日学校のレッスン、5 月 5 日、66 ページ / ダニエルの秘密 - 著者:
Jacques Doukhan - ページ 125 および 126)

神聖な正典を構成する聖書の書を書くよう預言者たちに靈感を与えたのは、「神の言葉」イエスであったことを私たちは知っています[ヨハネ 1:1]。イエスが神の「言葉」と呼ばれるのは偶然ではなく、イエスが言葉を使う極めて優れた能力を持っているためであり、人間の言葉よりもはるかに完璧で、不完全で不正確で欠陥のある天国の言葉を知っているからです。したがって、聖書が誰かや何かを表すためにその同義語ではなく単語を提示するたびに、これはその単語が特別な意味を持ち、人間が理解できるようにその単語を聖書の他の節と結びつけているということを私たちは理解しています。神が私たちに明らかにしなければならぬ素晴らしい真実。聖書の中でイエスを表すさまざまな名前を確認すると、このことがより明確に理解できます。そのうちのいくつかを紹介します。

第 3 章 – ダニエル 12 の期間 – 過去か未来? 29

- インマヌエル、「神が私たちと共におられる」という意味[マタイ 1:23]。
- ミカエル、サタンとその軍勢と戦う際にイエスを模範としている[黙示録 12:7]。

- キリスト[黙示録 12:10];
- 神の子羊、ユダヤ人の犠牲制度の典型としてイエスを提示[ヨハネ 1:29]。

- 亜麻布を着た男性。天の聖所におけるイエス・キリストの衣服を強調し、本文を「贖罪の日」の司祭奉仕と結びつけている[ダニエル10:5,6]。

聖書がイエスに特定の名前を付けるたびに、それは偶然ではありません。さまざまな状況でイエスに与えられた名前は、私たちが読んでいる各テキストをより深く理解し、それを聖書の他の箇所と結び付けて、その正しい意味を理解するのに役立ちます。

私たちは今、黙示録 1 章 12-17 節で、天の聖所の聖なる区画に、ターラーのローブを着たイエスが描かれているのを見ました。

ダニエル 10 章 5 節と 6 節では、イエスは「亜麻布を着た人」として描写されています。

「5目を上げて見ると、亜麻布を着た男がいて、その肩にはウファズからの純金が巻かれていた。

6 彼の体は緑柱のようで、顔は稲妻のようで、目はたいまつのように、腕と足は磨かれた青銅のように輝いていました。そして彼の言葉の声は多くの人々の騒音のようでした。」

(ダニエル 10:5,6) 」 (強調あり)

ダニエル 10:5,6 の記述はイエスの服装を強調しています。

もちろん、聖書は偶然にこれを行ったわけではありません。彼女は、イエスが祝日に着る「神聖な亜麻布の衣服」を着ていることを強調しました。

償い。黙示録は天の聖所の聖所にいるイエスを描写していますが、ダニエルは天の聖所で贖罪の日に使用される「神聖な亜麻布の衣」を着ている大祭司イエスを描写しています。

したがって、次のように結論付けられます。

- 黙示録の幻の中で、使徒ヨハネは、天の聖所での贖罪の日の前に、聖室の金の燭台の隣で奉仕しているイエスを見た(黙示録1:12)。
- 預言者ダニエルは、天の聖所で贖罪の日に相当する期間にイエスに会った（イエスはすでに贖罪の日のみで使用される「神聖な亜麻布の衣服」を着ていたため）、したがって、天の聖所の至聖所で奉仕していた。天の聖所（ダニエル10 :5）。

2300 の夕と朝の預言を研究すると、天の聖所での贖罪の日は 1844 年の 10 月に始まったことがわかります。したがって、天の聖所での贖罪の日は 1844 年の期間に相当するということになります。1844年に始まり、今日まで続く時間。したがって、「亜麻布を着た男」という表現が、天の聖所での贖罪の日（1844年に始まった）を司るイエス・キリストを表すのであれば、それは1844年以降のある時期のイエスも表すことになります。この概念を強調するために繰り返します。それはダニエル 12 章の預言を理解する上で基本的に重要であるためです。

聖書でイエスが亜麻布を着た男性として描かれているとき、これは 1844 年以降の大祭司であるイエスを表しています。それは、天の聖所の贖いの日が1844年に始まったからです。

第 3 章 – ダニエル 12 の期間 – 過去か未来? 31

この本の付録 1 には、ここで到達した結論を確認するために、「亜麻布を着た男」という表現を含むすべての聖書箇所を分析し、コメントしたリストが含まれています。

それらについて知りたい場合は、この付録を読むことをお勧めします。

第4章

その時、ミゲルが立ち上がる…。

前の章では、理解を容易にするためにダニエル 12 章の預言を 3 つのブロックに分けました。彼らは：

ブロック 1:

- この章の 1 節から 3 節で構成され、一連の出来事を報告します。

ブロック 2:

- 4節、8節、9節で構成されており、次のような預言があったことを告げています。
ダニエル 12 章は、「終わりの時」が始まったときにのみ理解できました。

ブロック 3:

- ダニエル 12 章の時代が含まれています。

この章では、ダニエル 12 章の幻の最初のブロック (1 ~ 3 節) に記述されている出来事を研究してみます。そのために、次の聖句をもう一度読んでみましょう。

「終わりの時は

1 その時、あなたの民の子供たちの擁護者である偉大な君主ミカエルが立ち上がるでしょう。そして、それまで国家が存在して以来、決してなかったような大きな困難の時代が来るでしょう。しかし、その中で

第4章 その時、ミゲルは立ち上がる… 33

やがて、あなたの民、この本に書かれているすべての人々が救われるでしょう。

2 地の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥と永遠の恐怖に陥るだろう。

3 賢い人は大空の輝きで輝きます。そして、星のように、永遠に多くの人を義に導く者たち。」

(ダニエル 12:1-3) (強調)

ダニエル 12 章に記されている幻の中で、天使はヨハネに与えられた物語を「その時」という言葉で始めます。この表現は、ダニエル書 12 章の冒頭とダニエル 11 章 40 節で始まる部分を結び、この章の終わり (45 節) まで続き、将来の出来事を語っています。ダニエル 11 章はこの本の研究の対象ではないため、ダニエル 12 章 1 節の「このとき」という表現を理解するためにダニエル 11 章 40-45 節の意味を説明することに重点を置きません。ダニエル 12 章 1 節の「このとき」という表現の意味は、この本の第 5 章を学ぶと明らかになるでしょう。

ダニエル 12:1-3 の残りの部分を理解するには、そこに示されているいくつかの用語の意味を理解する必要があります。彼らは：

- a) ミゲル。
- b) 苦悩の時。
- c) 賢明です。

a) マイケル

「ミカエル」という用語は聖書の他の部分にも登場しており、サタンと戦っているときにイエスを指すのに使用されています。のテキスト

黙示録 12:7-10 には、この名前の適用例が示されています。

「マイケル」とはイエスのことを指します。

「7天で戦いがあった。マイケルと彼の天使たちはドラゴンと戦いました。ドラゴンと彼の天使たちも戦いました。

8 しかし、彼らは勝利しませんでした。彼らの居場所はもはや天国にはありませんでした。

9そして、大いなる竜、つまり悪魔ともサタンとも呼ばれる、全世界を誘惑するあの古代の蛇が、そうです、彼とその天使たちも地に投げ落とされました。

10 そのとき、私は天から大きな声がこう告げるのを聞いた。

今、私たちの神の救い、力、王国が到来した

そしてあなたのキリストの権威、

私たちの兄弟たちを告発した者は追放されたからです。

昼も夜も彼らを告発するのは同じ者、

私たちの神の前で。」

(黙示録 12:7-10) (強調)

この文書は、キリスト（「ミカエル」と呼ばれる）とその忠実な天使たちと、サタンとその反抗的な天使たちとの間で起こり、その結果、サタンとその天使たちが天から追放されたことを説明しています。

その後、同じ本文の中で、「今、私たちの神の救いとキリストの権威が到来した」という記述があり、本文で言及されているミカエルという名前が戦いに勝ったキリストを意味していることが明らかになります。そしてサタンとその反逆的な天使たちを天から追放しました。

b) 苦悩の時

まず、「困難な時」とは何か、あるいはそれが何を意味するのかを理解する必要があります。いつ始まるのかも知る必要があります

第4章 その時、ミゲルは立ち上がる… 35

そしてそれがいつ終わるのか、つまり、どのような出来事があるのか、その始まりと終わりを特徴づけるのか。

苦難の時とはどういう意味ですか？

「苦難の時」とは、その名が示すとおり、神の民が経験する深い苦しみの時を意味します。それは神の民の救出によって終わります。聖書はエレミヤ 30 章 4-8 節で、イスラエルの人々に関する預言の中でこの「苦難の時」についてコメントしており、それは現代にも当てはまります。

その中で、イスラエルの民は「霊的イスラエル」として知られる、地球の歴史の終わりの時代の神の民を代表しています。

「4 主がイスラエルとユダに関して語られた言葉は次のとおりである。
5 主はこう言われる、「わたしたちが聞くのは、平安の声ではなく、震えと恐怖の声です。」

6 敬虔な者たちよ、尋ねて、人に陣痛があるかどうかを調べてください。
では、なぜ私はすべての男性が出産する人のように腰に手を当てるのを見のでしょうか？そしてなぜ彼らの顔は皆青ざめたのでしょうか？

7 ああ！その日は本当に素晴らしい日であり、これに匹敵する日は他にありません。ヤコブにとっては苦難の時です。しかし、彼はそこから解放されるでしょう。

8 その日、わたしは彼のくびきをあなたの首から引きちぎり、あなたの杖を折る、と万軍の主は言われる。そして外国人がこれらの人々を奴隷にすることは二度とありません。」

(エレミヤ 30:4-8) (強調あり)

「苦難の時」とそれに関連する出来事の意味を完全に理解するには、どのような出来事が「苦難の時」の始まりに先行する、あるいはその前兆となるのかを知ることが重要です。

マタイ 24 章に記されているイエスの預言的な説教には、「苦難の時」を予兆するこれらの出来事が何であるかを知らせる預言が含まれています。これは古代イスラエルの人々に当てはまり、終わりの日にも当てはまります。イスラエルの人々にとって、イエスの預言は西暦 70 年に起こったエルサレム市の破壊に言及していました。（キリストの後）。将来の神の民にとって、この預言は、「苦難の時」で最高潮に達する厳しい迫害に続いて逃亡の時を描写しています。

これらの出来事を描いたマタイ 24 章の預言的説教の一部を以下に示します。

「15したがって、あなたが聖所で預言者ダニエルによって語られた荒廃という忌まわしい行為を見るとき（これを読む人なら誰でも理解できるでしょう）、

16 それから、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。

17 屋上にいる者は、家から物を取りに降りてはなりません。

18 野原にいる者は、外套を取りに戻ってはならない。

19 当時、妊娠している人たちと授乳している人たちは災いです。

20 あなたの飛行が冬や安息日に行われないように祈りなさい。

21 その時、世の初めから今に至るまで一度もなかった、そして今後も起こらないような大患難が起こるからです。

22 もしその日が短縮されなかったら、誰も救われなかったでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、その日は短縮されるでしょう。

29 その日の艱難の直後、太陽は暗くなり、月は光を与えず、星は大空から落ち、天の力は揺るがされるであろう。」

(マタイ 24:15-22,29) (強調)

啓示の文書は預言的な説教を適用しています。

マタイ 24 章、未来のために:

第4章 その時、ミゲルは立ち上がる… 37

「都市からの脱出の標識」

私たちが昔の弟子たちと同じように、荒涼とした寂しい場所に避難せざるを得なくなる日はそう遠くありません。

ローマ軍によるエルサレム包囲がユダヤ人キリスト教徒にとっての脱出の合図であったのと同様に、教皇の休息日を義務化する法令で我が国が権力を掌握したことは、我々全員に対する警告となるだろう。そうすれば、大都市を離れる時が来ます。それは、小さな都市を離れて山間の寂しい場所にある隠居住宅に住むための準備段階です。」

(厳選された証言 - Vol. 2, 166 ページ) (強調)

啓示の本文では、エルサレム包囲を、日曜日の休息を義務付ける米国で制定される法律と比較している。日曜日を守ることを課す法律なので、日曜日法と呼ぶことができます。今日、アメリカ合衆国は依然として信教の自由の国です。したがって、日曜日法はまだ制定されていません。しかし、ジョージ・W・ブッシュ大統領の現政権内に、日曜日の遵守を義務の日として課す法律を議会で承認する動きがある兆候がすでに感じられている。その中で最も強力なものは、ジョージ・W・ブッシュ政権の初日に与えられ、彼は日曜日を公式の祈りと感謝の日であると宣言した。私たちは、このような運動が聖書の出エジプト記の内容に反対していることを知っています。

20:8-11:

「8安息日を聖く保つために、安息日を覚えておいてください。

9 あなたは六日間働いて、すべての仕事をしなさい。

10 しかし、七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたも、あなたの息子も、娘も、あなたも、どんな仕事もしてはなりません。

使用人でも、召使でも、動物でも、門の中の見知らぬ人でもありません。

11 主は六日のうちに天と地と海とその中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。したがって、主は安息日を祝福し、聖なる日とされました。」

(出エジプト記 20:8-11)

日曜法の公布後も、安息日を守ることに忠実な人々は、国家の決定に反して行動することになるため、迫害されることになる。したがって、この啓示は、アメリカ合衆国の日曜法は、安息日を守る者たちにとって、迫害がより厳しくなる大都市を離れ、小さな都市や田舎に移るべきしるしとなるだろうと述べている。

安息日と神の律法を守る者に対するこの迫害のピークは、「苦難の時」に頂点に達します。マタイ 24:15-22 と 29 の本文をもう一度読んで、自分の理解を本文と合わせて読むと、よりよく理解できるでしょう。

「15 それゆえ、あなたが聖所で預言者ダニエルによって語られた荒廃という忌まわしい行為を見るとき（読む人なら誰でも理解するであろう）、」

[すでに実証したように、イスラエルの民にとってのエルサレムの包囲/将来の神の民の日曜日の律法を意味します]

- 「16 それから、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。
- 17 屋上にいる者は、家から物を取りに降りてはなりません。
- 18 野原にいる者は、外套を取りに戻ってはならない。
- 19 当時、妊娠している人たちと授乳している人たちは災いです。

第4章 その時、ミゲルは立ち上がる… 39

20あなたの逃亡が冬や安息日に起こらないように祈りなさい。」

[黙示録に示されているように、安息日と律法を守る神の民は大都市から逃げなければなりません]

「21その時、世の初めから今に至るまで一度もなかった、そしてこれからもないような大患難が起こるからです。」

[ダニエル書 12:1 に記されているように、今は「それまで国家が存在して以来、かつてなかったような困難の時」です。

「22 もしその日が短縮されなかったら、誰も救われなかったでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、この日は短縮されるでしょう。」

[この文章は、「困難の時」が短期間しか続かないことを示唆しています]

マタイ 24:21-22 でイエスはヤコブの「苦難の時」を、神の民にとってかつてないほどの迫害の時であったと述べています。しかし、ダニエル 12 章 1 節の預言が示しているように、「苦難の時」の終わりには、安息日を守る神の民は解放されます。

「…しかしその時、あなたの民、本に書かれている人々は皆救われるでしょう。」

『大論争』という本に収められている啓示の言葉は、「苦難の時」の終わりとして神の民の救出を特徴づける出来事を詳しく述べています。これらの出来事をより深く理解するために、次のテキストを提示します。

「第七の疫病と特別な復活」

人間が地球上に存在して以来、一度も経験したことのないような大地震が起きています。今回の大地震もそうでした。『黙示録 16:18。大空が開いたり閉じたりしているように見えます。神の御座の栄光は大気を貫くように見えるでしょう。山々は風に吹かれる葦のように波打ち、割れた岩が四方八方に散らばっています。...地球全体が隆起し、海の波のように広がります。その表面が割れてきています。その基盤そのものが崩れ去ってしまったようだ。山脈が崩壊しています。

人が住む島は消滅する。彼らの咎によってソドムのような港となった港は、荒れ狂う海に飲み込まれていく。...それぞれ「一タラントの重さ」の大雹が破壊の働きをしています（19節と21節）。 ...

墓が開かれ、「土の塵の中で眠っている人々の多くが目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥辱と永遠の軽蔑に陥るだろう」。ダニエル 12:2。第三の天使のメッセージを信じて死んだ人は皆、神が律法を守った人々との間に築いた平和の契約を聞くために、栄光を受けて墓を後にします。「彼を刺した同じ者たち」（黙示録 1:7）、キリストの苦しみをあざけり嘲笑した者たち、そして神の真理と民の最も痛烈な敵者たちが、再び立ち上がって、その栄光の中でキリストを見つめ、キリストに与えられた栄誉を見るのだ。忠実で従順な人。

(『大論争』、637 ページ) (強調あり)

上の文章は、「苦難の時」の終わりを告げる出来事を明確に描写しています。記述されている出来事の中で、墓が開かれ、2つのグループの人々が復活します。

- 1- 第三の天使のメッセージを信じて亡くなった人たち
黙示録 14:9-12、聖書の安息日を守り、

第4章 その時、ミゲルは立ち上がる… 41

彼らは1844年に宣言が始まった第三の天使のメッセージを説教し、平和の契約を聞き、キリストの再臨を見るために復活し、栄光を受けました。

2. カルバリでイエスを刺し、イエスの苦しみをあざ笑った邪悪な人々は、あらゆる時代の真理の最も恐ろしい敵たちとともに復活し、栄光に満ちたイエス・キリストの再臨と、神に忠実であり続けた人々の報いを見るために復活します。神の法。

これはキリストの再臨の際に起こる復活ではないことを強調することが重要です。すべての聖人が復活するわけではないため、これは部分的な復活です (第三の天使のメッセージを信じて死んだ人だけが復活します)。

注:第三の天使のメッセージの意味をさらに詳しく知りたい場合は、ダニエル・ベルヴェデーレ神父によるコース「黙示録の黙示録」のレッスン 18 と 19 を学ぶか、第7大学の牧師に聖書研究を依頼することをお勧めします。アドベンチスト教会の日。

いつから苦難の時代が始まるのでしょうか？

ダニエル 12 章の幻は、天使が預言者にこう言うところから始まります。「その時、ミカエルが立ち上がる…そして苦難の時が来るだろう… (ダニエル 12:1)」。聖書の本文は、(この章ですでに学んだように)ミカエル、つまりイエスが立ち上がるときに「苦難の時」が始まることを私たちに明らかにしています。イエスがいつ復活されるかを知っていれば、苦難の時がいつ始まるかがわかります。

しかし、私たちはまず、なぜ神が復活されるのかを知る必要があります。これを理解するために、前の章で学習した天の聖域に関するいくつかの概念を思い出してみましょう。

- 1 - 天の聖所の「贖罪の日」は、1844年に始まり、天の聖所におけるキリストの働きが終わるまでの期間に相当します。したがって、私たちが生きている今の時代は、天の聖所における「贖罪の日」に相当する時代なのです。

- 2 - 今日（2002年）、私たちの大祭司であるイエスは、天の聖所の至聖所にいて、私たちの罪の贖いを行っています。この作品は「捜査判決」とも呼ばれます。この判決において、イエスは書物に含まれる記録を分析し、その記録に従って、十字架上で犠牲を受け入れた男女の名前と、人類の救いのために確立された計画を「神の書」に書き記しました。「いのち」（ダニエル 7:9-10、13-14、黙示録 20:15 参照）。「いのちの書」に名前が書かれている者は皆救われます。

これは、イエスが今日御父の前に座って、親愛なる読者の皆さんも含め、各人の生死を決定する「調査判決」を行っていることを意味します。イエスは捜査判決の執行を終えると立ち上がるでしょう。その後、事件全体が決定されます。神の御前で私たちのためにイエス・キリストがとりなしてくださることはなくなります。そのとき、人間に恵みの時間はもはや存在しないので、「恵みの扉」は閉じられると言えます。この啓示は、以下に示すいくつかのテキストでこれを裏付けています。

「諸国民の怒り、神の怒り、そして死者を裁く時が、別々の別個の出来事であり、互いに続いていくのを私は見ました。さらに、ミゲルは目覚めておらず、かつてないほどの苦悩の時はまだ始まっていなかった。国々は今怒っていますが、私たちの大祭司[イエス]が怒るとき、

聖所での働きを完了すると、彼は立ち上がって、その服を着ます

第4章 その時、ミゲルは立ち上がる… 43

復讐の衣、そして最後の七つの災いが降り注がれるだろう。」

(初期の著作、36 ページ) (強調)

このテキストではミカエルと呼ばれるイエスは、1844 年に天の聖所の至聖所で始まった人類の罪の贖いの業が完了したときに復活します。その後、恵みの扉が閉まり、「苦難の時」が始まります。」が始まります。：

「この困難の時があれば、あらゆる事件に決着がつきます。悔い改めない者にはもはや恵みも慈悲もありません。生ける神の印章が神の民に与えられるであろう。」

(最終的な出来事、222、223 ページ) (強調)

「苦難の時」は非常に困難な時であり、安息日を守る者に対する迫害は頂点に達します。

「問題の時」がどのようなものか、そしてこの時に関連する出来事が何であるかをすでに研究したので、その後の推論を容易にするために、私たちが到達した結論を要約しましょう。

- 日曜日の律法に従えという国家からの圧力屈せず、安息日と神の律法を守る人々への迫害が最高点に達する時が来た。
- それは、私たちの大祭司であるイエスが天の聖所で調査判決の働きを終えるときに始まります。現時点では、悔い改めない罪人にはもはや恵みはありません。すべての事件はすでに生死が決定されている。の名前

聖人たちは「いのちの書」に刻まれるでしょう。悪人の名前は「命の書」には書かれませんが、彼らはすでに火の湖である第二の死を経験することを宣告されています（黙示録20:14参照）。

- それは、神の民の救出と部分的な復活で終わります。このグループは、第三の天使のメッセージを信じて死んだ人々（黙示録 14:9-12 参照）と、イエスを突き刺し、その苦しみを嘲笑した邪悪な人々の 2 つのグループで構成されています。あらゆる時代において最も恐るべき真実の敵たちとともに、カルバリで。すべての聖人が復活するわけではないため、これは部分的な復活です。

第三の天使のメッセージを信じて死んだ聖人だけが復活します。

c) 賢い

ダニエル 12 章の示現の 3 節では、人々のグループとして「賢者」という用語が示されています。また、「多くの人を正義に導く」人々として別のグループも紹介されています。

これを理解するためにこの聖句をもう一度読んでみましょう。

「3賢い者は大空の輝きで輝きます。そして、星のように、永遠に多くの人を義に導く者たち。」

(ダニエル 12:3) (強調)

本文には「賢い者は輝く」、「星のように多くの人を義に導く者」と記されています。私たちは星が輝くことを知っています。したがって、「賢い人たち」と「多くの人を義に導く人たち」は、同じグループを構成します。

第4章 その時、ミゲルは立ち上がる… 45

輝く、つまり、彼らは栄光を受けるでしょう。聖書がイエスの栄光を表現するたびに、イエスは輝き、その顔は星、太陽のように輝いていることを思い出しましょう（ダニエル10:5,6;黙示録1:12-18参照）。

私たちは、悪人が栄光を受けることは決してないことを知っています。したがって、「賢者」と「多くの人を義に導く者たち」からなる集団は、「苦難の時」を生き通した聖徒たちの集団でしかありえません。したがって、ダニエル 12 章 3 節は、安息日と神の律法を守り、苦難の終わりに起こる救出の時に生きている聖徒たちの栄光を報告しています。

ダニエル 12:1-3 の出来事の要約:

ここで、理解を確立するために、ダニエル 12 章 1 ブロック (1 節から 3 節) について理解していることを要約します。

「ミカエル」(イエスのこと)は、天の聖所の至聖所で、私たちの罪の贖いの働き(調査判決と呼ばれる)を終えた後、復活し、その後「苦難の時」が来るでしょう。これまでになかったような。この時、安息日と神の律法を守る者たちへの迫害は頂点に達し、彼らは救いを求めて叫びます。

「苦難の時」の終わりには、神の民は救われ、命の書にその名が記されているように、悪人の手に落ちることはありません。そのとき、第三の天使のメッセージを信じて死んだ聖徒たちは、栄光を受けてよみがえって、キリストの再臨を見るでしょう。キリストを突き刺し、十字架上で苦しみをあざ笑った者たちも復活します。

あらゆる時代における真理の最も厳しい敵である彼らは、主が王の中の王、主の中の主として栄光のうちに戻ってくるのを見ることになり、永遠の恥と恐怖にさらされるでしょう。なぜなら、彼らは自分たちの救いのためにキリストが提供した犠牲を拒否したことがわかるからです。永遠の死を宣告される。

賢い人たち、つまり神の側に立って神の律法を守り、「苦難の時」を生きて乗り越えた人たちは栄光を受けるので、大空の輝きのように輝くでしょう。

第5章

これらの驚異はいつ実現するのでしょうか？

神の民の最終的な解放と勝利を描いたダニエル書 12 章の 1 ブロック (1 節から 3 節) に記述されている素晴らしい出来事を報告した後、天使はダニエルに、終末の時まで預言の言葉を封印するように言います (4 節)。その後、5 節と 6 節にあるように、ダニエルは幻について報告を続けています。

「5 そこでダニエルが見ると、ほかに二人が立っており、一人は川の一方側に、もう一人は川の反対側に立っていた。」

6 そのうちの一人が、川の水辺に立っている亜麻布を着た人に言った、「これらの不思議はいつ実現するのでしょうか。」」

(ダニエル 12:5,6)

ダニエルは、他の二人の天使を見ます。1 人は川の片側に、もう 1 人は川の反対側にいます。6 節で「亜麻布を着た人」として描写されているイエスは、川の水の上に立っていました。

そこで天使の一人がイエスに尋ねます、「これらの奇跡はいつ実現しますか？」この質問は、前の章で学んだ 1 節から 3 節で語られている次のような素晴らしい出来事に言及しています。

- ミゲルが立ち上がる。
- 苦悩の時。
- 神の民の最終的な解放。

理解を容易にするために、天使の質問を次のように書き直すことができます。

イベントはいつ実現しますか: ミゲルは立ち上がるでしょう、そして、神の民の苦しみと解放?

この天使の質問を分析すると、ダニエル 12 章 1 節から 3 節に記述されている出来事がいつ成就し始めるかについてではなく、「亜麻布を着た人」であるイエスに尋ねていることがわかります。これは、この質問に関してヘブライ語の原文をより適切に翻訳している聖書の他のバージョン、たとえば欽定訳聖書を分析すると、より明確に理解できるようになります。

「この驚異が終わるまであとどれくらいかかるだろうか?」をポルトガル語に翻訳すると次のようになります。

「これらの驚異を完成させるにはどれくらい時間がかかりますか?」

「亜麻布を着た人」であるイエスは、1節から3節に描かれている奇跡が完了するまでにどのくらいの時間がかかるかを告げる天使に答えています。

「亜麻布を着た男（イエス）が川の水面に立っていましたが、そのとき彼は右手と左手を天に上げ、永遠に生きる方にかけて、しばらくするとこうなると誓ったのです」、2回半。そして聖なる民の力の破壊が終わるとき、これらのことはすべて成就するでしょう。」(ダニエル 12:7) (強調)

聖書 - ジェームズ王欽定訳聖書は、ヘブライ語の原文により忠実であり、7 節の終わりを、この節で示されている期間が 1 節から 3 節で言及されている奇跡の終わりを示すものであることがより明確になるような形で示しています。ダニエル 12 章の:

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 49

「…そして彼が聖なる民の力を分散させることを達成したとき、これらすべてのことは完了するでしょう。」 - トラドゥジンド、テモス:

「そして神が聖なる民の力を分配し終えるとき、これらすべてのことは達成されるでしょう。」

このように、イエスは天使の質問に答えて、ダニエル書 12 章 1 節から 3 節に描かれている出来事が終わりを迎えるまでの時間を告げていることがわかります。1 節から 3 節に記されている最後の出来事は神の民の救出と部分的な復活であるため、これらはイエスの応答に記されている時代の終わりに起こる出来事です。これを理解しやすくするために、イエスの反応を図にしてみました。

天使はこう尋ねます。

- これらの奇跡はいつ実現しますか（マイケルの復活、苦悩と解放の時/部分的な復活）？

イエスはこう答えます。

[一拍、二拍、半拍]

年？	救出と部分的な復活、これらのことは成就します。」
「一時間経って、二回半経って…」	

しかし、7 節で天使に与えられたイエスの答えは、その期間だけに限定されたものではありません。

イエスは天使にもこう言いました。

「そして聖なる民の力の破壊が終わるとき、これらのことはすべて成就するでしょう。」

このように、イエスは天使の質問に対して2つの答えを与えたことがわかります。さらに言えば、イエスは答えを平行している、つまり、イエスが言及した期間（「一回、二回、そして半分」）が起こると同時に、イエスが言及した出来事が起こる（「聖なる民の力の破壊が終われば」）。したがって、イエスは、神の民の救出と部分的な復活、つまり1節から3節で述べられている「不思議な出来事」の終わりを示す出来事は、イエスが言及した2つの出来事（「一度、二度」）が起こったときにのみ起こることを明らかにされました。「1回と1時間半」と「聖なる民の力の破壊が終われば」が満たされます。よりよく理解するために、この推論を以下の表形式にまとめます。

天使はこう尋ねます。	イエスは天使にこう答えます。	
これらの驚異はいつ実現するのでしょうか？ （ミカエルの復活、神の民の苦悩と救出の時）	答え1：しばらくすると、2拍半拍…。 答え 2a:そして人々に与えられた力の破壊が終わるとき 聖なる…	これらすべてが実現されます。 (ダニエル 12:7)

教訓的な理由から、この章の順序で、次の2つの答えのそれぞれの意味を個別に分析します。

イエスは天使にこう言いました。

答え1 - 「それは1回、2回、30分後です」

答え2 - 「そして聖なる民の力の破壊が終わるとき、これらすべてのことは成就するでしょう。」

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 51

5.1 - 1拍、2拍、そして半拍の後...

イエス様が出した2つの答えのうち、「答え1」は「1回、2回、1回半」という期間を指します。

「ある時」という表現は、ユダヤ暦の一年を意味すると理解されています。聖書はダニエル 11章13節でこのことを明らかにしています。

「というのは、北の王は戻ってきて、最初よりも多くの群衆を野原に送り込み、一定期間、つまり何年も経ってから、大軍と豊富な兵糧を率いて急いで来るからである。」

(ダニエル 11:13) (強調)

イエスは天使に対する答え (7節)の中で、「一回、二回、そして半回」、つまり三回半続く期間について言及しています。ユダヤ暦が 360 日であることを考慮すると、イエスがダニエル 12 章 7 節で言及した時間の価値は次のように計算できます。

聖書の表現	時間の価値
時間	1年 = 360日
半分の時間を2	2年 = 720日
回	半年 = 180日

合計日数: = 360 日 + 702 日 + 180 日 = 1260 日

多くの聖書学者は、聖書が日数を期間として言及する預言を提示しているとき、預言の中で記述されているこれらの日数は文字通りの年、つまりそれぞれの年に対応していることを理解しています。

1 日は 1 年に相当します。この推論は「日年原理」と呼ばれます。この推論の例として、黙示録 12:6 のテキストを引用できます。

「しかし、その女性は砂漠に逃げました。神はそこで千二百六十日間彼女を養えるように彼女のために場所を用意してくださったのです（黙示録12 :6ーアルメイダスタディバイブルー1999年）」。

この文書では、預言の 1260 日は、西暦 538 年に始まった教皇権の 1260 年間の覇権として理解されています。そして、西暦 1798 年に終わりました。

ただし、この規則には例外があります。例外の例は、神がネブカドネザルに対して語った預言の記述です（ダニエル 4:32-37 参照）。神は「七回」、つまり預言的な七年がネブカドネザルを越えると言われました。エレン・G・ホワイトの文章から、これらの 7 年間は文字通りの 7 年間に相当する、つまり、日年原則は適用されないことがわかりました。したがって、預言的な表現「時」は文字通りの日としても理解できます。したがって、ダニエル 12 章の「時」が文字通りの日に相当するのか、それとも一年のうちの何日に相当するのかをどのように安全に解釈できるのでしょうか。

この本の第 3 章で天の聖域について学んだことを思い出してみましょう（このレビューを読んだ後に疑問がある場合は、この本を読み続ける前に第 3 章をもう一度読むことをお勧めします）。

地上の聖所で、大祭司は贖罪の日の儀式を執り行うために、距骨の衣を脱いで「神聖な亜麻布の衣」を着ました（レビ記16:2-4,32-33）。私たちの偉大な大祭司であるイエスは、地上の聖所で起こったことの例に従い、「聖なる亜麻布の衣」を着て主の贖いの日の礼拝を始められました。

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 53

天の聖域。天の聖所における贖罪の日に相当する期間は、1844年に始まりました。聖書はイエスを「亜麻布を着た人」（ダニエル10:5-6）と呼んでこれを裏付けています。それは、天の聖所における贖罪の日に相当する期間、つまり 1844 年までの期間です。したがって、ダニエル 12 章で天使が与えた幻では、イエスは天使の質問に答えた 1844 年以降の時代にいます。ダニエル 12:7 にあります。

これをよりよく理解するために、この推論を表に示します。

天使はこう尋ねます。	神聖な亜麻布の衣服を着たイエス（したがって1844年以降）はこう答えます。	
それらいつ満たされるのでしょうか これらの不思議は？ (ミカエルの復活、神の民の苦悩と救出の時)	しばらくすると、2拍半…。 (1260日)	これらのことは実現 全て されます。 (ダニエル 12:7)

イエスは天使への返答の中で、1節から3節に描かれている奇跡が成就する時期は、ご自身が今いる時期より1260日早いと述べています。言い換えれば、イエスは、救いと部分的な復活（「奇跡」の終わりを示す出来事）は、預言の中でイエスが存在する時期よりも1260日先であると述べています。以下の図に示すように、天使へのメッセージは 1844 年より先です。

[-----1260ディアス-----]

再び (1844)

年 (?) イエスはこう言います。

救出 /

「1260日後…

部分的な復活によって、こ
れらのことは成就するであろう。」

ダニエル 12 章の 1260 日を 1260 日年と仮定すると、せいぜい、ダニエルが神聖な亜麻布の衣服を着て天での贖罪の日の礼拝を始めた直後に、イエスが天使に応答するのを見たとしたら、ということになります。聖域、つまりまだ 1844 年にありますが、苦悩の時代は 3104 年より早く始まることになります (1844 + 1260 年 = 3104)。19 世紀半ばの終末の始まりを示唆する他の聖書の預言に関する知識に基づいて (本書の第 2 章を参照)、私たちはこの仮説を捨てます。したがって、1260 日は文字通り 24 時間であると想定することしかできません。

私たちは、ダニエル書 12 章に関する今年の日付の啓示文書を分析した後、第 3 章で、ダニエル書 12 章の期間が 1903 年よりも前の時代であることを確認しました。

| | |

「ダニエル書 12 章を読んで研究しましょう。彼は、困難が起こる前に私たち全員が理解する必要がある警告です。

(最後の出来事 ページ 15 - 1903 年) (強調あり)

第 3 章では、ダニエル 12 章の期間が 1903 年以降に満たされたことをこの本文が証明していることがわかります。したがって、これらの期間は 1844 年以降にも満たされていると言えます。

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 55

したがって、ダニエル 12 章の 1260 日が 1844 年以降に満たされるということでの結論は、ダニエル 12 章の期間について第 3 章ですでに研究したものと一致します。

他の黙示録に記述されている聖書解釈の規則を分析すると、私たちは 1260 日を文字通りの 24 時間の日として理解することに自信を持つことができます。彼女が書いた 2 つの文章を見てみましょう。

「聖書の言葉は、記号や数字が使用されない限り、その明白な意味に従って説明されなければなりません。

キリストは約束をされました。誰かが神のご意志を行いたいと思うなら、同じ教義によって、それが神からのものであるかどうか分かるでしょう。」

(『大論争』、597 ページ) (強調)

19世紀初頭の聖書学者ギリエルム・ミラーについて言及している啓示の別の文章も、私たちの推論を裏付けています。

「彼は強い興味を持ってダニエル書と黙示録を研究し、聖書の他の部分と同じ解釈原則を採用しました。そして、彼は非常に喜んで、預言の象徴が理解できることを発見しました。彼は、すでに成就した預言が文字通り成就したことを見ました。さまざまな図、比喩、寓話、直喩などはすべて、文脈の中で説明されているか、あるいはそれらが表現されている用語が文字通りに理解されているかのどちらかである、と彼は言います。明らかにされた一連の真実は非常に明確かつシンプルに提示されているため、たとえ気が狂っていてもヴィアダンテは間違いを犯す必要はない。」

(聖域のキリスト、50ページ) (強調)

黙示録は、預言的解釈の規則が次のとおりであることを明らかにしています。聖書が象徴をもたらすとき、たとえそれが期間であっても、文脈自体の中でそれを説明します。

ダニエル 12 章の場合、その章を読むと、その章の文脈が文字通りであり、ダニエルの他の章 (例: ダニエル 7 章) に見られるような象徴 (動物、獣など) が提示されていないことがわかります。また、1260 日が象徴的なものであれば説明されるべきであるが、この章の文脈の中で説明されていないこともわかりました。

したがって、ダニエル書 12 章の 1260 日は文字通りの日数であると私たちは理解しています。

アドベンチスト聖書注釈は、このテーマに関するセブンスデー・アドベンチスト教会の世界的指導者の公式立場を反映していますが、聖書や黙示録のような靈感による資料ではありませんが、ダニエル 12 章の示現の文字通りの理解を裏付けています。

「このような歴史的建造物を目の前にして、私たちはダニエル 2 章の象徴的な金属像、つまり 4 匹の獣、10 本の角、4 番目の獣の小さな角の解釈の進歩的かつ具体的な展開に従う準備ができていないことに気づきました。ダニエル 7 章の預言より。雄羊、山羊、それぞれの角、そしてダニエルの最長の預言期間も同様です。8;ダニエル書9章のメシア王子が現れるまでの70週間、そしてダニエル書の11章と12章の並行する文字通りの預言の順番です。」

(アドベンチスト聖書注釈、第 4 巻 - 「ダニエル解釈の物語」) (強調あり)

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 57

私たちの推論に戻ると、これまでのところ、ダニエル書 12 章 1 節から 3 節に記述されている神の民の救出と部分的な復活は、イエスが 7 節で述べた文字通りの 1260 日の終わりに起こると結論付けています。どの出来事がこの 1260 日の期間の始まりを示すのかはまだわかっていません。本書の次の章では、この時期の始まりとなる出来事について学びます。

注: この本の付録 2 には、1844 年以降のメッセージが存在しなかったという事実に言及する啓示文書のすべてのテキストが含まれており、直接的かつ広範な文脈の中で分析されています。それぞれの文書の文脈分析の後、その啓示は、1844 年以降、イエスの再臨を指し示す、明確な時期を示す預言はもう存在しないと述べていたことが明らかになります。したがって、これまでのように、時間は再び試練となることはありません。1844 年 10 月 22 日、最初のアドベンチスト派は大いに失望しました。1844 年は時間が試練でした。なぜなら、ダニエル 8 章の 2300 年の夕と朝の預言の研究を通じて、最初のアドベンチスト派は 2300 年の終わりには次のことを理解していたからです。1844 年に終わる数年間、イエスは地球を浄化するために戻ってくるようになっており、彼らは地球を預言の聖域であると考えていました。したがって、彼らはこの日にキリストの再臨を待ち望んでいたが、この日が過ぎ、彼らの希望が実現しなかったとき、大きな失望を経験した。このトピックをよりよく理解するには、この本の付録 2 を読むと役立ちます。

5.2 - そして聖なる民の力の破壊が終わるとき...

「これらの奇跡はいつ実現するのでしょうか?」という質問に答えるために、このことをもう一度思い出してみましょう。ダニエル 12:6 で天使が言ったとき、イエスは 2 つの平行した答えを与えています。

答え 1 - 「それは 1 回、2 回、30 分後です」

答え 2 - 「そして聖なる民の力の破壊が終わるとき、これらすべてのことは成就するでしょう。」

この章の最初の部分で、イエスが与えた答え 1を分析しました。この章の第 2 巻では、次のことを調べます。

天使の質問に対してイエスが答えた答え 2の意味を理解してください。

答え2 は、「これらの奇跡はいつ実現しますか?」という天使の質問に対してイエスが与えたものです。 - イベントを指します。イエスは、「そして聖なる民の力の破壊が終わるとき」、これらの奇跡は成就する、と言われました。

ダニエル 12:7 の原文のヘブライ語への最も忠実な翻訳では、「そして聖なる民の力の滅びが終わるとき」は次のように表現されています。

「そして聖なる民の力の分配が終わるとき」。

ヘブライ語の原語である「ナファツ」は、ポルトガル語に「分配する、分散する」と翻訳するのが最も適切です。

「ナファト」という用語は、「王訳」聖書ではこのように翻訳されています。ジェームズ訳は、聖書学者によって原文に対する最も忠実な翻訳であると考えられており、以下に紹介します。

「そして私は、亜麻布を着た男が川の水面で右手と左手を天にかざし、永遠に生きている方にかけて、しばらくの間、そうであると誓ったときの声を聞きました」、半分。彼が聖なる民の力を分散させることを達成したとき、これらすべてのことは完了するでしょう。

(ダニエル 12:7 - 欽定訳聖書 - 1994 年) (強調あり)

翻訳すると、次のようになります。

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 59

「そして私は、亜麻布を着た男が川の水辺にいて、右手と左手を天に上げ、永遠に生きる御方にかけて、しばらくの間、そして永遠に続くと言ったときの声を聞きました。」」 _

元のヘブライ語の意味に忠実に、「聖なる民の力を破壊する」という表現と「聖なる民の力を分配する」という表現には大きな違いがあります。前者は聖なる民の迫害を意味するかもしれませんが、後者は聖なる民への特別な権力の分配を意味します。

この抜粋の正しい翻訳を理解したら、それを理解できる方法で分析します。

「……聖民の力の分配が終われば、これらのことはすべて成就する……」

使徒行伝 2章1-4節の本文で報告されているように、使徒たちの時代、天から聖なる民への権力の分配が初めてペンテコステの祝日に行われたことを私たちは知っています。

「1ペンテコステの日が終わると、彼らは皆一つの場所に集まりました。

2 突然、吹き抜ける風のような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家全体がその音で満たされました。

3すると、火のような舌が現れて、彼らの間に配られ、一人ずつが彼らの上に止まった。

4彼らは皆、聖霊に満たされて、御霊が彼らに語らせたとおりに、他の言語で話し始めました。」

(使徒 2:1-4)

この聖なる民の力の分配は、ヨエル書 2:23 と 28-29 に書かれていることを実現するために、後の雨の時期に再び起こります。

「23それゆえ、シオンの子らよ、あなたがたの神、主にあって喜びなさい。主はあなたに適量の雨を降らせてくださるからである。彼は昔と同じように、早い雨と遅い雨を降らせるでしょう...

28 そしてその後、わたしはすべての肉なる者にわたしの霊を注ぐであろう。あなたの息子や娘たちは預言し、老人たちは夢を見、若者たちは幻を見るでしょう。

29 その日、わたしは召使やはしのための上にも、わたしの霊を注ぐであろう。」

(ヨエル 2:23,28,29) (強調)

ペンテコステは西暦 40 年より前に起こったので、イエスがダニエル 12:7 で描写した聖なる民の力の配分は、神の霊が民に大量に注がれることから成る、後の雨だけである可能性があります。 2:28-29、今読みました。この啓示は、日曜日律法の公布後に、預言者ヨエルが予言した後の雨が起ることを明らかにしています。

「政治の腐敗は正義への愛と真実への敬意を破壊しています。そして自由な北米でも、知事や議員は国民の支持を得るため、日曜日の遵守を強制する法律を求める国民の要求に屈するだろう。これほど高い犠牲を払って得られた良心の自由は、もはや尊重されないでしょう。」

(『大論争』、592 ページ) (強調)

第5章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 61

「偽りの安息日を称賛する法律 - 私たちは備えを整えて神の命令を待たなければなりません。国々は自分たちの中心に目を向けるでしょう。神の唯一の義の基準、人格を試す唯一の確かな試練を宣言する人々からの支持は打ち切られるでしょう。そして、国家評議会の布告に服従せず、神の聖日を無視して罪を犯した人間によって制定された安息日を称賛する国内法に従わない者は皆、教皇庁の抑圧的な力だけでなく、教皇庁の抑圧的な力も感じるようになるだろう。プロテスタントの世界、獣のイメージ。 ...

差し迫った大きな問題により、神が任命しなかった人々は淘汰され、神は純粹で、忠実で、聖化され、後の雨に備えた奉仕活動を行うことになるだろう。」

(選択されたメッセージ、第3巻 - ページ 385) (強調あり)

「第三の天使のメッセージを宣言することに参加する天使は、その栄光で地球全体を照らさなければなりません。これは、作品が世界的に広がり、並外れた力を発揮することを予感させます。1840年から1844年にかけてのアドベンチスト運動は神の力の輝かしい現れでした。最初の天使のメッセージは世界中のすべての宣教地に伝えられ、一部の国では、16世紀の宗教改革以来どの国でも見られる最大の宗教的関心が集まりました。しかし、これは第三の天使の最後の警告の下での力強い動きによって克服されなければなりません。

この働きはペンテコステの日の働きと似ています。福音書の冒頭で、聖霊の注ぎによって貴重な種の発芽をもたらす「初期の雨」が与えられたのと同じように、「後の雨」はその終わりに収穫を熟すために与えられるでしょう。主を知り、知り続けましょう。夜明けがどのようにして彼の出口となるのでしょうか。そして彼は雨のように、地を潤す後の雨のように、私たちのところに来てくださいます。」
ホセア書 6:3。

「そして、シオンの子らよ、あなたがたの神、主にあって喜び、喜びなさい。主はあなたに義の教師を与え、早い雨も後の雨も雨を降らせてくださるからである。」ヨエル 2:23。「そして終わりの日には、わたしはすべての肉なる者の上にわたしの霊を注ぐ、と神は言われる。」「そして、主の御名を呼び求める者は誰でも救われるであろう。」使徒 2:17 と 21。

(『大論争』611ページ) (強調あり)

上に挙げた証言は、後の雨が神の民が第三の天使のメッセージを全世界に大きな力で説教できるようにするのに役立つことを示しています。この啓示はまた、後の雨によって神の民が困難の時に安息日の真理をしっかりと守ることができるようになるということも裏付けています。

「その時、「最後の雨」、つまり主の臨在からのさわやかな雨が来て、第三の天使の大いなる声に力を与え、最後の七つの災いが起こるその時に聖徒たちが立ち上がる準備をするでしょう。注ぎ出された。」

(初期の著作、86 ページ) (強調あり)

聖霊の力は疫病の期間中も与えられ続けるでしょう。もしそうでなければ、聖霊は疫病が流行する「苦難の時」に抵抗することができないからです。地球に落ちる。啓示から抽出されたテキストは、これを証明しています。

「間もなく、私たちは神の声を多くの水のように聞き、イエスの来臨の日と時間を私たちに告げました。144,000人を数える生ける聖徒たちはその声を認識し、理解しましたが、邪悪な者たちはそれを雷か地震だと思いました。神がその時を宣言したとき、神は私たちに聖霊を注ぎ、私たちの顔は輝きました。」

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 63

シナイ山からの下山時にモーセに起こったような、神の栄光の輝きです。」

(初期の著作、15 ページ) (強調あり)

上で説明した出来事は、7番目で最後の疫病の日に起こります（黙示録16:17-21参照）。これは神の民の救出と「苦難の時」の終わりを示す出来事です。救出の日、「七つの雷」の声に代表される神の声

（黙示録 16:18）イエスの到来の日時が宣言されています。上に示した啓示の本文から、聖なる民の力、つまり聖霊は、疫病の期間中であっても、神の声が神の民の救出を促進するその終焉まで、分配され続けていることが分かります。ダニエル書 12 章 1 節 (1 節から 3 節) に記されている出来事を終わらせる出来事は神の民の救出であるため、7 節に記されている「聖なる民の力の分配」は、したがって、ダニエル 12 章 1 節から 3 節に記述されている奇跡と、7 節の天使の質問に対するイエスの答え 2 が完全に一致していることがわかります。

【ES配電※】

再び (1844)

年 (?) イエスはこう言います。

救出 /
部分的な復活

「聖民の力の分配が終わる時…」

これらのことはそうなります
満たされました」

*

ES => エスピリトサント

|

|

5.3 – ダニエル 12:7 におけるイエスの答えを統合する

私たちは、ダニエル 12 章 7 節で、6 節で天使が尋ねた「これらの不思議はいつ実現しますか?」という質問に対してイエスが与えた 2 つの答えを学びました。彼らは：

答え1: 「... 1 回、2 回と 5 回後」、つまりすでに見たように、文字通り 1260 日です。

答え2: 「聖なる民の力の分配が終わるとき、これらすべてのことは成就するでしょう。」つまり、後の雨によって聖なる民に与えられた力が分配され、人々が救出される時、これらのことはすべて成就します。神様、終わります。

イエスの答えは平行していることに注意してください。つまり、イエスが答え 1 で説明したことは、答え2で説明されたことと一緒に起こります。これをよりよく視覚化するために、6 節での天使の質問と、6 節でのイエスの答えを示します。ブロック図による 7 節:

私たちが理解しているように、イエスが説明した出来事が並行して同時である場合、それらは一緒に始まり、一緒に終わるに違いありません。したがって、1260 日の始まりは、聖なる民の力の分配の始まり（後の雨の降り注ぎの始まり）と一致しなければなりません。したがって、終わりの日における聖なる人々の力の分配が始まるのは、後の雨が大量に降ったときであるため、

これらの驚異はいつ実現するのでしょうか？（神の民の苦難と救出の時 - ダニエル 12:1-3)	文字通り1260日後	これらすべてが実現されます。 (ダニエル 12:7)
	後の雨が与えた聖人の力の分配が終わるとき	

第 5 章 - これらの驚異はいつ実現しますか? 65

それはまた、ダニエル 12 章の預言の文字通り 1260 日の期間の始まりでもあります。よりよく理解するために、この推論を転写します。

以下の図に:

[-----1260日-----]

年 (0) 年 (1844)

の流出
後の雨

救出
「神の声」

回答に含まれる情報を結び付けると、

天使の質問に対するイエス (7 節) とダニエル 12 章 1 ブロック (1 節から 3 節) に記述されている出来事を組み合わせると、次のような出来事図をまとめることができます。

| | | |

[-----聖霊の力の分配-----]

[-----1260日-----]

再び (1844)

(?) 下りの雨

(?) ミゲルが立ち上がる... |た* 救出
を閉じます

「神の声」

自由時間

* => 苦悩の時

したがって、1260 日は後の雨が始まる日から始まることがわかります。1260日間、後の雨によって与えられた力は聖なる人々に分配され続けます。これは、 | | |

「聖なる民の力の分配」により、神の民は第三の天使のメッセージの警告を大きな力で世界に伝えることができ、何千人もの人々がキリストに導かれるようになり、神の民が疫病の時に立ち上がることができるようになります。

1260日の終わりには、神の声が神の民の苦しみに終止符を打ち、疫病と苦難の時代も終わります。

そのとき、神の戒めを守る神の民は救われます。

第6章

1290日と1335日

前に見たように、ダニエル 12 章の預言には 3 つの時代が示されています。

- 1回、2回半、または1260日
(verso7);
- 1290日 (11節)。
- 1335日 (12節)。

前の章では、1260 日という期間について学びました。この期間は、後の雨の降り始めに始まり、神の声が聞こえて部分的な復活が起こる救出の日まで続くことがわかります。この章では、1290 日と 1335 日という期間と、ダニエル書 12 章の 1 ブロック (1 節から 3 節) に記述されている出来事との関係を学びます。

1290 日と 1335 日という期間の研究を始めるために、ダニエル 12 章の 8 節から 12 節を読んでみましょう。

「8 聞いたのですが、分かりませんでした。それから私は言いました、「主よ、これらの結末はどうなりますか？」

9 彼は答えた、「行きなさい、ダニエル。この言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからです。」

10 多くの人が清められ、白くされ、試みられるでしょう。しかし、悪人は悪事を行い、誰も理解できませんが、賢い人は理解します。

11 日々のいけにえが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしい行為が行われた後も、まだ千二百九十日ある。

12 待ち続けて千三百三十五日に達する者は幸いである。」

(ダニエル 12:8-12)

8 節の本文は、ダニエルが自分に示された幻の意味を理解していなかったことを示しています。その瞬間まで、ダニエルはミカエル、あるいはイエスが復活して苦難の時代が始まるという天使の話聞いていました。苦難の後には神の民が救出されるであろうということ。私はまた、6節で天使がイエスに尋ねた、「これらの不思議はいつ実現するのですか？」という質問も聞きました。そして最後に、彼は天使に与えられた「亜麻布を着た人」（イエス）の答えを聞き、1260日という期間を「時間、時間、そして半分の時間」と述べました。ダニエルは自分が見たり聞いたりしていることを何も理解していませんでした。だからこそ、彼は8節で天使にこう尋ねたのです。

「聞いたんですが、分かりませんでした。それから私は言いました、主よ、これらの結末はどうなりますか？」

ダニエルは、1 節から 3 節に示されている出来事（ミカエルの復活、苦悩と解放の時）が何を意味するのか、また 6 節で天使が尋ねた質問に対するイエスの答え（7 節）が何を意味するのか理解していなかったため、ダニエルは率直に尋ねます。天使に、それらの出来事の終わりがどうなるか、つまり、それらの出来事がいつ起こり、いつ終わるのかを教えてください。ダニエルの質問に答えて、天使は9節でこう言いました。

「…行きなさい、ダニエル、この言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからです。」

天使はダニエルへの返答を、預言の説明が得られるという期待を預言者から奪うことから始めます。すでに第 2 章で学んだように、天使が言葉は「終わりの時まで封印されている」と言っているという事実は、終わりの時にのみ言葉が封印されることを意味します。

第6章 - 1290年と1335日69

ダニエル 12 章の預言の意味を知ることができるでしょう。

しかし、天使の返答は 9 節にとどまりません。ダニエルに対する天使の返答の続きで、ダニエルは次のように述べています (10 節)。

「多くの人が清められ、白くされ、試みられるだろう。しかし、悪人は悪事を行い、誰も理解できませんが、賢い人は理解します。」

このテキストの中で、天使は、ダニエルが 11 節と 12 節でこれから伝えようとしているメッセージを理解できるのは「賢い人」だけである、と具体的に伝えています。つまり、天使がダニエルに語ったように、賢い人だけが理解できるというメッセージは、次のようになります。そうだった：

「毎日の犠牲が取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしい行為が行われた後も、まだ千二百九十日ある。

待ち続けて千三百三十五日を迎える者は幸いである。」

天使がダニエルに言ったことによると、ダニエル 12 章の 1290 日と 1335 日の意味と、ダニエル 12 章の第 1 ブロック (1 節から 3 節) に記述されている出来事との関係を理解できるのは「賢い人」だけだそうです。そうすれば、聖書が誰を「賢い」と分類しているのかがわかります。なぜなら、彼らがダニエル 12 章の 1290 日と 1335 日を理解していれば、これらの期間を理解するには、聖書概念に従って自分自身を「賢い」と認定する必要があるからです。。

天使はまた、「ひねくれた者」、つまり邪悪な者たちはそれを理解できないとも告げています。これは、イエスを愛しておらず、イエスのご意志を行いたくない人は、1290日と1335日を理解できないことを意味します。したがって、天使が言ったように、「邪悪な者」が1290日と1335日を理解できないのであれば、賢者は理解できないでしょう。

このグループに含まれています。したがって、賢い人は、イエスを愛し、イエスのご意志を行ないたいと願う人々のグループにのみ入ることができます。しかし、イエスを愛し、イエスのご意志を行ないたいという事実は、聖書の概念によれば、その人を「賢い」とみなすのでしょうか？

使徒パウロはテモテへの手紙の中で、聖書を学ぶことによって私たちは神の概念に従って「賢く」なれると述べています。したがって、彼はテモテ第二 3 章に次のように書いています。

「14 しかし、あなたは、自分が学び、学んだことに留まり、それを誰から学んだかを知っています。

15 そして、あなたは子供の頃から、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに向けて知恵を与えることができる聖なる書物を知っていることも必要です。

16 聖書はすべて神の靈感によるものであり、教え、戒め、矯正し、義を訓練するのに役立ちます。

17 それは、神の人が完全に整えられ、あらゆる善い業を行うための備えとなるためである。」

(IIテモテ 3:14-17) (強調あり、強調追加)

パウロはテモテに、「聖なる文字」の研究、つまり聖書の研究を通じて賢くなれると書いています。同様に、聖書を学ぶとき、私たちは「賢い人々」のグループの一員となり、ダニエル 12 章の預言で言及されているものを含む神の言葉の真理を理解し、前述のように多くの人に教えることができます。聖書のダニエル書 11 章 33 節にはこう書かれています。

「人々の中の賢い者は多くの人を教えます。しかし彼らはしばらくの間、剣と火と捕虜と強盗によって倒れるだろう。」

(ダニエル 11:33) (強調)

したがって、聖書は、イエスを愛し、イエスのご意志を行ないたいと願うことに加えて、賢い人とは、勉強する人であると明確にしています。

第6章 - 1290年と1335日71

熱心に聖書を読みます。そして聖書はどのように研究すべきでしょうか？黙示録のいくつかのテキストは、この主題について私たちに説明を与えてくれます。

「私たちは毎日聖書を熱心に研究し、あらゆる考えを熟考し、聖句と聖句を比較しなければなりません。私たちは神の前で自分自身で答えなければならないのと同じように、神の助けを得て自分自身の意見を形成しなければなりません。」

(『大論争』、598 ページ) (強調)

「聖書の真理を理解することは、研究に専念する知性の活力よりも、目的の単純さと正義への熱烈な願望に依存します。

祈りなしに聖書を勉強してはなりません。聖霊だけが、私たちにわかりやすいものの重要性を理解させたり、理解しにくい真実をねじ曲げたりするのを防ぐことができるのです。」

(『大論争』、599ページと600ページ) (強調)

上記の聖句は、私たちが聖書を常に祈りの気持ちを持って研究し、各箇所を比較しながら学ぶべきであることを示しています。研究するとき、自分の先入観に合わせて、自分が導きたい結論に導こうとしてはいけません。私たちは神聖な御霊の導きを受け入れ、神に教えてもらいたがる子供のように謙虚に聖書を研究しなければなりません。

イエスを愛し、イエスのご意志を行い、神の言葉を熱心に研究する人々は、ダニエル12章の1290日と1335日を理解する「賢者」のグループの一員であることが分かりました。

私たちは常に「賢い」者としての資格を目指しなければなりません。

私たちはダニエル書 12 章の 1290 日と 1335 日だけでなく、聖書の他のすべての預言も理解しています。

預言の分析に戻って、1290 日と 1335 日について述べている 11 節と 12 節をもう一度読んでみましょう。

「11 日々のいけにえが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしい行為が行われた後も、まだ千二百九十日ある。

12 待ち続けて千三百三十五日に達する者は幸いである。」

(ダニエル 12:11-12)

これらの聖句は、単にテキストを読んだだけでは理解できないため（特に時代背景）、理解するのが難しいようです。しかし、聖書とイエスの証言（啓示）に照らしてこれらの文書を研究すると、それらの明らかな謎を明らかにすることができます。

11 節の「毎日の犠牲」という表現は、聖書の一部のバージョンでは「継続的な犠牲」と訳されており、ヘブライ語の「タミド」に由来しています。この表現はダニエル 8 章 12 節の 2300 年の夕と朝の預言にも出てきます。黙示録から抽出されたテキストには、この表現に関する重要な情報が示されています。

「そこで私は、「継続」（ダニエル書 8:12）との関連で、「犠牲」という言葉は人間の知恵によって与えられたものであり、本文に属さないこと、そして主が犠牲者たちに正しい見解を与えてくださったことを知りました。彼は裁きの時の叫びを上げた。」

(初期の著作、75 ページ) (強調あり、強調追加)

第6章 - 1290日と1335日73

ヘブライ語の聖書の原文は、啓示によって示された情報を裏付けています。「継続的な犠牲」という表現に対応する元のヘブライ語は「タミド」です。「タミド」という用語の翻訳は「継続的な」または「毎日」であり、「犠牲」という言葉は元のヘブライ語には存在しません。これを確認するために、原文のヘブライ語からの抜粋を以下に示します。



 「エス」 タミド 腰抜け"

ヘブライ語の用語	ポルトガル語への翻訳
`eth	時間
タミド	継続的な
うそつき	削除された、撤回された

ヘブライ語の単語だけを英語の対応する意味に翻訳すると、「継続時制が削除された」という表現が得られますが、これは私たちにとって意味のないように思えます。ヘブライ語とポルトガル語の言語構造の違いを補うために、翻訳時に前置詞が追加され、テキストに意味が与えられます。したがって、ポルトガル語への最も忠実な翻訳は次のようになります。

「連続体が外れたその時から…」

「犠牲」という言葉は名詞であり、テキストに意味を与えるために追加される前置詞ではありません。したがって、「犠牲」という言葉が追加されたものであり、本文に属していないことが明らかにわかります。

したがって、ダニエル書 11 節を研究するには、「絶え間ない犠牲」という表現から「犠牲」という言葉を取り除く必要があります。したがって、11節の本文は次のようになります。

「11継続的なものが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしいものが置かれた後も、まだ千二百九十日ある。」

「継続的」という用語の本当の意味については長い間論争があり、現在、その意味についてさまざまな観点から擁護するいくつかの神学潮流があります。この研究では、現在の考え方についてコメントすることは避け、この主題に関するいくつかの啓示文書に依存することを好みます。以下にテキストを紹介しますが、それ自体が非常に決定的であると思われます。

「ダニエル 8 章の続き」

東西南北の兄弟たちに言いたいことがあります。現在多くの議論が行われている問題を解決するための主要な議論として私の著作が使用されないようお願いします。私は、H牧師、J牧師、J牧師（名前は伏せられています）、そしてその他の私たちの主要な兄弟たちに、「連続」に関する彼らの見解を支持するために私の著作に言及しないようお願いします。

これは極めて重要な問題ではないことが分かりました。私たちの兄弟たちは、見解の違いの重要性を拡大するという間違いを犯していると教えられました。私の文章がこの問題を解決したものとみなされることに同意することはできません。「継続的」の本当の意味は、証明の問題にするべきではありません。

私は今、宣教に携わる兄弟たちに、この問題[「継続的」]に関する議論に私の著作を利用しないようお願いします。その点についての指示がなかったので、

第6章 - 1290日と1335日75

議論する必要はないと思います。現状におけるこの問題に関する限り、沈黙は雄弁である。

私たちの仕事の敵は、些細な重要な事柄を利用して、私たちのメッセージの関心を形成すべき大きな問題から私たちの兄弟たちの心をそらすことができますと喜んでいますが。これは証拠にはなりませんので、敵が勝利を収めてそのような扱いを受けまいやう兄弟たちをお願いします。」

(選択されたメッセージ、第 1 巻、164、165 ページ) (強調あり)

上の文章を読むと、主の使者がこの問題に関して何の説明もしていなかったことが明らかです。また、彼は当時の状況下でこのテーマについて議論することをアドバイスしませんでした（上記のテキストに示されているように、「現在の状況下でこの主題に関するかぎり、沈黙は雄弁です」）。 「継続的」という用語の意味についてのさまざまな神学的立場についてコメントすることは差し控え、ダニエル 12 章の預言の他の点を学びます。他の点を理解することによって、その意味を理解するのは容易になります。「継続的」という用語について。

「継続的」という用語の理解は後回しにして、ダニエル 12:11 の残りの部分の分析に戻りましょう。

「11継続的なものが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしいものが置かれた後も、まだ千二百九十日ある。」

11 節の本文は、1290 日の始まりを明確に示しています。その中で天使はダニエルに、「連続体」が取り除かれ、「荒廃をもたらす忌まわしいもの」が導入された後も、まだ1290日あるだろうと述べています。以前に説明したように、「継続的」という表現は非常に物議を醸すため、この用語の意味を理解するよう努めます。

1290日の意味が分かるように。

「忌まわしい」という言葉は聖書の中で偶像崇拜の罪を表すのに使われています。列王記上 16:30-33 の本文はこれを裏付けています。

「30オムリの子アハブは、それまでの誰よりも主の目に悪を行った。

31 ネバトの子ヤラベアムは、罪を負うことが些細なことであるかのように、シドン人の王エトバルの娘イゼベルを妻として迎えた。そこで彼は行ってバルに仕え、彼を崇拜した。

32彼はサマリアに建てたバルの家にバルのために祭壇を設けた。

33アハブはまた、偶像の柱を作ったので、罪を犯した。

イスラエルの神、主を怒らせる忌まわしい行為は、イスラエルのすべての王よりも、また、それまでのイスラエルのすべての王よりも多かった。」

列王記上 16:30-34

したがって、「荒廃をもたらす憎むべきこと」という用語は、神が耐えられないほどに荒廃をもたらすほどの忌まわしいことを意味します。実際、欽定訳聖書では、この用語が 11 節に示されています。

- 「荒廃をもたらす忌まわしいもの」、

それは「荒廃をもたらす忌まわしいもの」を意味します。

この本の第 2 章と第 3 章で学んだように、ダニエル 12 章の預言全体は、1844 年の少し前、19 世紀半ばに始まった「終わりの時」に起こる出来事について言及しています。したがって、ダニエル 12 章の 1290 日は、

第6章 - 1290日と1335日77

私たちが生きている「終末の時」。聖書の預言の中には、終末に荒廃をもたらす偶像崇拜の特別な現れがあることを示しているものもあります。この兆候が現れる前に、全員に警告するサインが表示されます。このしるしは、イエスが預言的説教中に預言したもので、マタイ 24 章とルカ 21 章の預言に描かれています。

マタイ 24:

「15ですから、あなたが聖所で預言者ダニエルによって語られた荒廃という忌まわしい行為を見たとき（読む人には理解してもらいましょう）、

16 それから、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。

17 屋根の上にいる者は、家から物を持ち出すために降りてはなりません。

18 また、野原にいる者は、外套を取りに戻ってはなりません。」

(マタイ 24:15-18) (強調あり、強調追加)

ルカ 21:

「20しかし、エルサレムが軍隊に包囲されているのを見たら、その破滅が近づいていることを知りなさい。

21 それから、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。市内にいる者は立ち去れ。野原にいる者はそこに入っははいけない。」

(マルコ 13:14-16) (強調あり、強調追加)

上に示したイエスの預言的な説教の抜粋は、イエスが弟子たちに与えた警告を表しています。これらの節でイエスは弟子たちに、エルサレムが軍隊に囲まれているのを見て、その滅びから逃れるために山に逃げるべきだと語っておられます。したがって、イエスは彼らに次のように言われました。

エルサレムはキリスト教徒にとってその破壊から逃れるための避難場所のしるしでした。ルカ 21 章の本文ではエルサレム包囲について直接言及されています。

「しかし、エルサレムが軍隊に包囲されているのを見たら、その破滅が近づいていることを知りなさい。」

マタイ 24 章の聖句は、エルサレム包囲を「荒廃させる忌まわしい行為」と呼んでいます。

「ですから、聖所で預言者ダニエルが語った荒廃という忌まわしい行為を見るときは（読む人には理解してもらいましょう）」。

したがって、マタイとルカのテキストを比較すると、次のようになります。

「軍隊に包囲されたエルサレム」、あるいはエルサレムの滅びの兆しを表すエルサレムの包囲は、マタイ 24 章で次のように描写されている「荒廃の忌まわしい行為」です。

ルカ 21:20: マタイ 24:

軍隊に包囲されたエルサレム=忌まわしい荒廃。

マタイ 24 章の本文には「荒廃の忌まわしいもの」という言葉が登場しており、これは預言者ダニエルによって語られた言葉であると述べられています。ダニエル書全体の中で、マタイ 24 章で示されている「荒廃させる忌まわしいもの」という用語に最も類似した用語が見られるのは、ダニエル 11:31 とダニエル 12:11 * だけです。

*注: ダニエル 8:13 の聖句には、「壊滅的な罪」と呼ばれる同様の用語が含まれています。しかし、ヘブライ語の原文では、ダニエル 8章13節に出てくる「荒廃させる罪」と訳されている用語は、ダニエル 11章31節とダニエル 12章11節で使われている「荒廃の忌まわしい罪」と訳されている用語と同じではありません。本書の付録 3 には、これらの用語のそれぞれに対応するヘブライ語の原文とその正確な翻訳が示されており、ここでの主張が裏付けられています。読者の皆さんが興味があれば、これらをチェックしてください

第6章 - 1290年と1335日79

違いがある場合は、付録3のタイトル「荒廃する違反 x 荒廃させる忌まわしい行為」を参照することをお勧めします。

黙示録には、エルサレムの滅びに関してイエスが与えた預言的な説教は二重の成就をもたらしたと述べられています。イエスは同じ預言の中で、西暦70年に起こったエルサレムの一時的な滅びに関連する出来事と、地球の歴史の最後の場面に関連する出来事を「混ぜ合わせ」ました。以下に紹介する「The Great Conflict」という本の本文は、これを裏付けています。

「未来は慈悲深く弟子たちからベールに包まれていました。もし当時彼らが二つの恐ろしい事実、つまり救い主の苦しみと死、そして彼の都市と神殿の破壊を完全に理解していたなら、彼らは恐怖に打ちのめされただろう。キリストは彼らの前に、終末の前に起こる重要な出来事の概要を示されました。彼の言葉はそのとき完全には理解されませんでした。しかし、その意味は、神の民が彼らに与えられる指示を必要とするときに、彼らに明らかにされるでしょう。イエスが語られた預言には2つの意味がありました。それはエルサレムの破壊を予見していましたが、同様に最後の偉大な日の恐怖を表していました。

イエスは、自分の話を聞いた弟子たちに、背教したイスラエルに下される裁き、特に罰について宣言されました。メシアを拒絶し十字架につけられたために彼に降りかかるであろう報復。恐るべき最高潮に先立って、紛れもない兆候が現れるだろう。恐ろしい時は突然、そしてあっという間にやって来ます。そして救い主はご自分の追隨者たちに次のように警告されました。「預言者ダニエルが語った荒廃という忌まわしいものが聖所に立っているのを見たとき（読む人は注意しなさい）、ユダヤにいる者たちは山に逃げなさい。」マタイ 24:15 および 16。ルカ新 21:20。ローマ人の偶像崇拜の基準が聖地で高められたとき、それは長く続きました。

街の城壁の外に数ハロン出れば、キリストの追隨者たちは安全に飛行できるはずだ。

（『大論争』、25ページと26ページ）」（強調あり）

上の本文でわかるように、エルサレムからの脱出の合図は、ケスティウスの指揮下でローマ軍が行った最初の都市包囲の開始時に、エルサレムのいくつかの段階で偶像崇拜の基準を引き上げたことでした。歴史によれば、最初の包囲は、何もかもが直ちに都市を攻撃するのに有利であると思われたときに、明白な理由もなく放棄された。したがって、イエスは最初の包囲は脱出のしるしであると述べました。最初の包囲はエルサレムの破壊や「荒廃」をもたらすことはありませんでした。

その後、ティトゥスによって包囲が再開され、エルサレムは破壊されました。イエスの預言に耳を傾け、最初の包囲後にエルサレムから逃げた当時のキリスト教徒は全員、恐ろしい二度目の包囲とその後の都市の破壊を免れました。エルサレムの街に破壊、あるいは「荒廃」をもたらしたのは二度目の包囲でした。

私たちが今読んだ黙示録の中で、預言的説教の中でイエスが与えた預言には二重の意味があることが分かりました。

「イエスが語られた預言は二重の意味を持っていました。同時にそれはエルサレムの破壊を予感させるものであったと同時に、最後の偉大な日の恐怖を象徴するものでもありました。」

したがって、マタイ 24 章とルカ 21 章の預言は、キリストの再臨前の終末に起こる滅び、つまり「荒廃」についても言及していました。これは、イエスの預言的な説教が「終わりの時」にも成就することを意味します。

第6章 - 1290年と1335日81

私たちは生きています。これを理解すると、「終わりの時」に、終わりの日の恐怖が地球に迫ろうとしていることを警告する出来事が起こることがわかります。

啓示の別の文章は、私たちの時代に最初のエルサレム包囲に匹敵する出来事、つまり差し迫った地球滅亡の警告が起こることを私たちに知らせています。

「昔の弟子たちと同じように、私たちが荒涼とした寂しい場所に避難せざるを得なくなる日はそう遠くありません。ローマ軍によるエルサレム包囲がユダヤ人キリスト教徒の脱出の合図だったのと同様に、教皇の休息日（日曜日）を義務化する布告における我が国（アメリカ合衆国）の権力に対する傲慢は、重大な問題となるだろう。私たちがへの警告です。そうすれば、大都市を離れる時が来ます。それは、小さな都市を離れて山間の寂しい場所にある隠居住宅に住むための準備段階です。」

(最終的な出来事、106 ページ) (強調)

上記のテキストは非常に啓発的です。エルサレムからの逃避の兆候は、エルサレムの街から数競技場離れた場所に偶像崇拜の基準を置いたことでした。これと並行してイエスが預言した、終わりの日に起こる出来事は、アメリカ合衆国で日曜日の礼拝を義務付ける法律、つまり日曜日法です。

この著作の第4章ですで見たとおり、この律法は日曜日の聖化を義務化し、聖書が第4戒めに命じているように、礼拝のために神が定めた真の日である土曜日の代わりに日曜日を置きます。出エジプト記

20:8-11:

「8安息日を聖く保つために、安息日を覚えておいてください。
9 あなたは六日間働いて、すべての仕事をしなさい。

10 しかし、七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたも、あなたの息子も、娘も、下男も、下女も、家畜も、あなたの門の外にいる者も、いかなる仕事もしてはなりません。

11 主は六日のうちに天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。したがって、主は安息日を祝福し、聖なる日とされました。」

(出エジプト記 20:8-11) (強調)

日曜日は異教の崇拝の日であるため、日曜日を守ること（古代人は日曜日を太陽神への礼拝の日として使っていたため、英語で Sunday – Sunday – は太陽の日を意味する名前になった）とされています。偶像崇拝的なカルト。これは、エルサレムの滅び（エルサレムの近くに偶像崇拝の基準が置かれたこと）の前に、エルサレムから逃亡した兆候と完全に類似しています。したがって、次のことを行う必要があります。

イベント	神の民へのサイン	アクション
元に戻す エルサレム	の 偶像崇拝のパナー エルサレム近郊（第一次エルサレム包囲）	エルサレムからの脱出
最後の日々	米国の日曜法 – 礼拝 崇拝からの脱出	偽りの土曜日の大いなる偶像 都市

私たちは今、ダニエル 12 章 11 節の「荒廃をもたらす憎むべきこと」が何であるかを理解できる立場にあります。

第6章 - 1290日と1335日83

イエスは預言的説教の中で次のように述べています。

「ですから、あなたが聖所で預言者ダニエルによって語られた荒廃という忌まわしい行為を見たとき（読む人には理解してもらいましょう）、それからユダヤにいる者たちは山に逃げなさい。」
(マタイ 24:15-16) (強調追加、斜体追加)

イエスが説教の中で予告したように、「荒廃の忌まわしいもの」を聖地に置くこと、つまりエルサレムの最初の包囲は、エルサレムからの逃亡の合図でした。

「聖なる」という言葉は「聖なる目的のために分けられた」という意味です。したがって、マタイ 24 章で予告されている「荒廃の忌まわしいもの」を「聖所」に置くということは、異教の礼拝の日である「日曜日」を、神によって定められた「安息日」の代わりに置くことを意味します。出エジプト記の本文で見たように、神ご自身が神聖な目的、つまり礼拝のために尽力されました。

「というのは、主は六日間で天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。したがって、主は安息日を祝福し、聖なる日とされました。」

(出エジプト記 20:11) (強調あり)

そうすれば、マタイ 24:15-16 とルカ 21:20-21 に示されているイエスの預言的な説教の抜粋を次のように理解できます。

「アメリカ合衆国で日曜法が制定され、神が礼拝のために定めた真の聖日である安息日の代わりに日曜礼拝を課すとき、皆さんは終わりの日の滅び（荒廃）が近づいていることを知ります。そのときは大都市から逃げる時が来るだろう。」

イエスは預言的な説教の中で、エルサレムの包囲を「荒廃の憎むべきこと」、つまりエルサレムの差し迫った滅びのしるしとして言及しました。終わりの日に生きる私たちにとって、イエスは「憎むべき荒廃」（私たちにとってアメリカ合衆国の日曜日律法となる）は、これから地球に訪れる滅びについての警告であると言っておられました。

出来事が「しるし」であるならば、破壊をもたらすのはこの出来事ではありません。彼はこの破滅が近づいていることを警告しているだけです。マタイは「荒廃をもたらす憎むべきこと」、つまり「荒廃」が近づいているという警告について言及していますが、ダニエル 12 章 11 節は「荒廃をもたらす忌まわしいこと」、つまり「荒廃」をもたらす、つまり「荒廃」をもたらす出来事について言及しています。荒廃の始まり。

この章では、「忌まわしい」という言葉は偶像崇拜を指し、土曜日の代わりに日曜日の礼拝は偶像礼拝として特徴づけられ、したがって「忌まわしいもの」であることを学びました。しかしそれは「荒廃をもたらす忌まわしいもの」ではありません。なぜならそれは「荒廃」が近づいているという兆候にすぎないからです。しかし、マタイ 24 章 15 節の本文を読むと、次のように書かれていることがわかります。

「預言者ダニエルによって語られた荒廃の忌まわしいこと」、

マタイの本文と、ダニエル 12:11 の「荒廃をもたらす憎むべきこと」または「荒廃をもたらす忌まわしいこと」という用語を結び付けています。そこで次のような疑問が生じます。

マタイ 24 章 15 節で預言されている米国の日曜日律法が預言者ダニエルによって語られた「荒廃をもたらす忌まわしいもの」であるとすれば、それはダニエル 12 章 11 節の「荒廃をもたらす忌まわしいもの」ではないでしょうか。

第6章 - 1290年と1335日85

この質問に対する答えは「はい」とも「いいえ」です。いいえ、なぜなら、私たちが学んできたように、米国の日曜法は滅び、つまり「荒廃」が近づいていることを示すしるしであり、したがってダニエル 12章11節で予告されているような「荒廃をもたらす忌まわしいもの」ではないからです。

しかし、それは依然として「忌まわしいもの」であることに変わりはありません。なぜなら、今見たように、それは「忌まわしいもの」の特徴である偶像崇拝的カルトだからです。したがって、マタイ 24 章 15 節の「荒廃をもたらす憎むべきこと」は、ダニエル 12 章 11 節に記されている「荒廃をもたらす憎むべきこと」が近づいていることを示すしるしであることがわかります。マタイ 24 章 15 節の「荒廃をもたらす忌まわしいもの」が米国の日曜法であることを私たちは知っているので、米国の日曜法は別の日曜法、ダニエル 12 章 11 節の「荒廃をもたらす忌まわしいもの」が、来る。理解を容易にするために、この推論を以下のブロック図にまとめます。

イベント	それに署名する
「忌まわしい荒廃」 (マタイ 24:15)	「荒廃をもたらす忌まわしいもの」 (ダニエル12:11) -来るでしょう
アメリカの日曜法	「荒廃」をもたらす「日曜法」がやってくる

したがって、米国の日曜法は、「荒廃」または破壊をもたらす別の「日曜法」が来ることを知らせるしるしとなることがわかります。いくつかの啓示文書は、その後に滅びをもたらすこの日曜日の律法がどのようなものであるかを私たちに明らかにしています。

「信教の自由の国であるアメリカが、良心を支配し、人々に偽りの安息日を崇めるよう仕向けるために教皇庁と同盟を結べば、世界中の他のすべての国の人々もそれに倣うよう仕向けられるだろう。」

(最終的な出来事、118 ページ) (強調)

「外国も米国の例に倣うだろう。
彼女がリーダーであっても、同じ危機が世界中のすべての国民に影響を与えるでしょう。」
(最終的な出来事、118 ページ) (強調)

「神の律法を人間の律法に置き換えること、聖書の安息日の代わりに日曜日を単に人間の権威によって高めることが、この劇の最終段階である。この置き換えが普遍的になるとき、神はご自身を明らかにするでしょう。彼は地球をひどく揺るがすために立ち上がるだろう。」

(最終的な出来事、119 ページ) (強調)

上記の文章を簡単に読むと、米国の日曜法に続き、危機が全世界に広がり、その後世界日曜法が制定されることは明らかです。この世界主日の法則こそが、その後「荒廃」をもたらし、神がその威厳をもって立ち上がって「地球をひどく揺るがす」原因となるのです。

したがって、世界主日法はダニエル 12 章 11 節の「荒廃をもたらす忌まわしいもの」です。ダニエル 12 章 11 節の分析に戻りますが、その節を読むと、1290 日の始まりは「荒廃をもたらす忌まわしいもの」であることがわかります。

「11 継続的なものが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしいものが置かれた後も、まだ千二百九十日ある。」
(ダニエル 12:11)

「荒廃をもたらす忌まわしいもの」という用語の理解に基づいて、11 節を次のように書き直すことができます。

第6章 - 1290年と1335日87

「世界主日法により継続的なものが取り除かれ、日曜礼拝が課せられた後も、まだ千二百九十日ある。」

ここで、「継続的」という用語が何を意味するかを判断できます。「連続」が削除されて日曜日が礼拝の日となり、世界主日法が真の土曜日を取り除き、その代わりに偽りの土曜日である日曜日を置く場合、連続という用語は「土曜日」のみを意味することになります。したがって、11 節の理解を次のように書き直すことができます。

「世界日曜日法により安息日が奪われ日曜礼拝が課せられた後も、まだ千二百九十日ある。」

私たちが得たこの理解をグラフにすると、次のようになります。

[-----1290日-----]

もう一度 (0)

再び (1844)

世界日曜日法

?

?

12 節は 11 節の続きです。したがって、それを理解するために、11 節と 12 節をもう一度読んでみましょう。

「11 日々のいけにえが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしい行為が行われた後も、まだ千二百九十日ある。」

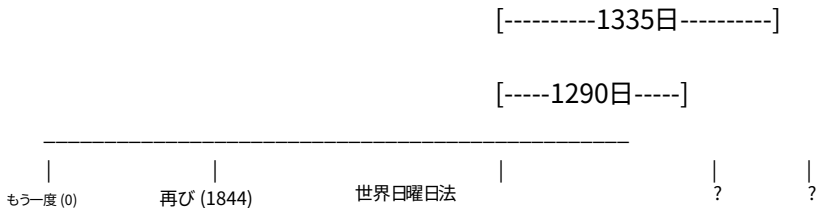
12 待ち続けて千三百三十五日に達する者は幸いである。」

(ダニエル 12:11-12)

この聖句では、1335 日が 1290 日の 12

期間の延長として示されていることがわかります。

時を数えることの始まりを示す出来事は、「荒廃をもたらす忌まわしいこと」、あるいは「荒廃をもたらす忌まわしいこと」、すなわち世界主日法です。11 節で、天使は預言者ダニエルに、世界主日律法後は 1290 日あるが、それを待って 1335 日に達する人は祝福される、または幸せになるだろうと述べています。したがって、この理解をグラフに追加すると、次のようになります。



文字通りの日ですか、それとも象徴的な日ですか？

第 5 章で示されたのと同じ推論を使用して、ダニエル 12 章の預言の 1260 日を文字通りのものとして理解すると、ダニエル 12 章の 1290 日と 1335 日が世界日曜日法で始まる日年を表す場合、次のようになります。世界日曜日法の後には、

第6章 - 1290年と1335日89

キリストの再臨の時が決定的に近づくまで、あと1335年。これは、イエスが西暦 3000 年より前に戻ってこないことを意味しますが、最後の出来事はすぐに起こるといふ聖書の預言の論理からすると、それは事実上不可能であると私たちは考えています。したがって、ダニエル 12章11節の1290日と1335日という期間は文字通りの日数を表していると理解できます。

ダニエル 12 章の 1290 日と 1335 日の終わりには何が起こるでしょうか？

ダニエル書 12 章の文字通りの 1290 日と 1335 日の数え始めがどの出来事であるかが分かれば、あとほどの出来事がこれらの期間の終わりを示すのかを発見するだけです。

1290日と1335日の終わりまでにどんな出来事があったのかを理解するには、ダニエル書12章全体を簡単に要約し、その構造を分析する必要があります。この章の構造を分析すると、まず天使が 1 節から 3 節で一連の出来事を示していることがわかります。

「終わりの時は

1 その時、あなたの民の子供たちの擁護者である偉大な君主ミカエルが立ち上がり、次のような大きな困難の時が来るでしょう。

それまで国家が存在したので、決して存在しませんでした。しかしその時には、あなたの民、この本に書かれているすべての人が救われるでしょう。

2 地の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥と永遠の恐怖に陥るだろう。

3 賢い人は大空の輝きで輝きます。そして、星のように、永遠に多くの人を義に導く者たち。」

(ダニエル 12:1-3)

第 4 章で学んだように、最初の 3 節は基本的に 3 つの出来事を要約していることがわかります。

1 - ミゲルが立ち上がる。

2 - 苦悩の時。

3 - 神の声による聖徒たちの救出。

私たちは、ミカエルが立ち上がると「苦難の時」が始まり、この「苦難の時」が神の声による聖徒たちの救出で終わることを見ました。

天使の物語に言及した後、ダニエル 12 章の残りの部分は実質的に、その預言は終わりの時に理解できると述べ、1 節から 3 節で天使によって語られた出来事についての一連の質疑応答に要約されます。4 節で、天使はダニエルに、預言は終わりの時にのみ理解できると言いました。

「4 しかし、あなたがたは、言葉を閉じて本を封印してください。終わりの時まで、多くの人々がそれを調べ、知識は増えます。」

第6章 - 1290年と1335日91

(ダニエル 12:4)

天使からこの命令を聞いた後、ダニエルは幻の中の情景の熟考に戻ります。これらの場面では、天使がイエスに、この章の1節から3節で天使によって語られた奇跡がいつ実現するのかを尋ねます (ミカエルの復活、苦悩と解放の時)。

「5 そこでダニエルが見ると、ほかに二人が立っており、一人は川の一方側に、もう一人は川の反対側に立っていた。」

6 そのうちの一人が、川の水辺に立っている亜麻布を着た人に言った、「これらの不思議はいつ実現するのでしょうか」。

(ダニエル 12:6) (強調)

天使は「亜麻布を着た人」イエスに、1節から3節に記されている奇跡がいつ実現するのかを尋ねています。

そこでイエスは天使の質問にこう答えます。

「7 亜麻布を着た男が川の水辺に立って、右手と左手を天に上げて、永遠に生きる方にかけて誓った、一度、二度、半になると聞いてください。」時間、時間。そして聖なる民の力の破壊が終わるとき、これらのことはすべて成就するでしょう。」

(ダニエル 12:7) (強調)

6節でイエスに尋ねた質問の中で、天使はダニエル 12章 1節から3節に描かれている出来事を「不思議な出来事」と呼びました。イエスは7節で天使に答えた際、同じ出来事を「事」と呼びました。

預言者ダニエルは、1節から3節で説明されている出来事がいつ実現するのかについてイエスに告げた。6節の天使の質問に対するイエスの説明を理解できませんでした。そして、1節から3節に描かれている出来事の意味をまだ理解しようとして、彼は助手の天使に尋ねます。

「8...私は言いました、主よ、これらの結末はどうなりますか？」
(ダニエル 12:8) (強調)

6 節、7 節、8 節のこの一連の質問と回答は、1 節から 3 節で説明されている出来事を指していることに注意してください。これをよりわかりやすく視覚化するために、以下の情報を要約します。

天使は 1 節から 3 節でダニエルに次のように報告しています。

「ミゲルは起きます | 苦悩の時 | 救出」

6 節で別の天使がイエスに「これらの奇跡はいつ実現するのでしょうか？」と尋ねます。

「不思議」 = 「ミゲルは立ち上がる | 苦悩の時 | 救出」

イエスは 7 節でこう答えます。「...これらのことは成就します」

「もの」 = 「ミゲルが立ち上がる | 苦悩の時 | 救出」

ダニエルは理解できず、8 節で助手の天使に「このことの結末はどうなるのですか？」と尋ねます。

「もの」 = 「ミゲルが立ち上がる | 苦悩の時 | 救出」

ダニエル 12 章 9 節から 12 節には、補助天使がダニエルに与えた答えが語られています。これらの聖句の中で、天使は「これらのことの結末はどうなるのか？」という質問に答えています。これまで見てきたように、ダニエルが尋ねている「こと」は次のとおりです。

第6章 - 1290年と1335日93

「ミゲルは起きます | 苦悩の時 | 救出」

したがって、天使の反応は、1節から3節で説明されているこれらの出来事に関連するものになります。

「ミゲルは起きます | 苦悩の時 | 救出」

天使は次のように答えて始めます。

「9 彼は答えた。『行きなさい、ダニエル。この言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されているからである。』

(ダニエル 12:9)

9節に示されている天使の応答の冒頭で、彼はダニエルに、彼らは終わりの時に初めて理解できるので、自分には理解できないと言いました。天使は 10 節でダニエルに答え続けます。

「10 多くの人が清められ、白くされ、試みられるでしょう。しかし、悪人は悪事を行い、誰も理解できませんが、賢い人は理解します。」

(ダニエル 12:10)

天使は、この預言は終わりの時にのみ理解されるだろうとダニエルに告げた後、終わりの時に生きていた誰もがその預言を理解できるわけではないとダニエルに告げます。

「賢い」人だけがそれを理解できるでしょう。聖書の概念によれば、賢い人とは、イエスを愛し、神の言葉を研究する人です。

「15 そして、あなたは子供の頃から、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに向けて知恵を与えることができる神聖な書物を知っていました。

16聖書はすべて神の靈感によるものであり、教え、戒め、矯正し、義を訓練するのに役立ちます。」

(テモテ第二 3:15-16) (強調、斜体追加)

天使は、賢い人だけが理解できるということで、ダニエル 12 章 11 節と 12 節で自分が言おうとしていることを理解できるのは「賢い人」、つまり聖書を研究する人だけだと言っているのです。

「11 日々のいけにえが取り除かれ、荒廃をもたらす忌まわしい行為が行われた後も、まだ千二百九十日ある。

12 待ち続けて千三百三十五日に達する者は幸いである。」

(ダニエル 12:11-12)

天使は答えの続きとして、1290 日と 1335 日という期間を挙げました。したがって、これらの期間は、8節でダニエルが尋ねた質問に対する天使の答えの一部です。

「これらの結末はどうなるのでしょうか？」

したがって、1290 日と 1335 日は、ダニエルの質問で「事柄」として言及された出来事に関連しています。1 節から 3 節で言及されているこれらの出来事が、6 節で天使によって「不思議」と呼ばれ、7 節でイエスによって「物事」と呼ばれていることはすでに見ました。これらの出来事は次のとおりです。

「ミゲルは起きます | 苦悩の時 | 救出」

私たちはすでに、「ミゲルが立ち上がる」とき、「苦悩の時」が始まることを研究しました。そして神の声による聖なる民の「救出」が「苦難の時」の終わりを告げるものである。この理解を図に表すと、次のようになります。

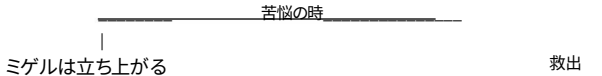
第6章 - 1290年と1335日95



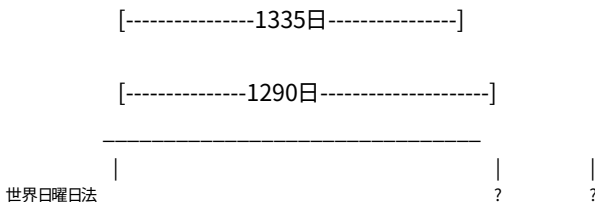
したがって、「ミゲルの復活」と「救出」という出来事が、それぞれ「苦悩の時」の始まりと終わりを示していることが分かります。

「ミゲルの立ち上がり」と「救出」という出来事は、「苦悩の時間」の長さを決定する時間軸であると言えます。

また、8 節で、ダニエルが 1 節から 3 節で説明されている出来事の結末がどうなるかを天使に尋ねていることも以前に見ました。



天使は、11 節と 12 節でダニエルに与えた答えの続きで、2 つの時間枠について言及し、1 つは期間の始まりであり、もう 1 つは同じ期間の終わりです。

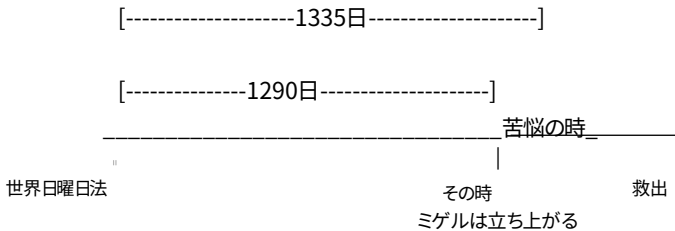


1節から3節の「ミカエルの立ち上がり」、「苦難の時」、「救出」の出来事についてのダニエルの質問に天使が答えていることを知って、私たちは次のように尋ねます。

ダニエルへの答えの中で天使が述べた 1290 日と 1335 日というマイルストーンはどの期間を指しますか？

答え: 彼はダニエルの質問の中で言及された「困難の時」についてのみ言及していると考えられます。

したがって、1290 日と 1335 日という時間枠は、その始まりと終わりを示す出来事のみを参照できます。この理解を図に表すと、次のようになります。



そして、1290日の終わりが「ミゲルが立ち上がる」時であり、「苦悩の時」が始まることに気づきます。そして、世界主日法制定から 1335 日後の終わりに、神の民は神の声によって救出を達成し、それが「苦難の時」の終わりを告げます。1290日の終わりは、ミカエルが復活し、神から人々に与えられた恵みの時が終わり、「苦難の時」が始まる正確な日を示すものではないことを強調することが重要です。疑いや憶測の余地を残さないために、以下でこのことをもう一度強調します。

第6章 - 1290年と1335日97

1290日の終わりは、人間の恵みが終わる正確な日を示すものではありません。

この日から私たちはミカエルが立ち上がる時代となるため、1290日の終わりは説教期間の終わりを意味します。これは、1290 日目に到着した時点で、ミゲルは 2、6、8、12 時間、あるいは 2、3 日以内に起きられることを意味します。人間の恵みの時がいつ終わるのかはサタンですら分からない、と啓示が述べているように、ミカエルがいつ復活するかは正確には分からない。

「サタンがエサウに影響を与えてヤコブに向かって進軍させたように、彼は邪悪な者たちをそそのかして困難の時に神の民を滅ぼすでしょう。... 彼は聖なる天使たちが彼らを守っているのを見て、彼らの罪は許されると推測します。しかし、彼は自分の訴訟が天の聖域で決定されたことを知りません。」

(最終的な出来事、201 ページ)

1290日と1335日の期間のグラフを分析するとわかるように、ダニエル書12章12節の1335日の終わりは、神の声による聖徒たちの救出と一致しています。このように理解すると、1335 日について言及している 12 節が「待ち続けて千三百三十五日に達する者は幸いである」と述べていることが非常に理にかなっていることがわかります。「幸い」という言葉は「幸せ」という意味です。なぜ 1335 日の終わりを迎える人は祝福されるのでしょうか?彼らは神の民の救出のしるしを見るので、ダニエル12章1節から3節で預言されているように、第三の天使のメッセージを信じて死んだ人々の部分的な復活を見ることになり、栄光を受けるでしょう。

「...しかしその時には、あなたの民、本に書かれているすべての人々が救われるでしょう。

2 地の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥と永遠の恐怖に陥るだろう。

3 賢い人は大空の輝きで輝きます。そして、星のように、永遠に多くの人を義に導く者たち。」

では、これらすべてのものを見る人々は祝福されるのではないのでしょうか？

確かにそうなるだろう。神の愛のためにこの世のすべてを捨て、地上で神の名を守るために苦しみ、宇宙の前で神の律法を尊重し、「苦難の時」に仲介者なしで天の聖所に留まった聖人たちは、啓示の本文が私たちに説明しているように、平和の契約を彼らに告げる神の声によって、彼らの死を求める迫害者から解放されたので、祝福されています。

「神はイエスの来臨の日時を語り、ご自分の民との永遠の契約を宣言されました。彼は文章を発音し、その言葉が地球に響き渡る間、沈黙してしまいました。神のイスラエルは目を上に向けて立って、エホバの口から発せられ、最も大きな雷鳴のように地中に響き渡った言葉を聞いていました。とても厳粛でした。それぞれの文の終わりに聖徒たちは次のように称賛しました。

ハレルヤ！"彼らの顔は神の栄光で輝き、モーセがシナイから下ってきたときのように、栄光に輝きました。悪人たちは栄光のゆえに彼らを見る事ができませんでした。そして、安息日を聖く守ることによって神を敬った人々の上に終わりのない祝福が宣言されたとき、獣とその像に対する勝利の大きな叫び声が上がりました。」

(初期の著作、285 および 286 ページ) (強調あり)

第6章 - 1290年と1335日99

したがって、1335日の終わりに到達した人は祝福されます。

文字通りの 1290 日と 1335 日という期間を、ダニエル書 12 章 1 節から 3 節に記述されている出来事（マイケルの誕生 | 苦難の時 | 救出）と結び付けると、これらの期間、一連の出来事、その他の事柄の間の調和が見られるでしょう。終わりの時について言及した聖書の一節と預言の霊。その一例は、ダニエル 12 章について 1903 年に主の使者によって書かれた声明であり、この本の第 2 章と第 3 章で解説されており、今では完全に意味がわかります。

「ダニエル書 12 章を読んで研究しましょう。彼は、困難が起こる前に私たち全員が理解する必要がある警告です。」

(原稿リリース、第 15 巻、228 ページ / 最終イベント ページ 15) (強調あり) 1903 年に書かれました。

ダニエル書 12 章の文字通りの 1290 日が「苦難の時」の始まる直前の時期であり、文字通りの 1335 日の終わりが「苦難の時」の終わりであると理解すると、この啓示の言葉は完全に理にかなっていません。これは、世界主日法の公布後、神の民が「苦難の時」が始まるまで（1290日）待つ説教しなければならない時間の基準を示しており、また、その大まかな期間も示しています。「苦難の時」。だからこそ主の使者は、「苦難の時」が来る前にダニエル12章を理解すべきであると述べたのです。ダニエル 12 章の 1260 日、1290 日、1335 日が過去のことである場合、この記述は意味をなさないことに注意してください。もしその時代が過去であれば、ダニエルについて理解できることは何もないので、主の使者は虚偽の声明を書いたでしょう。

1903 年の第 12 章（時代はすでに理解されており、この章の 1～3 節で説明されている出来事は、10 年以上前にエレン G. ホワイトによって「大論争」という本の中ですでに明らかにされていました）、 「私たち全員」が必要とするものは何もないでしょう

「問題が起こる前に理解してください」と彼女は述べました。

精製し、白くし、味を整えて…

教訓的な理由から、1290 日と 1335 日を理解することに直接焦点を当てるために、10 節で天使が述べた「清められ、白くされ、試された」という言葉の意味を説明するのをやめました。1290 日と 1335 日という期間を理解するには、より深い推論が必要になるためです。10 節には、日曜日の律法の問題がアメリカ合衆国、そして世界中で勢いを増した直後に、主の側に立つ人々に起こるであろう事実が述べられています。現時点で、黙示録が私たちに示しているところによると、主の側に立つ者は、迫害と苦しみによって清められ、白くされ、試されることになります。

これを裏付ける啓示のテキストを以下に示します。

「これまで、第三の天使のメッセージの真実を提示した人々は、しばしば単純な警戒主義者と見なされてきました。米国では宗教的不寛容が優勢となり、教会と国家が団結して神の戒めを守る人々を迫害するだろうという彼の予測は、根拠がなくばかげていると宣言された。この国は決してそれ以外のものにはなり得ないと自信を持って述べられた。

第6章 - 1290年と1335日101

彼はどんな人物だったのか：信教の自由の擁護者だった。しかし、日曜日の遵守義務の問題が広く騒がれている中、長い間疑問に思われ、説明されてきた事実が現実近づき、第3のメッセージは、以前には生み出せなかった効果を生み出すことになるだろう。 ...

こうして第三の天使のメッセージが宣べ伝えられることになる。それが最大限の力で与えられる時が来ると、主は謙虚な手段を通して働き、自らを神への奉仕に捧げる人々の心を導きます。労働者は、教育機関の準備によってではなく、神の御霊の油注ぎによって資格を与えられるでしょう。信仰と祈りを持つ人々は、神が与えてくださった言葉を宣言しながら、聖なる熱意をもって出歩かなければならず、バビロンの罪が明らかになるでしょう。公権力による教会行事の強制の恐ろしい結果、スピリチュアリズムの侵入、教皇権力の密かだが急速な進歩、すべてが暴露されるだろう。 ...

日曜日の賦課を支持する運動がより大胆かつ決定的になると、戒めの遵守者に対してこの法律が発動されることになる[既に公布された日曜日法を施行する]。彼らは罰金や投獄で脅され、信仰を放棄するよう誘惑するために影響力のある地位やその他の報酬や利益を提供される人もいるだろう。しかし、彼の粘り強い答えは次のとおりです。「神の言葉によって私たちの間違いを示してください。」 - 同じ状況でルターが提示したものと同じものです...

嵐が近づくにつれ、第三の天使のメッセージへの信仰を告白しながらも、真理への従順によって神聖化されていない多くの階級が、自らの立場を放棄し、敵対者の仲間入りをする。世界に参加し、その精神に参加することで、彼らは物事をほぼ同じ観点から見ようになりました。そして試練が来ると、楽で人気のある方を選択する準備ができています。才能があり、礼儀正しい人は、すでに真理を喜んでおり、その能力を次のことに活用します。

魂を欺き、誤解させます。彼らはかつての兄弟たちの最大の敵になります。 ...

この迫害の時代に、主の僕たちの信仰が試されることになりましたが、彼らは神と神の言葉だけに忠実に警告を与えました。神聖な御霊が彼らの心に働いて、彼らが話すことを制約しました。聖なる熱意と強い神聖な衝動に刺激されて、彼らは主が与えられた御言葉を人々に話すことの結果を計算するのをやめることなく、自らの義務を果たします。

彼らは自分たちの一時的な利益を考慮しませんでしたし、自分たちの評判や人生を守ろうともしませんでした。しかし、反対と非難の嵐が彼らに襲いかかると、驚きに圧倒されてこう叫びたくなる人もいます。「もし自分たちの言葉がもたらす結果を予見していれば、我々は黙っていたらう」。彼らは困難に囲まれていることに気づきます。サタンは残酷な誘惑で彼らを攻撃します。彼らが取り組んできた仕事は、彼らの実行能力をはるかに超えているように思えます。彼らはほとんど屈服しつつある。

彼らを活気づけていた熱意は消え去った。ただし、戻ることはできません。そして、自分たちの完全な無力さを感じて、彼らは助けを求めて、力ある御方に避難します。彼らは、自分たちが話した言葉が自分たちのものではなく、警告を与えるよう命じた方のものであることを覚えています。神は彼らの心に真理を入れられたので、彼らはそれを宣言せずにはいられませんでした。 ...

反対派はより暴力的な性格を帯びており、神の僕たちは当惑しています。なぜなら、彼らにとっては彼らが危機を引き起こしたように見えるからです。しかし、良心と神の言葉は、彼らの行動が正しいことを彼らに保証します。そして試練は続くが、彼らはそれに耐えられるように強められている...

しかし、イエスが天の聖所で人間のとりなし者として立っている間、人々の支配者たちは聖霊の抑制的な影響を感じています。 ...

真理の敵の反対は抑制され、第三の天使のメッセージがその働きを発揮できるようになります。与えられたとき、

この最終警告は、主が今働いておられる影響力のある人々の注目を集め、そのうちの何人かはそれを受け入れ、苦難の時に神の民の側に立つだろう。」

(『大論争』、603~611ページ) (強調あり、強調追加)

上で紹介したエレン・G・ホワイト著『大論争』からの抜粋は、日曜日律法の公布後に第三の天使のメッセージを宣べ伝える神の僕たちが受ける試練について説明している。アメリカで、そして苦悩の時間が始まる前に。強調表示されたテキストは、神の僕が次のような者となるという事実を強調しています。

- 「浄化された」:

「試練は続くが、彼らはそれに耐えられるよう強くなっている……」

- 「白くなった」:

「彼らを活気づけた熱意は消え去った。ただし、戻ることはできません。そして、自分たちの完全な無力さを感じて、彼らは助けを求めて、力ある御方に避難するのです。」

-

そして証明されました」:

「この迫害の時代に、主の僕たちの信仰が試されます。お客様!」

ダニエル書 12 章 10 節に述べられているように、この期間中。

時代を繋ぐ

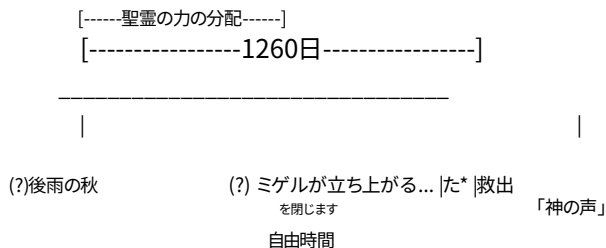
これで、各期間 (1260 日、1290 日、1335 日) を論じたすべての聖句を研究したので、各期間を結び付けて、ダニエル 12 章の預言で示された最後の出来事の概要を把握することができます。

1260日について調べたとき、イエスが言われたように、1,260日が終わるとき、1節から3節で予告されている「事」が成就することが分かりました。1節から3節で予告されている「事」は次のとおりです。

「ミゲルは起きます | 苦悩の時 | 救出"

したがって、神の声の際に起こる聖徒たちの救出は、文字通りの1260日間の終わりを告げるものであると結論づけます。

ダニエル 12、以下のグラフに到達:

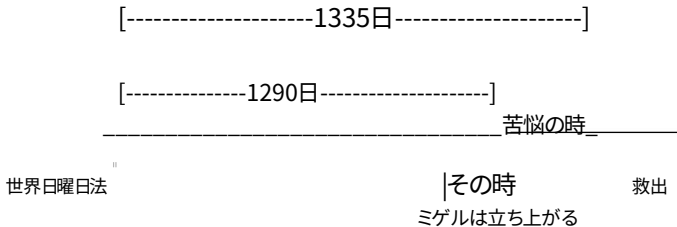


第6章 - 1290日と1335日105

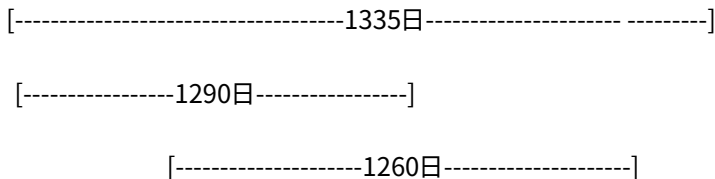
* => 苦悩の時

1290日と1335日という期間を研究すると、1335日の終わりが神の声の機会に起こる聖徒たちの救出を示していることがわかります。したがって、ダニエル 12:12 によれば、1335 日を迎えた人は祝福され、幸せになります。

その後、1290 日と 1335 日に関連する以下のグラフが得られました。



したがって、1260日も1335日も神の民の救出で終わることがわかります。したがって、彼らは結局一緒になります。これで、2つのグラフを統合して、ダニエル 12 章の預言で説明された最終的な出来事についての一般的な理解を得ることができます。以下に、ダニエル 12 章の期間とそれらに関連する出来事を統合したグラフを示します。





どこ：

1 - 「連続」の除去と「荒廃をもたらす忌まわしいもの」の設置 - 律法による休息と礼拝の日としての安息日の除去

1290年と1335年の文字通りの日の始まりを示す世界日曜日 - ダニエル12:11。

2 - 後の雨が降り注ぐ中、第三の天使のメッセージの説教に力を与えるための「聖なる民の力の分配」の開始。これは文字通りの1260日（1回限り）の始まりを示す。（2回と半分） - ダニエル 12:7。

3 - 説教期間の終わり、第三の天使のメッセージの説教が終了します。「その時、マイケルが立ち上がる」そして「かつてない苦難の時」が始まる。文字通りの1290日の終わりを告げる - ダニエル 12:1,7。

4 - 神の民の解放と部分的な復活。「...あなたの民、この本に書かれているすべての人々は救われます。土の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥辱と永遠の恐怖に陥るだろう。」 1260日と1335日の終わりを告げる - ダニエル 12:1-3,12。

注: ダニエル書は、その成就という点で預言が重なるように書かれており、「強調と増幅のための反復の原則」と呼ぶことができる原則に従って提示されています。この著作の付録 4 では、ダニエル書の預言の構造と相互関係がもう少し詳しく説明されています。図も示されています

第6章 - 1290日と1335日107

ダニエル書の預言によって表される期間が含まれており、その書の記述を構成する預言を特徴付ける並行性を示しています。読者であるあなたが、この著作で提示された分析を通じて得られたダニエル 12 章の預言の理解に従って、ダニエル書の預言と文学の並行性がどのように現れるかを確認したい場合は、この付録を読むことをお勧めします。

第7章

日々の終わりに、あなたは立ち上がるでしょう...

天使が説明したすべての時代と出来事を理解した上で、ダニエル 12 章の幻の中のダニエルですが、私たちは 13 節で天使が言った言葉の意味を理解するだけで十分です。

「13 しかし、あなたは最後まで自分の道を進みなさい。あなたは休んで、世の終わりには立ち上がって相続財産を受け取るからです。」
(ダニエル 12:1-3)

黙示録から抜粋されたテキストは、この聖句の意味を非常に明確に示しており、疑問の余地はありません。

「国家の責任と普遍的な影響力を持つ王国の秘密を担う人々から栄誉を受けたダニエルは、神から大使として栄誉を与えられ、今後数世紀の神秘について多くの啓示を与えられました。彼の名前を冠した本の第 7 章から第 12 章に記録されている彼の素晴らしい預言は、預言者自身によってさえ完全には理解されていませんでした。しかし、人生の労苦が終わる前に、「日々の終わりに」、つまり、この世界の歴史の一時期の終わりに、再びこの世にいることを許されるという祝福された保証が彼に与えられました。彼の立場、場所。神が明らかにした神の目的のすべてを彼が理解することは不可能でした。「この言葉を閉じ、この書を封印せよ」と彼は預言の記述に関して命じられた。これらは「時の終わりまで」封印されることになっていました。「行きなさい、ダニエル」天使は再びエホバの忠実な使者に命じました。なぜ

あなたは休むでしょう、そして、あなたは日々の終わりに自分の運命に立つでしょう。」ダニエル 12:4,9,13。」

(預言者と王たち、239 ページ - 要約版) (強調、斜体追加)

上の本文で強調されている「世の終わりに」という表現は、ダニエル 12:13 からの抜粋に言及しているため、括弧内に置かれています。本文は、ダニエル 12 章 13 節の天使がダニエルに、地上の歴史の終わりに聖徒たちの相続物を受け取るために復活するから、忠実であり続けるようにと言ったことを明らかにしています。したがって、「日々の終わりに」という表現は、1290日や1335日を指すのではなく、地上の歴史の日々の終わりを指します。したがって、ダニエル 12 章 13 節で、天使はダニエルに、自分は死ぬだろうと告げるだけです。しかし、彼はイエス・キリストの再臨の際に復活し、聖徒たちの相続財産、つまり永遠の命を受け取ることになるでしょう。アーメン！

第8章

結論

ダニエル 12 章の預言のすべての期間とそれに関連する出来事を含むグラフを再度下に示し、それらについて得た理解の意味を分析します。

[-----1335日-----]

[-----1290日-----]

[-----1260日-----]



どこ：

1 - 「連続」の除去と「荒廃をもたらす忌まわしいもの」の設置 - 律法による休息と礼拝の日としての安息日の除去

1290年と1335年の文字通りの日の始まりを示す世界日曜日 - ダニエル12:11。

2 - 後の雨が降り注ぐ中、聖なる民の説教に力を与える「聖なる民の力の分配」の始まり

文字通りの1260日（1回、2回、半分）の始まりを示す第三の天使からのメッセージ - ダニエル12:7。

3 - 説教期間の終わり、第三の天使のメッセージの説教が終了します。「その時、マイケルが立ち上がる」そして「かつてない苦難の時」が始まる。文字通りの1290日の終わりを告げる - ダニエル 12:1,7。

4 - 神の民の解放と部分的な復活。「...あなたの民、この本に書かれているすべての人々は救われます。土の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命に、またある者は恥辱と永遠の恐怖に陥るだろう。」1260日と1335日の終わりを告げる - ダニエル 12:1-3,12。

ダニエル 12 章の預言について得た理解から、後の雨を受け入れ、神によって第三の天使のメッセージを宣べ伝えるために用いられ、その後封印され通過するための霊的な備えとして、いくつかの重要な結論を導き出すことができます。「苦難の時」、神の声によってついに解放され、私たちの最愛の主であり救い主であるイエス・キリストの再来を喜びとともに待ちます。それぞれを以下のページで紹介していきます。

A - 後の雨が大量に降り注ぐのは、世界日曜日法が制定されてから文字通り75日後に起こります。

第 8 章 - 結論103

ダニエル 12 章の 1260 日と 1335 日は一緒に終わります。したがって、1335 日から 1260 を引くと、次のようになります。

$$\begin{array}{r} 1290 \\ -1260 \\ \hline = \text{文字通り } 75 \text{ 日} \end{array}$$

つまり、1260 日は、1290 日と 1335 日が始まってから 75 日* 後に始まります。世界日曜日法は 1290 日と 1335 日の始まりを示しているため、1260 日の始まりを示す大量の後の雨が降り注ぐのは、世界日曜日法から文字通り 75 日後に発生する必要があります。

*注: 「最後の出来事」と「選ばれたメッセージ」という本には、聖霊の注ぎ（後の雨）の正確な時刻を知るべきではないと述べている文章があります。これまでに提示した一連の推論を失わないようにするために、この著作物の付録 5 で両方のテキストについてコメントします。読者の皆さんが、文脈内で正式にコメントされたこれらのテキストの分析を確認したい場合は、前述の付録を読むことをお勧めします。それは、本「最後の出来事」と「選ばれたメッセージ」の中に見られる記述を生じさせた英語の原文を提示しており、この文を文脈の中で理解するとき、それが結論を損なうものではないことを示しています。そろそろ、後の雨が大量に降り注ぐ頃だ。

B - 苦しみの時間は約45日間続きます

ダニエル書 12 章の 1290 日と 1335 日が同じ出来事 (世界主日法の公布) で始まることが分かりました。1290 日の終わりが「の時」を決定します。

*さて、1335日は神の民の解放の日を記念します。したがって、1335 日から 1290 を引くと、次のようになります。

$$\begin{array}{r} 1335 \\ -1290 \\ \hline = \text{文字通り } 45 \text{ 日。} \end{array}$$

これが「困難な時期」のおおよその期間となります。黙示録 16 章の七つの災いが「苦難の時に」起こることがわかっているように、7つの災いはこの期間内に起こります。

*注: 幻の中で非常に明確に説明されているように、1290 日の終わりが神から人間に与えられた恵みの時間が終了する日付を決定するものではないことを強調することが重要です。起きて…。聖書の一節「その時」で使われている表現は、「ミカエル」、つまりイエスが復活し、調査判決の働きを完了し、人々の恵みの時が終わる時の入り口に私たちがいることを示しています。人類。1290日の終わりには、イエスが復活して恵みが終わる時が来ている、つまり、その時までに残された時間はほとんど（数日、さらには数時間）ない、と言う方がより賢明で正しいです。終わりの恵み。私たちがこのように言うのは、以下の本文に見られるように、サタンですら人間にとって恵みがいつ終わるのか正確に分からないことが、啓示の文書によって明らかにされているからです。

「サタンがエサウに影響を与えてヤコブに向かって進軍させたように、彼は邪悪な者たちをそのかして困難の時に神の民を滅ぼすでしょう。…彼は聖なる天使たちが彼らを守っているのを見て、彼らの罪は許されると推測します。しかし彼は、自分の事件が天の聖域で決定されたことを知りません。」

(『大論争』、618 ページ) (強調あり、強調追加)

D – 使徒パウロの次のアドバイスに耳を傾けましょう。

ダニエル 12 章を理解すると、最後の出来事を私たちに明らかにしてくださった神の大きな憐れみを理解できるようになり、私たちはそれらに直面して神の性質を正す準備ができます。

第 8 章 - 結論105

神が私たちに聖霊の二倍の分け前を与えて、私たちが性格上の欠陥を克服できるように祈りましょう。

したがって、使徒パウロが与えた次のアドバイスに留意しましょう。

「兄弟たち、私たちはあなたたちに懇願します。あなたたちの間で働いている人たち、そして主においてあなたたちを管理し、あなたたちを戒めている人たちに感謝の気持ちを持って接してください。そして、

彼らの仕事に対して、愛を持って最大限の配慮をしてくれることを伝えてください。お互いに平和に暮らしてください。

また兄弟たち、私たちは、従わない人を戒め、落胆している人を慰め、弱い人を支え、誰に対しても辛抱強く接するよう勧めます。

悪に悪を報いる人がいないようにしてください。それどころか、常に自分自身の間で、そしてすべての人に対して善を追求してください。

いつも喜んでください。

絶えず祈りなさい。

すべてのことに感謝しなさい。これがあなたに対するキリスト・イエスにおける神の御心だからです。

御霊を消さないでください。

預言を軽蔑してはなりません。

すべてのことを判断し、良いものを堅持してください。

あらゆる悪を避けなさい。」

(テサロニケ人への第一の手紙 5:12-22)

「神ご自身がすべてにおいてあなたを聖めてくださいますように。そして、私たちの主イエス・キリストが来られるとき、あなたの霊、魂、体が非難されることなく保たれますように。」

(1テサロニケ5:23)

神のお恵みがありますように。

付録1

「亜麻布を着た男」という表現が出てくる聖書の一節

第3章では、イスラエルの人々に与えられた地上の聖所での贖罪の日について論じた聖書本文と、地上の聖所の象徴性と天上の聖所の現実を結びつける文章を分析することによって、次のことがわかります。結論としては、聖書は、1844年以降、贖罪の日にキリストを司祭の職に就かせたとき、地上の大祭司が贖罪の日に司祭職を務めたときに特徴づけられていたのと同じように、キリストを「亜麻布を着た男」として特徴づけているということである。サンクチュアリ地上での儀式。この推論によれば、聖書がイエスを「亜麻布を着た人」として表現しているとき、それは1844年より前の時代のイエスを指しているという結論に達します。私たちが到達した結論を確認するために、すべてを含むリストを以下に示します。ダニエル書の10章と12章にある、私たちが研究した聖句に加えて、「亜麻布を着た人」という用語が登場する聖書の聖句です。

天の聖所で「亜麻布を着た男」という表現が登場するすべての文書:

1. エゼキエル 9:2-3 および 11:

「2そして見よ、6人の男が北に面した高い門に向かってやって来た。それぞれ手に破壊的な武器を持っていた。その中には麻布を着て腰に作家用のインクつぼを持った男もいた。そして彼らは中に入り、青銅の祭壇のそばに立った。

3 そして、イスラエルの神の栄光が、その上に立っていたケルブから立ち上り、家の入り口に達した。そして彼は、腰に作家のインクつぼを持った亜麻布を着た男に叫びました。

11すると、見よ、亜麻布を着て、帯にインクつぼをつけていたその人が、また答えて、「あなたの命令どおりにいたしました。」と言いました。

(エゼキエル 9:2,3,11 - アルメイダ研究聖書 - 1999) 」 (強調あり)

2. エゼキエル 10:2,6,7:

「2 そして彼は亜麻布を着た人にこう言った。『車輪の間、つまりケルブの下に行き、ケルブの間から出た燃える石炭を両手に満たし、それを町の上にはばらまきなさい。』そして彼は私の視界に入ってきました。

6 そして、亜麻布を着た男に、「車輪の間、ケルビムの間から火を出せ」と命じると、彼は中に入って車輪のそばに立った。

7 そのとき、ケルビムがケルビムの間からケルビムの間にある火に向かって手を伸ばした。そして彼はそれを取り、亜麻布を着た人の手に渡し、彼はそれを受け取って出て行った。」

(エゼキエル 10:2,6,7 - アルメイダ研究聖書 - 1999) 」 (強調あり)

エゼキエル書 9 章と 10 章に記載されているテキストを、一方が他方の続きであるため、まとめて紹介します。エレン・G・ホワイト著『大論争』という本は、上記の文章が将来成就するであろう預言であることを示しています。まず、この本の中でエゼキエル書 9 章の抜粋に言及している一連のテキストを示します。

付録 1 - 109という表現に言及している聖書の一節

「亜麻布を着た男」

「彼女の豊かな喜びによって裕福になった」「地上の商人たち」は、「彼女の苦しみを恐れて遠くに立って、泣き、嘆き、「あの大都市は、悲惨だ、悲惨だ！」と言うだろう。

紫と緋色の上質な亜麻布を着た人。そして金と宝石と真珠で飾られています！なぜなら、1時間であまりにも多くの富が破壊されたからです。』黙示録 18:3、15、16。

これが神の怒りの日にバビロンに下される裁きです。彼女は彼らの不法行為の尺度を満たした。彼の時代が来た。破滅の機は熟している。

神の声が神の民の捕囚を終わらせるとき、人生における大きな争いですべてを失った人々の恐ろしい目覚めが起こります。 ...

世界は、彼らが嘲笑し、嘲笑し、絶滅させようとした人々が、疫病、嵐、地震の中を無傷で通過するのを見えています。律法を犯す者にとっては焼き尽くす火である者は、その民にとっては安全な楼閣である。 ...

人々は自分たちが騙されていることに気づきました。一方は自分を破滅に導いたとして他方を非難します。しかし、全員が団結して閣僚に対する最も厳しい非難を強めている。不誠実な牧師たちは楽しいことを預言し、聴衆を誘導して神の律法を無効にし、それを神聖化しようとする人々を迫害しました。今、これらの教師たちは絶望の中で、自分たちの欺瞞的な仕事を世界の前で告白します。

群衆は怒りに満ちています。「道に迷ってしまった！」彼らは叫ぶ。「そしてあなたは私たちの破滅の原因です。」そして彼らは偽羊飼いたちに敵対します。彼らを最も賞賛した者は、彼らに最も恐ろしい呪いを宣告するでしょう。彼らに月桂樹の冠を与えた同じ手が彼らを滅ぼすために立ち上がるだろう。神の民を殺すはずだった剣が、今では敵を滅ぼすために使われており、至る所で争いと虐殺が起きています。 ...

解放のしるしは、「犯されたすべての忌まわしい行為のためにため息をつき、うめき声をあげる人々」の上に置かれました。

さて、死の天使が出てきて、エゼキエルの幻の中で破壊的な武器を持った男たちによって表現され、彼に次の命令が与えられます。しかし、そのしるしを持っているすべての人に近づいてはいけません。そして私の聖所から始めなさい。」預言者はこう述べています。「そして彼らは家の前にいた最年長の人たちから始めた」。

エゼキエル 9:1-6。破壊の働きは、人々の精神的な守護者であると主張する人々の間で始まります。偽の監視塔が最初に倒れる。同情したり容赦したりする人は誰もいません。男性も女性も乙女も幼い子供も共に滅びます。

(『大論争』、653～657ページ) (強調あり)

本「大紛争」のテキストシーケンスは、その後の出来事を説明し続けます。この本は、エゼキエル書 9 章の成就に関連する出来事を報告した後、エゼキエル書 10 章に記述されている出来事の成就となる場面を示しています。

「彼ら自身の激しい情熱の激しい争いの中で、そして神の混じりけのない怒りの恐ろしいほとばしりによって、地球の邪悪な住民は、司祭、総督、民衆、富める者も貧しい者も、身分の高い者も低い者も、屈服します。その日、主の死者は地球の端から端まで。彼らは追悼されたり、集められたり、埋葬されたりすることはない。」エレミヤ 25:33 (大論争、657 ページ) (強調あり)

上記の本文がエゼキエル書 10 章の預言の成就を示していることをより明確に理解するには、エレミヤ書 25 章の文脈を理解し、この章の終わりを理解する必要があります。エレミヤ書25章15節から

付録 1 - 111という表現に言及している聖書の一節
「亜麻布を着た男」

38節で、彼は諸国民に対する神の怒りの杯について論じています。それは、誰が神の怒りの杯を受け取り、それを飲むべきかを示しています（神の怒りの杯は、私たちが先ほど見た「大論争」という本の本文で報告されている、偉大で恐ろしい主の日の破壊的な出来事です）今）。したがって、「大論争」という本の本文に示されているエレミヤ書 25 章 33 節の一節は、エゼキエル書 9 章の場面から始まる神の怒りの日に起こる大虐殺について説明しています。容赦なく皆を殺す破壊の天使。この虐殺の描写はエレミヤ書 25 章の終わりまで続きます。

これは、この章の 36 節から 38 節を読むことで証明できます。

「36 見よ、羊飼いの叫び、羊の飼い主の遠吠え。
主が彼らの牧場を破壊しようとしているからです。
37 彼らの平和な牧場は、主の激しい怒りによって荒廃されるからである。

38 彼は獅子の子のように家を出た。主の激しい怒りの剣の激しさのために、彼らの土地は荒廃したからである。

（エレミヤ 25:36-38 - アルメイダ研究聖書 - 1999）」（強調あり）

上の本文で分かるように、「主の怒りの残り火」という表現は、神の怒りの日に起こるであろう虐殺を指しており、これは「亜麻布を着た人」イエスの投げるといふ行為の結果として起こるものである。エゼキエル書 10 章 2 節に記されている、地面にある石炭、都市。

ご覧のとおり、エゼキエル書 9 章とエゼキエル書 10 章には、将来も成就するであろう預言が記されています。これは、これらの預言が 1844 年以降に成就することを意味します。したがって、「リネンを着た男」という表現は、

これら 2 つの文書に含まれるイエスは、私たちが証明したかったように、1844 年以降のある時点のイエスを指します。

3. ダニエル 10:5:

「それで私は目を上げて見ると、亜麻布を着て、腰にウパズ産の純金を着た男が見えました。

(ダニエル 10:5 - アルメイダ研究聖書 - 1999)」 (強調あり)

4. ダニエル 12:6:

「そして彼は、川の水辺に立っている亜麻布を着た男に言った、「不思議な出来事が終わるまでどれくらいあるだろうか？」

(ダニエル 12:6 - アルメイダ研究聖書 - 1999)」 (強調あり)

提示されたこれらの最後の 2 つのテキストについては、この本の第 3 章ですでにコメントされています。そこで私たちは、これらの聖句の中で「亜麻布を着た人」という表現が、1844年より前の時代の大祭司イエスを指していることが分かりました。

5. ダニエル 12:7:

「そして私は、亜麻布を着た男が川の水面に立って、右手と左手を天に上げ、永遠に生きる御方にかけて、時が経っても、そして何度も、そして永遠に生きることを誓ったときの声を聞きました。」半分、しばらく、そして彼らが聖なる民の力を破壊し終えたとき、これらのことはすべて満たされるでしょう。

(ダニエル 12:7 - アルメイダ研究聖書 - 1999)」 (強調あり)

付録 1 - 113という表現に言及している聖書の一節
「亜麻布を着た男」

このテキストはダニエル 12:6 と同じ文脈の中に挿入されており、この本の第 3 章ですでにコメントされています。したがって、この中には、1844年以降の大祭司イエスを指す「亜麻布を着た人」という用語も含まれています。

付録 2

エレン・ホワイトが1844年以降の確定的予言について書いたこと

ダニエル 12 章の 1260 日、1290 日、1335 日という期間が 1844 年より先のことでありと仮定すると、次のような疑問が生じます。

これは、1844 年以降は時間はもはや試練ではなくなり、1844 年以降の預言的な時間の明確な計算はもはや存在しないと述べているいくつかの既知の啓示文書と矛盾しないでしょうか？

この疑問を明確にするためには、私たちが言葉を通して何を言っていると思うかではなく、その文章が何を言おうとしているのかを正確に理解するために、靈感を受けた文章をどのように分析すべきかを理解する必要があります。これは、彼女が書いた証言の中には有効なものとそうでないものがあるという意味ではありません。これは、テキストを解釈する際に誤った結論を導き出すような間違いに陥らないようにすることを思い出させるだけです。

エレン G. ホワイトによるこれらのテキストの正しい分析は、「解釈学」の原理を使用して行うことができます。これらの原則は、神や預言の霊によって確立されたものではありませんが、テキストを分析するのに非常に役立ちます。「解釈学」は、聖書またはエレン G. ホワイトのテキストが何を意味するかを正確に理解するために、そのテキストに適用する必要がある規則として多くの学者や神学者によって定義され、受け入れられている一連の規則です。

解釈学の原則の 1 つは次のように述べています。

「エレン・G・ホワイトの文章は、その周囲の文脈の中でのみ理解できる」

(Una Advertencia, 8 ページ - パート 11 - マリアン ベリー) (強調あり)

これは、黙示録のテキストを分析するとき、それが挿入されている文脈を分析し、このテキストがどこに正確に適用されるかを理解し、テキストの誤った適用を避ける必要があることを意味します。したがって、問題のテキストの前後の段落を考慮して、そのコンテキストを特定することが重要です。また、証言が誰に宛てて（手紙の場合）、どのような状況で書かれたのかを評価して理解することも役立ちます。これらの解釈原則を考慮して、1844 年以降に明確な時期は存在しないと述べている黙示録の本文を分析していきます。

歴史的背景 (直接のおよび広範):

1844年の失望に続くキリストの到来のメッセージは、ヨハネの黙示録第10章です。すでに預言者ヨハネによって預言されており、そのとき天使はヨハネに「その本を食べなさい」と言った。ヨハネは天使に従い、その本を食べると、口の中で「蜂蜜のように甘い」と感じました。しかし、それを食べた後、彼の胃は「苦くなった」。この本は、1844年のキリストの再臨を指し示すメッセージを表していました。

このメッセージは「蜂蜜のように甘い」ものでした。しかし、約束の日が過ぎてもイエスが来なかったとき、そのメッセージは苦々しいものになりました。

主の使者は、1844年の大きな失望について書き、神は彼女をご自分の民を試すために用いられたと述べました。

「イエスが期待していた時間に戻ってこなかったとき、信頼していた人たちが失望しているのを私は見ました。を隠すのが神の目的だった

付録 2 - エレン ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について書いたこと 117

そして神の民に決断の時をもたらすのです。キリストの再臨の明確な時期の説教がなければ、神が定めた働きは実行されなかったであろう。サタンは、裁きと恵みの終わりに関連する偉大な出来事を未来の向こう側に目を向けるよう、多くの人を導いていました。人々が現在に向けた熱心な準備を求めるよう導かれることが必要であった。

時間が経つにつれ、天使の光を十分に受け取らなかった人々は、そのメッセージを軽蔑していた人々と団結し、失望した人々に敵対し、彼らを嘲笑するようになりました。天使たちはキリストの追隨者を公言する人々の状況を示しました。定められた時間が経過するにつれて、それらは試され、試しられ、多くは秤で量られて、不足していることがわかりました。彼らは大声ではっきりと自分たちはクリスチャンであると宣言しました。しかし、ほとんどすべての点において、彼らはキリストに従うことをやめました。サタンはイエスの信奉者であると公言する人々の状態に大喜びしました。

（初期の著作、246 ページ）」（強調あり）

黙示録 10 章で預言された 1844 年の大きな失望の後、神の民を試す、キリストの再臨の明確な時期の説教から生じる結果は他にはありません。

しかし、不満を抱いた一部のキリスト教徒は何度も何度も、キリストの再臨の新しい日付を指摘する新たな推測研究を実行し始めました。このことが次々と失望を生み、誠実なクリスチャンを落胆させました。このため、誰かがキリストの再臨を示す新たな預言の成就を示すために立ち上がるたびに、主の使者はそのようなメッセージを提示した人々の誤りを宣言する証言を書くよう神から警告された。これが起こったいくつかの場面を以下に引用します。

1) イエスが「真夜中」まで戻らないと述べているマタイ 25 章 6 節の本文に基づいて、一部の人は 1851 年の 7 月 (ユダヤ暦) の 10 日にキリストの再臨を期待しました。

その後、エレン・G・ホワイトは自分の間違いが明らかになるビジョンを見ました。これは『Primeiros Escritos』という本に記載されており、以下に示されています。

「そこで私は、「継続」(ダニエル書 8:12)との関連で、「犠牲」という言葉は人間の知恵によって与えられたものであり、本文に属さないこと、そして主が犠牲者たちに正しい見解を与えてくださったことを知りました。彼は裁きの時の叫びを上げた。1844 年以前に労働組合が存在したとき、「連続」を理解する正しい方法についてほぼ全員が一致していました。しかし、1844 年以來の混乱の中で、他の意見が抱かれ、暗闇と混乱が続きました。1844 年以來、時間は試練ではありませんでしたし、今後も決して試練ではないでしょう。

主は、第三の天使のメッセージが遠く離れた主の子供たちに伝えられなければならないが、時間に依存してはいけないことを示してくださいました。ある人たちは説教の時間に興奮して誤った興奮を覚えているのが見えました。しかし、第三の天使のメッセージは、時間の経過を超えて強力です。」

(初期の著作、75 ページ) (強調)

したがって、歴史的な脈絡は、この文書で言及されている「時」がイエスの再臨の時であることを示しています。これは、以前は 1844 年であると説教されてきましたが、これは、2300 の夕と朝の預言についての誤った理解によるものでした。開拓者、アドベンチスト。したがって、本文中の「1844 年以來、時間は試練ではなかったし、今後も決して試練ではない。」という表現は、定められた時間を説く神からのメッセージは存在しないことを意味します。

付録 2 - エレン・ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について書いたこと

失望と動揺をもたらしたキリストの再臨。

2) ジョセフ・ベイツを含む一部のキリスト教徒は、聖域の贖罪の日にヤギの血を七回振りかけるたびに慈悲の座に振りかけるという理論に基づいて、1851年のキリストの再臨を計算して指摘した。(レビ記 16 章)、1 年 (1844 + 7 = 1851) を意味します。自分の間違いを正すために、彼は次のような説教をしました。

「1851年6月21日にニューヨーク州カムデンで主がホワイト姉妹に与えられた幻の写し。主は私に、メッセージは必ず伝わるものであり、時間に依存してはならないことを教えてくださいました。時間は二度と試練にならないからです。ある人たちは説教の時間から生じた誤った興奮を得ているのが見えました。第三の天使のメッセージはそれ自体の基盤の上に立つことができ、それを強化するのに時間は必要なく、強い力で進み、その働きを行い、義において短くなるのがわかりました。

すべてを来年の秋に依存している人もいるのが見えました。つまり、計算を行い、その時点を参照してそのプロパティを処分します。私は、それが間違っているのはこのような理由からだと感じました。彼らは、毎日神のところへ行き、自分たちの現在の義務を知りたいと熱望する代わりに、神に尋ねることもなく、あたかもこの秋にその仕事が終わることを知っているかのように、先を見据えて計算をしていたのです。毎日のあなたの義務。 -例:

白。"

(選択されたメッセージ - Vol. 1 - ページ 188 および 189 / 1891 年 9 月 5 日、ミシガン州ランシングでの説教) (強調あり)

文脈からしても、この文章が、キリストの再臨の明確な時期を示す預言はもはや存在しないという事実に言及していることが明らかです。文中では、その使者は、

主は、これらクリスチャンたちの間違いは、イエスが来られ、その秋に働きが終わることを知っていたと思ひ込んだことであつたと述べておられます。

3) ほんの数日後、彼女は同じ間違いを犯した別の男性（名前は出ていないが）を正すため、別の証言を書き、イスラエルの人々が信仰を持った40年間に基づいてイエスの到来を1884年とした。民数記 13 と 14 (1844 + 40 = 1884) に記述されているように、カナンに入る前に荒野をさまよった。

「1851 年 6 月 29 日、ミルトンでコピー、AAG

これは、先週の月曜日に自分の著作を調べていたときに見つけた文書であり、ここにある別の文書は、1884 年に時を刻み、自分の理論を証明するために自分の主張を広範囲に広めた男に関連して書かれたものです。ジャクソン（ミシガン州）のキャンプ会議で、彼が何をしているのかというニュースが私にもたらされたので、私は人々に、この男の理論に注意を払う必要はない、と言いました。なぜなら彼が予言した出来事は起こらないからだ。神が自らの力で定めた時間と季節。そしてなぜ神は私たちにこの知識を与えなかったのでしょうか？ - もし神がそうされたら、私たちはそれを適切に活用できないからです。この知識は、私たちの人々の間に状況をもたらし、来たるべき偉大な日に生き残るために人々を準備する神の働きを大幅に遅らせるでしょう。私たちは時間に興奮して生きてはいけません。私たちは神が明らかにしていない時期や季節についての憶測に夢中になるべきではありません。イエスは弟子たちに「見ていなさい」と言われましたが、それは一定の時間ではありませんでした。

彼の信奉者は、自分たちが司令官の命令を聞く者の立場にあることを自覚しなければなりません。彼らは主の再臨の時が近づくにつれて、見守り、待ち、祈り、働かなければなりません。

付録 2 - エレン ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について書いたこと

しかし、その時がいつ来るのかを正確に予測できる人は誰もいません。なぜなら、「その日とその時間については誰も知らない」からです。神が1年以内、2年以内、あるいは5年以内に来るとは言えないし、10年、20年ではないと宣言して神の到来を遅らせるべきでもない。」

(厳選されたメッセージ - Vol. 1 - ページ 190,191)

キリスト教徒がキリストの再臨について定められた時期を説いているという文脈でもあることは明らかであり、主の使者がこの本文で警告したのはこれに反するものでした。この文書は、1844 年より前に他の出来事が成就する明確な時期を示す予言は存在し得ないという結論に私たちを導きません。

4) 1885 年、JM 氏の娘が描いたビジョンを明確にするために、ガーミンは、神からではなく、主の使者であるサタンからのいくつかの出来事について、次のような証言を書きました。

「ガーミン氏の娘は幻を見ることを意図しており、あるいは彼も彼女に幻視を見せるつもりだ。しかし、彼らには神の刻印がありません。それらは、私たちが経験の中で遭遇した他の多くの類似のもの、つまりサタンの妄想と同じ性質を持っています。

私はジャクソンキャンプの集会で、魂の敵対者の仕事をしているこれらの狂信的なグループに対して積極的に宣言しました。彼らは暗闇の中にいた。彼らは、1844 年 10 月に保護観察が終了することに関して、大きな悟りを持っているふりをしました。

私はそこで公の場で宣言しました。主は1844年以来神から与えられたメッセージには明確な時期がないことを私に示すために仕えられたのです。そして、四人か五人が熱意を持って擁護しようとしていたこのメッセージが異端であることを私は知っていました。この哀れな少女の幻視は神からのものではありませんでした。

この光は天から来たものではありません。時間は短かったです。しかし、まだ終わりではありませんでした。生ける神の印章が押されるように民を備えるために、大いなる業が行われなければなりませんでした。」

(選択されたメッセージ - Vol. 2、73 ページ) (強調あり)

一連のテキストを読み続けると、主の使者が言及していた文脈が、キリストの再臨と恵みの終わりの定められた時を示すものであることが再びわかります。このことは、次の文章からの抜粋を読むと非常に明白になります。

「あなたが娘のアナを通して神からあなたや他の人々に伝えたとあなたが思っているものは、神からのものではないことを主は私にはっきりと示されました。彼らは神の資格を提示しません。少女を支配するもう一つの精霊。その中で活動するのは敵です。

このような現象は、この終わりの日にますます一般的になるでしょう。

それらは統一やすべての真実には至らず、そこから遠ざかります。

これらの現れが神からのものではないという確かな兆候は、それらが私たちが間違っていることを知っているあなたの見解に同意しているということです。...これらの幻の中で語られていたいくつかのことが実現しました。しかし、キリストの再臨の時期、恵みの終わり、そして起こる出来事に関しては、他にも多くのことが書かれています。

彼らの予言やアナの予言と同じように、それらは完全に誤りであることが判明しましたが、彼らは、それらについての発言をねじ曲げたり、別の意味を与えたり、同じように騙したり騙されたりしながら、自分たちの間違いを言い訳しようとしてきました。

(選択されたメッセージ - 第 2 巻、74、76 ページ) (強調あり)

5) 別の機会には、死の床で多くの人に信じるように勧めた誠実なクリスチャンを説得するのにかなりの困難があった。

付録 2 - エレン・ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について書いたこと 123

彼女の推論には、1894 年のキリストの再臨を示す計算が含まれていました。誤りを明確にするために、彼女は次のように書きました。

「私は地図を作り、主が特定の日、1894年に再臨されることを聖書から論じました。多くの人にとって、この推論は完璧であるように思えました。彼らは病室での彼の力強い勧めについて話しました。最も素晴らしい光景が彼の目の前を通り過ぎていった。しかし、彼のインスピレーションの源は何だったのでしょうか？それは痛みを和らげるために彼に与えられたモルヒネでした。

オーストラリアに来る直前に、ミシガン州ランシングで行われたキャンプミーティングで、私はこの新しい光について率直に語らなければなりませんでした。彼は人々に、彼らが聞いた言葉はインスピレーションの真実ではないと言いました。このような真理の表示を示した驚くべき光は、聖書の誤用の結果でした。主の働きは 1894 年に終わるわけではありませんでした。私に対する主の言葉は次のとおりでした。」 ...

キリストがいつ来るのか、来ないのかを決める人は誰も真のメッセージを持っていません。神は、キリストが来られるのを5年、10年、20年遅らせるなどと言う権威を与えていないことを確信してください。「あなたも気づいています。人の子はあなたが何も考えていない時間に来るからです。」

マタイ 24:44」

(選択されたメッセージ - Vol. 2, 113 および 114 ページ) (強調あり)

このテキストでも、他の提示されたテキストと同様に、コンテキストがすでに説明したものと同じであることを確認しました。したがって、この文書は、1844 年以降に定義された預言的な時期が存在しないと主張しません。

6) この件に関して時折疑問を投げかける啓示の文章は、1896 年に書かれた。

黙示録 14 章の三人の天使のメッセージと、黙示録 18:1 に記述されているもう 1 人の天使のメッセージについて、いくつかの誤った教えが宣告されていました。

「神の裁きの時が来たことを宣言する黙示録 14 章のメッセージは、終わりの時に与えられます。そして、黙示録 10 章の天使は片足が海に、もう片足が陸にあるように描かれており、そのメッセージが遠くの土地に運ばれ、海を渡り、海の島々が最後の宣言を聞くことを示しています。私たちの世界に対する警告のメッセージ。

「そのとき、私が海と地の上に立っているのを見た天使は、右手を天に向かって上げ、永遠に生き、天と地と海とその中のすべてを創造された方にかけて誓った。もう遅刻する必要はありません。」アポック。 10:5 と 6。このメッセージは預言の期間の終わりを告げるものです。 1844年に主にお目にかかることを期待していた人々の失望は、主の出現を熱心に期待していた人々にとっては実に苦いものでした。この失望が訪れ、心の内が明らかになるのは主のご計画の中にあつたのです。」

(選択されたメッセージ - Vol. 2, 108 ページ) (強調あり)

本文中で強調されているフレーズは、1844 年以降は預言的な明確な期間が存在しないことを示唆しているように見えます。しかし、文脈は 3 人の天使のメッセージを扱っています。主の使者は、黙示録 10 章のメッセージは、3 つの天使のメッセージの説教の時期を示す預言期間の終わりを告げるものであり、1844 年以降に明確な時期の預言が存在しないということではない、と説明しています。これは十分に証明されています。後で数段落を読むと、黙示録 10 章の成就に関して彼女は次のように述べています。

付録 2 - エレン・ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について 125
書いたこと

「まさにそのサタンが現在、神の民の信仰を損なわせようとして働いています。あらゆる新しいアイデアを受け入れる準備ができています。ダニエルと黙示録の預言は誤解されています。これらの人々は、真理が、神がこの特別な働きを実行するように指示したまさにその人たちによって、定められた時に明らかにされたとは考えていない。これらの人々はまさに預言の成就に向けて一歩一歩前進しました。そして、この働きを個人的に経験したことのない人々は、神の言葉を受け取り、「彼らの言葉」を信じなければなりません。第一、第二、第三の天使のメッセージの宣言。」

(選択されたメッセージ - Vol. 2, 111 ページ) (強調あり)

主の使者はまた、時代に先駆けた預言 (1896年)を参照して、次のように述べています。

「神が過去の預言の歴史の中で成就すると指定したことはすべて成就し、これから起こることはすべて神の命令によって実現します。神の預言者ダニエルが彼の代わりにいます。ジョンが彼の代わりにいます。黙示録では、ユダ族のライオンが預言学者にダニエル書を開いたので、ダニエルが彼の代わりに立ち上がるでしょう。彼は、その成就のまさに入り口に立っている私たちが知る必要がある、偉大で厳粛な出来事についてのビジョンの中で主が彼に明らかにされたことを証言しています。」

(選択されたメッセージ - Vol. 2 - ページ 109) (強調あり)

1896年に書かれたこの証言の中で、エレン・G・ホワイトはダニエルが未来形で現れるだろうと述べている。また、提示されたテキストの最初の文から、成就すべき預言がまだ残っていることも明らかです。

「神が過去の預言の歴史の中で成就すると指定したことはすべて成就し、これから起こることはすべて神の命令によって実現します。」

7) 黙示録 10 章で預言者ヨハネが受け取った幻についても説明している別の啓示の文書では、キリストの再臨の定められた時期についての説教の終わりについて報告しています。

「国民には、定められた時期について、それ以外のメッセージはありません。この期間が経過すると、[Apoc. 10:4-6] は 1842 年から 1844 年まで続いており、預言の時代を明確に追跡することはできません。最も長い記録は 1844 年の秋までのものです。」

(聖書注釈 - 第 7 巻、971 ページ / 最後の出来事、32 および 33 ページ)

このテキストの最初の文を読むと、1844 年以降の時間の予言は存在しないと本当に述べられているように思えます。

しかし、この本文をその前後の段落と合わせて読むと、1844 年以降、キリストの再臨を指し示す、定められた時期の預言された説教はもう存在しないと言及していることが再びわかります。原文を以下に示します。これはポルトガル語への翻訳付きで『Manuscripts, 59』に掲載されており、次のことがわかります。

「章のタイトル: 黙示録」

第 10 章 1-11

(14:6-12; ダニエル 12:4-13)キリストに劣らない人物だ。 --

付録 2 - エレン・ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について書いたこと 127

ヨハネは雷鳴が発した奥義を聞いたが、それを書かないよう命じられていた。七つの雷で表現されたヨハネに与えられた特別な光は、第一と第二の天使のメッセージの下で起こるであろう出来事の描写でした。人々がこれらのことを知ることは最善ではありませんでした、なぜなら彼らの信仰は必ず試される必要があるからです。で

神の命令により、最も素晴らしく高度な真理が実現するでしょう。

宣言される。第一と第二の天使のメッセージが宣言されることになっていましたが、これらのメッセージがその特定の働きを終えるまでは、さらなる光は明らかにされませんでした。これは、天使が海の上に片足で立っており、時間はもはや存在すべきではないと最も厳粛な誓いを持って宣言することで表されています。天使が厳粛な誓いを持って宣言するこの時は、この世界の歴史の終わりではなく、試用期間でもなく、私たちの主の出現に先立って行われるべき預言の時間でもあります。つまり、人々は明確な時期に別のメッセージを受け取ることはありません。1842 年から 1844 年に至るこの期間を過ぎると、預言の時代を明確に追跡することはできなくなります。最長の計算は 1844 年の秋に達します。片足を海に、もう片足を陸に置いた天使の位置は、神の宣言が広範囲に及ぶことを示しています。

メッセージ。それは広い海を越えて、他の国々、さらには全世界にまで宣告されるでしょう。真実の理解、メッセージの喜びの受け取りは、小さな本を食べることで表されます。私たちの主の降臨の時間に関する真実は、私たちの魂への貴重なメッセージでした。」

(SDA聖書注釈、第7巻、971ページ、段落8)

MS 59、1900)。

翻訳：

「章のタイトル: 啓示」

第 10 章 1-11

(代 14:6-12; ダニエル 12:4-13)。他ならぬキリストです。

ヨハネは雷撃者たちが宣言した奥義を聞きましたが、それを書かないよう命じられました。七つの雷によって表されるヨハネに与えられた特別な光は、第一と第二の天使のメッセージの説教の下で起こるであろう出来事の描写でした。神の最も素晴らしく先進的なメッセージが宣言されるには、必然的に彼らの信仰が試されなければならないため、人々はこれらのことを知らない方が良かったのです。これは、天使が片足を海の上に立って、時間はもうないという最も厳粛な誓いを持って宣言することで表されています。天使が厳粛な誓いを持って宣言するこの時は、地上の歴史の終わりでも、試練の時代の終わりでもなく、預言の時代の終わりである。

付録 2 - エレン・ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について書いたこと 129

それは救い主の出現に先立つことになる。つまり、人々は、定められた時間について別のメッセージを受け取ることはありません。1842 年から 1844 年に及ぶこの期間を過ぎると、預言の時間を明確に追跡することはできなくなります。最も長い記録は 1844 年の秋までのものです。片足を海に、もう片足を陸に置いた天使の位置は、メッセージの宣言が広範囲に及ぶことを示しています。それは海を越え、国を越え、全世界へ発信される。メッセージの理解、メッセージの感謝の受け取りは、本を食べるという行為で表されます。キリストの再臨の時のためのメッセージは、私たちの魂にとって貴重なメッセージでした。」

(アドベンチスト聖書注釈、第 7 巻、971 ページ、段落 8 / 原稿、59、1900) (強調あり、強調追加)

主の使者はこの聖句の中で、第一と第二の天使のメッセージの説教が有効になるまでは神の民に新たな光は与えられないことを明らかにしており、これは黙示録に見られる、海の上に片足で立っている天使によって表されています。 10.

彼女はまた、天使が「もはやその時ではない」と述べたとき、彼はキリストの再臨に定められた時がもはや試練ではないという事実に言及していることを明らかにしました。これは、この段落の最後の文から明らかです。

「キリストの再臨の時のためのメッセージは、私たちの魂にとって貴重なメッセージでした。」

したがって、1842年から1844年までの期間の後には、もはや預言の時間の明確な境界線は存在し得ない、と彼女がコメントした文は、キリストの再臨の明確な時間を示すメッセージがもはや存在し得ないことも意味する。歴史的背景を分析すると、これは失望が 1844 年以降ではなく 1844 年に起こることを意味していることがわかります。

2300年の午後と朝の予言に記されている期間の終わりについて言及している最初のメモは、1844年ではなく1843年を指している。本文は1842年から1844年までをカバーしており、それらはこの運動が起こった年であったためである。ピークに達し、予言の成就予定日も 1844 年 10 月 22 日と定められました。

1844年より先の明確な時期の予言について論じた黙示録を分析した結果、そのような警告が書かれたとき、それらは実際には、第二の時代の明確な時期を指し示す神の民へのメッセージはもはや存在しないと言及していたことが確認された。キリストの到来は 1844 年以降であるため、時間はもはや試練ではなくなり、1844 年が明確な時期を示すすべての予言の終わりを示したわけではありません。彼女がこのトピックを扱っている他のすべての文章でも、同じことがわかります。

また、聖書は、1844 年以降に成就する明確な時期を示す予言があると宣言していることを強調することも重要です。したがって、1844 年以降に将来の明確な時期を示す予言は存在しないという声明は、聖書に矛盾することになります。以下は、1844 年より先の明確な時期を指し示している聖書の預言的な文章のリストです。

「あなたが見た十本の角は十人の王であり、まだ王国を得ていないが、一時間だけ獣とともに王としての権威を受けています。」 (黙示録 17:12)

「したがって、ある日のうちに、死、悲しみ、飢えという災難が訪れるでしょう。そして彼女は火で焼き尽くされるだろう、主なる神は力強く、彼女を裁かれたからだ。」 (黙示録 18:8)

付録 2 - エレン・ホワイトが 1844 年以降の明確な時間予言について 131
書いたこと

「そして、彼らは自分たちの苦痛を恐れて、遠くに立ってこう言います : ああ！
そこには !偉大な都市、バビロン、偉大な都市よ !一時間以内に彼の判決が下されるから
だ。」 (黙示録 18:10)

「残りの死者は千年が終わるまで生き返らなかった。これが最初の復活です。」 (黙
示録 20:5)

したがって、私たちはエレン・G・ホワイトが神の靈感を受けた女預言者であると信じて
いるので、1844年以降の明確な時期を示す預言は存在しないと彼女は主張しないだろ
うと信じています。これは聖書と矛盾するからです。

付録 3

ダニエル 8章13節の「荒廃させる罪」という用語が、ダニエル 12章11節の「荒廃をもたらす忌まわしい行為」または「荒廃をもたらす忌まわしい行為」（欽定訳）という表現と関連付けられないのはなぜでしょうか。

ヘブライ語の原文を見ると、ダニエル 8 章 13 節に「壊滅的な違反」という表現が示されていることがわかります。

ジョアン・フェレイラ・デ・アルメイダ修正および更新)は、次の表現のヘブライ語翻訳です。

פֶּשַׁע שָׂמָם

ペシャシャム

「ペシャ」という用語は、ヘブライ語聖書の原本には 93 回出てきます。聖書にこの語が出てくるすべての箇所のうち、84 箇所では「罪」という含意（意味）を持って「罪」と訳されています（原文の最も忠実な翻訳と考えられている欽定訳聖書による）。例として、この方法で翻訳されたペシャという用語を含む 84 節のうちの 3 節を以下に示します。

「彼に注意し、彼の声に耳を傾け、彼に反抗してはならない。彼はあなたの罪を許さないからである。私の名前が入っているからです。」

(出エジプト記 23:21)

「なぜあなたは私の罪を赦し、私の咎を取り去らないのですか。今のところ、私は塵の中に横たわります。もしあなたが私を捜すなら、私はもういないでしょう。」

(ヨハ 7:21)

「罪を終わらせ、罪を終わらせ、咎を償い、永遠の義をもたらし、幻と預言を封じ、そして、聖なる者に油を注ぐために。ドス・サントス。」

(ダニエル 9:24)

読者の皆さんが、「ペシャ」という用語を含む原語のヘブライ語のすべての箇所を確認したい場合は、この用語が古いヘブライ語で使用されているすべての箇所を含むリストを以下に引用します。

遺言:

創世記 31:36。 50:17;出エジプト記 22:9。 23:21; 34:7;レビ記 16:16。 16:21;民数記 14:18。ヨシュア記 24:19。サムエル上 24:11; 25:28;列王上 8:50。ヨブ記 8:4。 13:23; 14:17; 31:33; 33:9; 34:6; 34:37; 35:6; 36:9;詩篇 5:10。 19:13; 25:7; 32:1; 32:5; 36:1; 39:8; 51:1; 51:3; 59:3; 65:3; 89:32; 103:12; 107:17;箴言 10:12。 10:19; 12:13; 17:9; 17:19; 19:11; 28:2; 28:13; 28:24; 29:6; 29:16; 29:22;イザヤ書 24:20。 43:25; 44:22; 50:1; 53:5; 53:8; 57:4; 58:1; 59:12; 59:20;エレミヤ 5:6。哀歌 1:5; 1:14; 1:22;エゼキエル 14:11。 18:22; 18:28; 18:30; 18:31; 21:24; 33:10; 33:12; 37:23; 39:24;ダニエル 8:12。 8:13; 9:24;アモス 1:3; 1:6; 1:9; 1:11; 1:13; 2:1; 2:4; 2:6; 3:14; 5:12;ミカ 1:5。 1:13; 3:8; 6:7; 7時18分。

これらの聖句のほとんどすべてで、「違反」と訳されているヘブライ語のペシャという用語が「罪」の意味を持っていることが容易にわかります。

「ペシャ」という用語は9回だけ異なる訳されており、そのうち3回は直接「罪」と訳されています。

付録 3 - 荒廃する不法侵入 x 荒廃する忌まわしい行為135

「恥」という用語は聖書に92回出てきますが、そのうち49回では「荒廃」と訳されています。この用語の訳語については学者の間で合意があるため、そのまま受け入れることにします。したがって、次のようになります。

ヘブライ語の用語	ポルトガル語への翻訳
体重`	違反（罪）
恥ずかしい	荒廃

本文に意味を与えるためにヘブライ語を翻訳すると、「荒廃の罪」または「荒廃させる罪」になります。

この表現は「荒廃をもたらす忌まわしい行為」と訳されています（聖書）アルメイダ研究 - 1999年）または「荒廃をもたらす忌まわしい行為」（国王ヤコブ訳）は、ダニエル 12:11 に示されており、元のヘブライ語の表現に由来しています。

שִׁקְוֹט שָׂמָם

シッキュツシャム

shiquwtsという用語は、ヘブライ語聖書の原本には 28 回登場します。20回は「忌まわしいこと」と直訳されており、明らかに「偶像崇拜」または偶像崇拜の意味合いを含んでいます。例として、この方法で翻訳されたshiquwtsという用語を含む 20 節のうち 3 節を以下に示します。

「ソロモンはシドニア人の女神アシュトレトとアンモン人の忌まわしい存在ミルコムを追った。」

(列王上 11:5) (強調あり)

「牛を殺す者は殺人を犯す者と同じである。牛を殺す者は殺人を犯す者と同じである。子羊を犠牲にする者は、犬の首を折る者と同じです。豚の血を捧げる者と同じように、奉納を捧げる者。香を焚く者は、偶像を祝福する者と同じように。彼らが自らの道を選択し、彼らの魂がその忌まわしい行為を喜んでいるように、私は彼らのために不幸を選び、彼らが恐れているものを彼らにもたらしめます。というのは、私が叫んだのに誰も答えず、私が話しても彼らは聞く耳を持たなかったのです。しかし、彼らは私の目には悪であることを行い、私が喜ばないことを選びました。」

(イザヤ 66:3-4) (強調あり)

「彼は一週間の間、多くの人々と堅い契約を結ぶでしょう。週の半ばには、いけにえと穀物の捧げ物をやめさせます。忌まわしい翼に乗って破壊者がやって来る、決定された破滅が彼に降りかかるまで。」

(ダニエル 9:27) (強調)

読者の皆さんが、shiqquwts という用語を含む原語のヘブライ語のすべての箇所を確認したい場合は、旧約聖書でこの用語が使用されているすべての箇所を含むリストを以下に引用します。

申命記 29:27。列王上 11:5。 11:7;列王下 23:13。 23:24;歴代第二 15:8;イザヤ書 66:3;エレミヤ 4:1。 7:30; 13:27; 16:18; 32:34;エゼキエル 5:11。 7:20; 11:18; 11:21; 20:7; 20:8; 20:31; 37:23;ダニエル 9:27。 11:13; 12:11;ホセア書 9:10。ナホム 3:6。ゼカリヤ書 9:7。

付録 3 - 荒廃する不法侵入 x 荒廃する忌まわしい行為137

実行された分析に基づいて、次のことがわかりました。

ヘブライ語の用語	ポルトガル語への翻訳
シクウツ	忌まわしいこと（偶像崇拜）
恥ずかしい	荒廃

私たちは、ヘブライ語の原文を分析した結果、「忌まわしいこと」と訳されているヘブライ語の「shiqquwts」は、「違反」と訳されている「pesha`」という用語とは異なり、異なる意味を持っていることを確認しました。したがって、条件は次のとおりです。

「pesha`shamem」（壊滅的な違反）、および

「shiqquwts 恥辱」（荒廃した忌まわしい行為）

それぞれに異なる意味があり、同じ出来事を指すものではありません。また、エレン・G・ホワイトの著作のどれも、ダニエル 8 章の預言に含まれる 2300 年の午後と朝の期間とその期間との平行関係を確立するために、これら 2 つの用語の関連性を確立したり、これら 2 つの用語の関連付けを正当化したりするものではないことも強調する価値があります。ダニエル 12 章に含まれる 1290 日と 1335 日。

この付録で示したことを要約すると、ダニエル 8 章 13 節の「荒廃させる罪」という用語は、ヘブライ語の「ペシャ・シャムム」の翻訳であり、「荒廃させる忌まわしい行為」という用語と同じ意味ではないことがわかります。これはヘブライ語の翻訳です

「シッキウツ・シェイム」。これは、「pesha`」と「shiqquwts」という言葉は同じ意味を持たないためです。

付録 4

ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

この書の研究対象であるダニエル書 12 章だけが預言的な情報を含んでいるわけではありません。2章、7章、8章、9章、10章、11章にもその内容に預言が含まれています。ダニエルは神から、地球を支配することになるそれぞれの力が起こる順序とその特徴を明らかにするビジョンを受け取り、地球の歴史が発展するにつれてそれらの力をよりよく特定できるようになりました。

ダニエル書の預言は、神学者が「強調と増幅のための反復の原則」と呼ぶ原則に従って書かれています。なぜなら、この本を読み進めるにつれて、その後続く預言は、前の預言ですでに預言されていた出来事を強調し、知識を拡張し、つまり、前の章で説明された預言的な出来事についての新たな詳細を提示するためです。将来の出来事をよりよく理解できます。これをよりよく理解するために、次の例を見てみましょう。

ダニエル 2 章の預言の中で、バビロンの王ネブカドネザルは、頭が金、胸と腕が銀、腰が青銅、足が鉄、そして足の一部が鉄でできた大きな像を見ました。鉄の一部、粘土の一部。大きな石が手の助けを借りずに投げられ、像の粘土の足に当たりました。それから、鉄、粘土、青銅、銀、金は一緒に砕かれました (ダニエル 2:32-)

35) 。ダニエルは王に夢を解釈したとき、次のように言いました。

「37あなたよ、王よ、王の王よ、天の神はこの人に王国と力と力と栄光を与えられました。

38 人の子らはどこに住んでいてもその手に渡され、野の獣や空の鳥もその手に渡されました。あなたはそれらすべてを治めるため、あなたは金のかしらです。

39あなたに続いて、あなたの王国よりも劣った別の王国が立ち上がるでしょう。そして青銅の第三の王国が全地を支配することになる。

40第四の王国は鉄のように強い。鉄はすべてを破壊し、押しつぶすからです。鉄がすべてのものを砕くように、彼はそれらを粉々に砕き、粉々に砕きます。

41あなたが見た足とつま先は、一部は陶土で、一部は鉄であったが、これは分裂した王国となるであろう。しかし、その中には鉄のような固さがあるでしょう。なぜなら、鉄が泥の粘土と混ざり合っているのを見たことがあるからです。

42 足のつま先が一部は鉄で、一部は粘土でできていたように、王国は一方では強く、他方では弱くなるでしょう。

43あなたが見た、鉄と粘土の混合について言えば、それらは結婚によって混ざりますが、鉄が粘土と混合しないのと同じように、結合することはありません。

44しかし、これらの王たちの時代に、天の神は決して滅ぼされることのない王国を建てられるでしょう。この王国は他の人々に受け継がれることはありません。彼はこれらすべての王国を打ち砕き、消費するだろうが、彼自身は永遠に立つだろう。

45 あなたは、手の助けなしに石が山から切り出され、鉄、青銅、粘土、銀、金を砕いたのをどのように見ましたか。大いなる神は、将来何が起こるかを王に知らせました。その夢は確かであり、その解釈は忠実です。」

(ダニエル 2:38-45) (強調)

私たちが今読んだ聖書の本文の中で、ダニエルはネブカドネザル王に像の幻視の解釈を与えています。彫像

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

それは、神の王国が決定的に確立され、イエスが御父とともに王の中の王、主の中の主として統治されるキリストの再臨に至るまで、歴史を通じて起こる王国の継承を表していました。、私たちはそれぞれの王国がどのようなものになるのかを垣間見るだけです。したがって、ダニエル 2 章の預言はバビロンを黄金の頭として分類しています。しかし、第二の王国に関しては、バビロン王国よりも劣るとだけ述べており、統治期間やその継承がどのように行われるかについては示されていない。

ダニエル 7 章で、預言者は 4 匹の動物を見る幻視を受けます。これらの動物もダニエル 2 章で示されているのと同じ一連の王国を表しています。ただし、今回は各王国についての詳細が追加されています。これを実証するために、以下の説明を示します。

2番目の動物は、バビロンのすぐ後に来る第2の王国を表します。

「5 私は見続けました、そして、見よ、熊のような二番目の動物が片方の側に立っているのが見えました。彼の口の中、歯の間には肋骨が3本ありました。そこで彼らは彼に言った、「起きなさい、たくさん食べなさい」

肉。

(ダニエル 7:5 - アルメイダ研究聖書 - 1999) 」

バビロンの後継となった王国はメディア・ペルシアであることがわかっています。このビジョンでは、第二の王国が存在することが強調され、知識が広がります。それは、メディア・ペルシアを構成する2つの民族のうちの1つがもう1つを打ち負かし（クマが片側に立っているのはそのためです）、ギリシャの征服者アレクサンダー大王によって打倒されるであろうことを告げています。したがって、ダニエル 2 章とダニエル 7 章の示現をその解釈とともに表にまとめると、ダニエル 7 章の示現はダニエル 2 章の示現（一連の王国）で与えられたものを強調し、その意味を拡張していることがわかります。：

解釈1. バビロン	ダニエル2	ダニエル7
(612-539 a.C.)	ゴールデンヘッド バビロン	ライオン イーグルウィングス (短期)
2. 恐怖のバルシャ (539-331 a.C.)	クマの胸と腕 話す	バビロンより劣った王国で育った 側;口 の中にリブが 3 本 (3 キング)
3. ギリシャ/マケドニア (331-168 a.C.)	ヒョウの腹と太もも ブロンズ 練した速度) 地球上で	4 つの翼 (偉大な異界、征服の熟 4 つの頭 (アレクサンダーに ちなんで王国が 4 つに分か れた)
4. 異教のローマ (168 世紀 - 476 世紀)	鉄の脚 鉄のように強い王国	恐ろしい動物 彼はそれをむさぼり食い、 引き裂き、踏みにじった (長 持ちし、残酷さで知られる)
の時)	鉄の足と 5. 教皇ローマ 1 粘土 分裂した王国、力強く、目と口が 横柄な結婚について話すか、もし そうではないのかを混ぜ合 合わせます - 中世の教皇制 電話します	10 本の角と (西暦 476 年 - 終末 スモールホーン が弱いホーンが、なぜ彼が
6. 神の王国	Launched Stone Kingdom 決して	滅ぼされない息子の王国 それは天の雲とともにやって来 た。 彼は支配権を与えられた 永遠の

注: この研究の目的は、将来のダニエル 12 章の理解がダニエル書の預言と文学の並行性の中
どのように適合するかを示すことだけであるため、各幻の解釈は、その適合性ととも
にここでは示されません。この本の預言と文学のすべての並列性を実証するためです。
大多数の神学者や聖書学者によって一般的に受け入れられている形式を含む表のみが表示
されます。

ダニエル 8 章の幻では、一連の王国が再び示されており、今度はメディア-ペルシャから始まり (バビロンが崩壊しようとしていたため)、ダニエル 2 章と 7 章の幻で示された王国の順序が強調され、再び展開されます。これらの王国についての知識。第 8 章を見ると、この時代の「細分化」と呼べるものもわかります。

前に示した「PAPAL ROME」というテーブルの番号「5」。まず、23 節と 24 節に、教皇の至高性 1 と呼べるものが示されています。

「23 しかし、治世の終わりに、侵入者が終わると、激しい気性と陰謀の専門家である王が立ち上がるでしょう。

24 彼の力は偉大ですが、彼自身の力ではありません。彼は途方もない破壊を引き起こし、繁栄し、好きなことを何でもするでしょう。力ある者たちと聖なる者たちを滅ぼすだろう。」

(ダニエル 8:23,24)

23 節と 24 節では、陰謀の専門家である中世の教皇庁が、それ自身の力ではなく、国家権力に及ぼす影響力によって大きな力を持っていたことを明確に論じています。この影響力によって、彼は当時の権力者や聖なる人々、つまり「異端者」を滅ぼしました。この優位性は、明確に定義された期間、つまり、ユスティニアヌス帝がローマ司教を最高法王と宣言した西暦 538 年から、フランスの将軍ベルティエがローマ教皇ピウス 6 世を投獄した西暦 1798 年までの 1260 年間続きました。

第 8 章の 25 節では、至高性がどのようなものになるかがわかります。
教皇2:

25 彼はその事業における狡猾さによって、欺きを栄えさせ、心の中で自分を高め、不注意に生きる多くの者を滅ぼすであろう。彼は王子の中の王子に対して立ち上がるだろうが、人間の手の努力なしには打ち碎かれるだろう。

(ダニエル 8:23,24 – アルメイダ研究聖書 – 1999) 」

先ほど紹介した第 8 章の 25 節では、23 節と 24 節で述べられているのと同じ権力、つまり教皇権について論じられています。

しかし、これは非常に単純な理由で、過去の同じ期間である 1260 年を指すことはできません。今回は人間の手の努力なしに電力が破壊されたからです。教皇至上主義 1 では、その統治は人間の手によって破られました (ナポレオン・ボナパルト治世のベルティエ将軍によって)。したがって、人間の手の助けなしに打ち破られる統治は、教皇至上主義 2 となるでしょう。私たちは、この研究で提示された研究から、教皇至上主義 2 が世界日曜日法の後に始まることをすでに見てきました。

ダニエル 8 章の預言が次のことを示していることを示すさらなる証拠
教皇の至上主義 2 は、日曜法の後の 19 節にあります。

「19 そして言った、「見よ、わたしはあなたに、怒りの最後の時に何が起こるかを見せてやろう。この幻は、終わりの定められた時についてのものだからである。」

(ダニエル 8:19)

天使はダニエルに、「怒りの最後の時」に何が起こるかを理解させ、「この幻は終わりの定められた時を指している」と告げます。ダニエルはちょうどメディア・ペルシャ王国とギリシャ王国を象徴する雄羊と山羊の幻、小さな角の幻、そして2300年の夕と朝の幻を見たところでした(ダニエル8:3-14)。私たちは、2300年の夕方と朝のビジョンが1844年まで続いたことを理解しています。もし動物のビジョンと2300年の夕方と朝のビジョンがあれば、

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

朝は過去にすでに満たされており、19節で天使が言及している唯一の幻は、小さな角笛で始まる幻です。次に、天使は小さな角の幻についてコメントし、先ほど分析した 23 節、24 節、25 節に書かれていることをダニエルに報告します。25 節で「人間の手によらずに砕かれる」力、つまり教皇の至上主義 2 について語られているように、19 節でも教皇の至上主義 2 について語られています。

ダニエル書の預言が教皇の優位性 2 を予言していることを理解したら、ダニエル 8 章のビジョンの理解を加え、教皇ローマの時代をさらに細分化して、この本の対比表をやり直すことができます。したがって、ダニエル 9 章では、70 週間という期間が預言者に説明されています。これは、ダニエル 8 章で示されている 2300 の夕と朝の預言の一部であり、この対応表のタイトルにあるダニエルの 8 章とともに 9 章も含まれています。：

解釈1. バビロン	ダニエル2	ダニエル7	ダニエル 8,9
(612-539 a.C.)	ゴールデンヘッド バビロン	ライオン 鷲の羽 (ショート 間隔)	
2. 恐怖のペルシャ (539-331 a.C.)	クマの胸と腕 話す の王国の王 (オムディアとペ ルシャ) バビロン	片側が盛り上がっています。2 ペルシャ) 王たち)	ラム 本の角 (口の中の 3 本の肋骨)
3. ギリシャ / ヒョウの腹と マケドニア	太もも ブロンズ もう一つの王国、征服速度)	4 つの翼 (大、地面に触れずに) (紀元 四つの頭 (王国が征服する) アレクサンダーにちなんで4 つに分割)	ボード 前 331 ~ 168 年) (地球を支配する驚異のスピード)
4. 異教のローマ (168 年頃 - 476 年頃 C.)	鉄の脚 鉄のように強い王国	恐ろしい動物 彼は貪り、作られ、粉々に強くなり、踏 みにじられた (南へ、東へ、そし て輝かしい土地で知られるように、彼 は残酷さを投げかけた)	スモールホーン1 天の軍隊の一部 (聖徒たちを追 いかけて殺した)
5.1. ローマ教皇 1 (西暦 476 年 - バロ時間 ら)	鉄の足と10の角と角の小さな角2 王国は分裂し、力強く、目と口を備 えた角はその強さのためにはありま せんでした 弱い、彼らは横柄な発言をする 者をも混同するだろう - 結婚によるものだが、聖なる人々による 壊すだろう	小さい 備えた角はその強さのためにはありま せんでした 者をも混同するだろう - 壊すだろう	彼の力は偉大だ、終わりが あつて 強力な中世の教皇制を破 壊するだろう
5.2. ローマ教皇 2	つながります		欺瞞は栄えるだろう あなたの心の中でそれは拡大さ れるでしょう 彼は王子の中の王子に対し て立ち上がるだろう
6. 神の国が打ち上げた石	決して滅ぼされない王国	権力の息子の王国は人の手を借りず 男 それは空の雲とともにやって来 た。 彼には永遠の支配権が与えられ た	崩壊した

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

ダニエル書の 10 章で、預言者は幻の中で神聖な亜麻布の衣を着たイエスを見ます（5 節と 6 節）。私たちはすでにこの書の第 3 章で、この本で説明されている地上の大祭司たちが地上の聖所で贖罪の日に行ったのと同じように、イエスが 1844 年に亜麻布の服を着て天の聖所で贖いの働きを始めたことを学びました。レビ記、第 16 章 この幻を受け取った後、ダニエルは第 11 章と第 12 章に記述されている預言を受け取ります。第 11 章に記述されている預言は、第 8 章と同様にメディア - ペルシャの時代に始まり、王国の継承を物語ります。再臨におけるキリストの王国の確立。

この預言では、第 2 章、第 7 章、第 8 章に示されている一連の王国が再び強調され、その理解が広がり、「強調と増幅のための反復の原則」が再度確認されます。

11 章の 1 節から 15 節では、ペルシャ王の継承とギリシャ統治時代の始まりがダニエルに語られ、続いてギリシャの北王国と南王国の王の継承が語られます。マケドニア帝国とその対立、そしてこれら 2 つの勢力（北と南）の間で起こる戦争の結果を示しています。南北の王の継承については、この作品の目的ではないので、詳細な説明には重点を置きません。

11 章の 16 節で、異教ローマの覇権時代の物語が始まり、キリストが初めて地球に来られた時の 20 節まで続きます。この時、異教ローマの歴史的時代の終わりまで、ローマ皇帝はカエサルとして分類され始めました。

21 節は、教皇至上主義 1 の時代の教皇ローマの軌跡の物語を始めます。それは、教皇権が人間と呼ばれていたことを示しています。

卑劣なことに、彼は陰謀で王国を乗っ取り、教皇ローマの信仰を受け入れない者はすべて殺害される「福音主義的」十字軍を通じて自らの支配範囲を拡大したいと思うほどに自分自身を強化しました。次に、エルサレムをアラブ人の手から奪い、そこに教皇制を確立するという目的で行われた十字軍について説明し、その権益を彼らの土地であるヨーロッパに戻し、この大陸でも完全な支配を確立しようとしたことが説明されている。この理解に従って読むために、ダニエル 11:21-28 のテキストを以下に示します。

「21 その後、王としての威厳を与えられなかった卑劣な男が彼の代わりに立ち上がるでしょう。しかし、彼は陰謀を持って静かにやって来て王国を占領するでしょう。

22 洪水の軍勢は彼の前から滅ぼされます。彼らは破られるだろうし、契約の君主も破られるだろう。

23 彼と同盟を結んでいるにもかかわらず、彼は欺きを用いる。少ない人数で立ち上がって強くなる。

24 彼はまた、その州の最も肥沃な場所に黙ってやって来て、自分の先祖や先祖の先祖がしなかったことをするだろう。そして彼は要塞に対するプロジェクトを計画するだろうが、それは一定期間である。

25 彼は大軍の先頭に立って、力と勇気を奮い起こして南の王に対抗するだろう。南の王は大規模で非常に強力な軍隊を率いて戦いに出かけるでしょうが、彼らは彼に対して計画を立てるので、勝つことはできません。

26 彼の食物を食べる者は彼を滅ぼし、彼の軍隊は破壊され、多くの人が刺されて倒れるであろう。

27 この二人の王も悪事を働き、同じ食卓で偽りを語るでしょう。しかし、それは成功しません。終わりは定められた時に来るからです。

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

28 そのとき、悪人は莫大な富を持って自分の土地に帰り、その心は聖なる契約に反することになる。彼は自分の好きなようにして、自分の土地に戻るでしょう。」

(ダニエル 11:21-28) (強調)

11章の29節と39節の間のセクションは、物語の別のブロックを示しています。同じものを以下に示します。

「29 定めの際に、彼は再び南に向かって進軍するであろう。でも、今回は最初のようにはないだろう、

30 チツィムからの船が彼に向かって来て、彼を悲しませるからである。彼は戻ってきて聖なる契約に対して憤慨し、好きなことを何でもするでしょう。そして戻ってきたら、神聖な契約を放棄した人々に配慮するでしょう。

31 力が彼から来て、聖域、私たちの要塞を汚し、日々の犠牲を奪い、荒廃する忌まわしいものを確立するでしょう。

32 神は契約を破る者たちをへつらいによって屈服させますが、自分たちの神を知る民は強くなり、活動的になります。

33 民のうちの賢い者は多くの人を教えるだろう。しかし、彼らはしばらくの間、剣や火、捕虜や強盗によって倒れるでしょう。

34 倒れても、少しの助けがあれば助けられる。しかし、多くの人はお世辞で彼らに加わるでしょう。

35 賢者の中には、終わりの時まで、試練を受け、清められ、白くされる者もいる。それはまだ定められた時だからである。

36 この王は自分の意志に従って行動し、立ち上がってあらゆる神の上に自分を高め、神々の神に対して、彼は信じられないことを言い、憤りが満たされるまで繁栄するでしょう。決められたことは実行されるからです。

37 彼は先祖たちの神々も、女の欲望も、どんな神も尊重しない。なぜなら、彼は何よりも自分を尊ぶからである。

38 しかし、彼は神の代わりに、要塞の神をたたえます。彼の先祖たちが知らなかった神を、彼は金、銀、宝石、そして楽しいもので讃えます。

39 見知らぬ神の助けを借りて、彼は強力な要塞に対して行動し、彼を認める者たちには彼らの名誉を倍増させ、彼らを多くの人の上に統治させ、報酬として彼らのために土地を分割するでしょう」
(ダニエル 11:29-39) (強調)

この抜粋は、本文の 29 節に書かれているように、これから語られるのは「定められた時」と呼ばれる期間を指していることを知らせることから始まります。

「定められた時が来れば、再び南に向けて前進するだろう。しかし、これが最初のとけのように最後ではないでしょう (ダニエル11:29 – 聖書アルメイダ研究) 」

ここで「定められた期間」と呼ばれるこの期間は、アメリカ合衆国の日曜法の後に始まる教皇の至高性 2 を指すことを私たちは理解しています。この本ですでに研究したことと預言の精神に照らして本文を分析すると、この証拠をいくつか見つけることができます。

1) 31 節は、その卑劣な男から「聖所、私たちの要塞を汚す勢力が出てきて、荒廃をもたらす忌まわしいものを確立するだろう」と述べています。私たちはこの書の第 6 章で、この悲惨な忌まわしい行為がアメリカ合衆国の日曜法であることを学びました。したがって、この研究で到達した理解によれば、ダニエル書 11 章 31 節は米国の日曜法に言及していることがわかります。教皇至上主義 2 は米国の日曜法の後に始まるので、それがダニエル 11 章 29 ~ 39 節に関連していることがわかります。

2) ダニエル 11 章では、「強調と増幅のための反復の原則」の妥当性をもう一度検証します。このように、ダニエル 11 章では、ダニエル 8 章の預言で示された王国の継承が強調され、その意味が拡大されています。したがって、この付録で以前に見たように、ダニエル 8 章がすでに教皇の至高性を 2 つの期間に細分化しているのであれば、ダニエル 11 章の預言もそうしなければなりません。

3) 33 節と 34 節には次の出来事が記されています。

「33 民のうちの賢い者は多くの人を教えるだろう。しかし、彼らはしばらくの間、剣や火、捕虜や強盗によって倒れるでしょう。

34 倒れても、少しの助けがあれば助けられる。しかし、多くの人はお世辞で彼らに加わるだろう。」

(ダニエル 11:33,34) (強調)

主の使者、「大論争」というタイトルの本の中で、日曜法公布後の時代について言及

ワールドはこう書いています。

「論争が新たな分野に広がり、神の律法が踏みにじられていることに人々の注意が向けられると、サタンは行動を起こすでしょう。メッセージに伴う力は、それに反対する人々を激怒させるだけです。聖職者たちは、光が自分たちの群れを照らさないように、ほとんど超人的な努力をして光を遮断します。

彼は自分の力の範囲内であらゆる手段を講じて、これらの重要な主題に関するあらゆる研究を避けるよう努めるだろう。教会は市民権力の強力な力に訴え、この取り組みにおいてローマ主義者とプロテスタントが団結することになる。日曜日を課す運動がより大胆かつ断固として行われるようになると、戒めの遵守者に対して法律が発動されることになる。彼らは罰金[窃盗]と懲役で脅されるだろう

[捕らわれの身]であり、信仰を放棄するよう誘惑するために、影響力のある地位やその他の報酬や利点を提供される者もいるだろう[お世辞で加わるだろう]。しかし、彼の粘り強い返答はこうなるだろう。「神の言葉によって私たちの間違いを示してください。同じ状況下で起こったのと同じ間違いです。」

(『大論争』、607 ページ) (強調)

上記の本文で示されている用語の隣に、両方の本文が同じ出来事を説明していることを明確に示すダニエル 11:29-39 の聖書の一節の部分を追加しました。したがって、これらは同じ期間を指します。エレン・G・ホワイトの本文から、この本文が世界日曜日法の公布直後の時期について言及していることがはっきりとわかるように、同じ出来事について言及しているダニエル書 11 章 33 節と 34 節は、結果的にその後起こる出来事についても記述しています。教皇優位時代における世界日曜日法の公布 2。

4) 聖書本文の続きの 35 節に、「賢者の中には、清められ、白くされ、試みられるために落ちる者もいる」と書かれています（これらの用語はダニエル 12:10 にあるものと同じです）。、日曜日の法ワールドカップの後が神の民にとって試練の時となることを示しています。『The Great Conflict』という本の本文のシーケンスにも同じことが書かれています。

「この試練と苦悩の時代に、主の僕たちの信仰が試されます。彼らは神と神の言葉だけに忠実に従い、警告を与えました。神聖な御霊が彼らの心に働いて、彼らが話すことを制約しました。聖なる熱意と強い神聖な衝動に刺激されて、彼らは主が与えられた御言葉を人々に話すことの結果を計算するのをやめることなく、自らの義務を果たします。

彼らは自分たちの一時的な利益について相談したり、追求したりしませんでした。

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

自分の評判や人生を守ります。しかし、反対と非難の嵐が彼らに襲いかかると、驚きに圧倒されてこう叫びたくなる人もいるでしょう。「もし自分たちの言葉がもたらす結果を予見していれば、我々は黙っていたらろう」。彼らは困難に囲まれていることに気づきます。サタンは残酷な誘惑で彼らを攻撃します。彼らが取り組んできた仕事は、彼らの実行能力をはるかに超えているように思えます。彼らはほとんど屈服しつつある。

彼らを活気づけていた熱意は消え去った。ただし、戻ることはできません。そして、自分たちの完全な無力さを感じて、彼らは助けを求めて、力ある御方に避難します。彼らは、自分たちが話した言葉が自分たちのものではなく、警告を与えるよう命じた方のものであることを覚えています。神は彼らの心に真理を入れられたので、彼らはそれを宣言せずにはいられませんでした。」

(『大論争』、609 ページ) (強調)

上で紹介した「大論争」という本の本文を分析し、それをダニエル 11 章 35 節と比較すると、両方が同じ出来事について語っていることが再びわかります。したがって、どちらも教皇至上主義の時代について語っています 2。

39 節までの本文の続きでは、教皇庁の他の活動についても説明されています。例として、以下にいくつかのイベントを挙げます。

36 節：「彼はあらゆる神よりも崇められるでしょう。神々の神に対して、彼は信じられないことを言い、繁栄するでしょう...」

これは教皇至上主義 1 以来行われている。教皇に与えられた称号そのもの、「神の子の代理」を意味する「VICARIVS FILII DEI」は、教皇庁が自らを他のすべての派閥や宗教宗派よりも神として位置づけていることを示している。...

37節：「彼は先祖たちの神々も、女性[他の教会や宗教宗派]の願いも、どんな神も尊重しない。なぜなら、彼は何よりも自分を尊ぶからである。」

形成されつつある世界的なエキュメニカル運動の歴史がこれを証明しています。この運動では教皇が中心人物として登場するが、ローマがエキュメニカル運動に参加するために他の宗教宗派の信念に従うことは決して認められなかった。教皇庁がエキュメニカル運動の方向性を集中化する傾向は、私たちが現在目にしている事実によれば、当然のことながら確認されるべきであり、上で示した 37 節からの預言的な抜粋が成り立ちます。

38節：「神の代わりに要塞の神を敬う[権力を重んじる]」

教皇庁は常に権力を重視してきました。これは、彼が陰謀によって権力を掌握した教皇至上主義 1 の時代にすでに起こっていました。私たちは現在、教皇庁と、ジョージ・W・ブッシュ大統領の行動によって実証された、世界最大の経済大国・軍事大国であるアメリカ合衆国との間の大きな接近を目の当たりにしています。

ブッシュはローマの利益を支持した。最も印象的だったのは、大統領就任翌日の日曜日を祈りと感謝の公式の日とする宣言だった。最近では、2002 年 1 月、ジョージ・W・ブッシュ大統領は、その国で中絶が合法化された日を祝う 2 日前に、日曜日を人命の神聖性を公式に宣言した日であると宣言した（法王が次のように述べていることを強調することが重要である）。中絶に公然と反対しているため、日曜日を人命の神聖性の公式の日とする宣言は、米国が教皇庁に譲歩したものと理解されている）。

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

39節：「彼を認める者たちには、彼はその栄誉を倍増させ、彼らを多くの人の上に君臨させ、報酬として彼らのために土地を分け与えられるであろう。」

これは、教皇庁が王に戴冠さえした教皇至上主義 1 で起こったことであるため、歴史的論理は教皇至上主義 2 で確認される、つまり教皇制を支持する国家や統治者は豊富な報酬を受け取ることになると考えられます。

ダニエル書 11 章の終わり、40 ~ 45 節の簡潔な分析からも、本書に存在する預言と文学の並行性が確認されます。ダニエル 11:40-45 の正しい解釈については現時点で合意がなく、この箇所を解釈することがこの研究の目的ではないため、詳細な説明には焦点を当てません。これらの聖句の一般的に受け入れられている解釈を一般的な用語で提示することによって、この付録の目的であるダニエル書の預言的文学的構造の中にそれを位置づけることができるでしょう。ダニエル 11:40-45 は、教皇至権第 2 期における教皇制への最後の侵入から、その終わりまで教皇制が破壊され、「そしてそれを助ける者がいなくなる」までについて説明しています。

「40終わりの時には、南の王は彼と戦い、北の王は戦車、騎兵、多くの船を率いて彼に向かって突進し、彼の領土に入り、そこを洪水させ、通り抜ける。

41 彼はまた栄光の地に入り、多くの人々が滅びるが、エドム、モアブ、アンモンの子孫の初穂などは彼の力から逃れるであろう。

42 彼はまたその手を諸々の地に差し伸べるので、エジプトの地は逃れられない。

43 彼は金銀の財宝とエジプトのすべての貴重なものを手に入れるであろう。リビア人やエチオピア人もそれに続くだろう。

44 しかし、東と北からの噂によって、彼は動揺し、多くの人を滅ぼし絶滅させるために激しい怒りを持って出て行くだろう。

45 彼は栄光の聖なる山を背にして海の間宮殿の天幕を張るだろう。しかし、彼は必ず終わりを迎えるでしょう、そして彼を助ける人は誰もいないでしょう。」

(ダニエル 11:40-45) (強調)

ダニエル 11章40節で述べられている「終わりの時」がいつ始まるかを特定するには、聖書がどのように書かれたのかを覚えておくことが重要です。元の写本では、聖書は章と節に分割されていませんでした。この区分は後から人間によって作られました。したがって、ダニエル書 12 章は 11 章の続きであり、したがって 12 章の内容は 11 章と関連しています。ダニエル 11:40 とダニエル 12:1 を比較すると、これを確認するのは比較的簡単です。

ダニエル 11:40:

「40終わりの時には、南の王は彼と戦い、北の王は戦車と騎兵と多くの船を率いて彼に向かって突進し、彼の土地に入り込み、そこを洪水させるだろう。通過します。」

(ダニエル 11:45) (強調)

「1この時、あなたの民の子供たちの擁護者である偉大な君主ミカエルが立ち上がり、それまで国家が存在して以来決してなかったような困難の時が来るでしょう。しかしその時には、あなたの民、この本に書かれているすべての人が救われるでしょう。」

(ダニエル 12:1) (強調)

ダニエル 11:45 の「終わりの時」とダニエル 12:1 の「この時」という表現が関連していることを示すために、意図的に強調しています。ダニエル 12 章 1 節の「この時」という表現は、ダニエル 11 章 40 節から 45 節で論じられている「終わりの時」と呼ばれる時を指します。

私たちはすでにこの本の第 4 章で、ダニエル 12 章 1 節から 3 節が「苦難の時」の始まり、「苦難の時」とその終わりに起こる出来事について述べていることを学びました。神の民の解放が起こる時。したがって、ダニエル 12:1 は、ダニエル 11:40-45 で注釈されているのと同じ時を指しており、ダニエル 11:40 の「終わりの時」という表現は、その時を指していることがわかります。「苦難の時」かどうか。45 節までの一連の節は、「苦難の時」に起こる出来事を描写しており、その終わりまで、この節で描かれている力は「終わりを迎え、彼を助ける人がいなくなります」。(45節)。

ダニエル書の預言と文学の並行性についての推論に戻ると、ダニエル 11 章では、ダニエル 8 章で一般的な用語で示されている、教皇の覇権の時代を 2 つの部分に分けるという概念が繰り返されていることがわかります。

- 教皇至上主義 1 - 西暦 538 年から西暦 1798 年まで。
- 教皇至上主義 2 - 世界日曜日法より

しかし、ダニエル 11 章では知識がさらに広がります。ダニエル 11 章では、教皇の権力がどのように確立されるか、教皇の至高性 1 の始まりと、彼が権力を握っていた期間中の彼の行動について詳しく説明されています。このことは、この章の 25 ~ 28 節で彼が十字軍の時代について言及していることからわかります。同じことが、ダニエル 11 章が教皇の至高性 2 として定義されている期間について提示している説明でも起こります。この付録で預言の霊によって少し前に確認したように (29 節と比較)

「大論争」という本で説明されている、世界主日法の後に教皇庁によって行われるであろう取り組みについての (39 章)、ダニエル 11 章はまた、教皇の至上主義についての知識を広げています 2、

教皇庁が権力に戻ったときにどのような特徴を示すのかを詳細に提示する。

ダニエル 11 章はまた、教皇の至高権を 2 つの部分に分割しています。1 つ目は、世界日曜法から人類に与えられた保護観察期間の終了直前までの教皇権の侵入を説明するものである。第二部は「終わりの時」から始まりますが、これはすでに見たように、ダニエル 12 章 1 節の時と一致します。この第 2 部では、「苦難の時代」における教皇庁の侵入から、神の民の救出を特徴とするその終わりまでを説明します。このことから、ダニエル書 11 章では、ダニエル書の他の預言で実証されている「強調と増幅のための反復の原則」も繰り返されていることが分かります。したがって、ダニエル書の預言と文学の並行性について以前に見た表を以下に示し、これにダニエル 11 章の理解を加えます。

解釈	ダニエル2	ダニエル7	ダニエル 8,9	ダニエル11
1. バビロン (612-539 a.C.)	ゴールデンヘッド バビロン	ライオン イーグルウィングス (短期)		

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

2. 恐怖のペルシャ (539-331 a.C.)	胸と腕 話す 一方では王国、 動物は バビロン	URSO に育てられた リブが3本付いています 口 (3人の王)	ラム 二本の角 (王) ペルシャ)	ペルシャの王たち 王はまだ3人いるだろう
3. ギリシャ マケドニア (331-168 a.C.)	お腹と太もも フロンス 別の王国、(偉大な速度 (偉大な速度)は地球上の4つの支配者(征服の)に分配されました)	ヒョウ パワフルな4人、翼 征服の) フオー 頭 (王国が4つに分かれた後、アレクサンドル)	ボード 地面に触れずに 征服の)	ギリシャ王 王国の 風 北と南の王たち
4. 異教のローマ (168 年頃 - 476 年頃) C.)	鉄の脚 鉄のように強い王国	動物 ひどい 私はそれをむちむちり食って、それをやりました 断片になって南に向かって、 を引き起こし、栄光ある栄光の地によって知られる土地を通過する 強奪を引き起こすだろう 残酷さ)	ホーン 小1 強化されて強くなった 天の軍隊の一部を追い出す (聖徒たちを追跡して殺害した)	北の王 都市を占領するだろう 彼は (長く続く) 東方 知られる土地を通過する
(476 °C -	鉄の足と5.1. 教皇ローマ 1 粘土 分割された王国、強くて小さい 弱い、強さを語る口ではなく、目と力 拘束はしない	十本の角と卑劣な男の角 スモールホーン2 傲慢は破壊する (十字軍) 中世の教皇制	君の陰謀はすこいよ 力ある者たちと聖なる者たち	王国の終わりの時を奪う) 南の王の結婚には反対だが
5.2. ローマ教皇 2			それは繁栄するだろう 間違い もしあなたの心の中で メントは成長します 彼は王子に対し て立ち上がるだろう 二人の王子	時間 決定した エスタブリッシュ 「荒廃する忌 まわしい行為」 終了時間 エドムはその力から 逃れるだろう、 モアブとアンモン
6. 神の国が打ち上げた石	そうならない王国 者もいるだろう	王国 息子 男 それは空の雲とともに手 やって来た。 永遠の支配	できる 何もせずに壊れた の助け 人間	あなたのものが届きます 終わり、 いいえ 決して破壊しない 手伝い

ダニエル書の第 12 章は、「強調と拡大のための反復の原則」に従って、知識を強調し、拡大します。

ただし、ダニエル書 12 章では、教皇至上主義 2 の始まりから始まり、「苦難の時」の終わりまでの出来事が描かれています。ダニエル 12 章は、ダニエル 11 章 29 節から 45 節に見られる教皇の優位性 2 の期間の各部分がどれくらい続くかを確立しているため、ダニエル 11 章の知識を拡張します。「苦難の時」の始まりである「終わりの時」に起こる出来事、「苦難の時」の間に起こる出来事、そしてその終わりを告げる出来事、すなわち「苦難の時」の解放。神の民と部分的な復活。したがって、ダニエル書の預言と文学の並列性の表に戻り、12 章についての理解を追加すると、次のようになります。

解釈	ダニエル2	ダニエル7	ダニエル 8,9	ダニエル11	ダニエル12
1. バビロン	頭 (612-539 a. 金 バビロン	ライオン 鷲の羽 C.) (短期)			
2. 恐怖のペルシャ (539-331a. C.)	胸とクマ 二本の角で育てられ 話す バビロン	れた ARMS OF 王は 3 人いるだろう 片側; (メディア王と下 口 (3人の王)	ラム ヘルシャ王国)	ペルシャの王たち	
3. ギリシャ / ギリシャ国王 マケドニア	ベリーとヒョウ 四つんばい 強力な ブロンズ もうひとつの王国、風速 征服ドメインあり) 地球上で	王国に触れることなく、 (大フロア (大は 4 つの C に分かれて 4 つの頭 (アレクサンダーにちなんで 王国が 4 つに分かれた)	ボード 翼を広げます (331-168 a. (大は 4 つの C に分かれて 征服)	北と北の王たち で	

付録 4 - ダニエル 12 章の解釈とダニエル書の預言と文学の並行性

解釈	ダニエル2	ダニエル7	ダニエル 8,9	ダニエル11	ダニエル12
4.異教のローマ (168年 - す。 W.)	動物の足の角 北の王 鉄 強い王国 貪り食 鉄のような	ひどい れ、作られ、強くなり、強化された バラバラになって南へ、足踏みをするために かしい輝かしい土地を永遠に求めて) 残虐行為を行ったことで知られている、 天の軍隊の	小1 足踏みをするために 永遠に求めて)	都市は476dかかりま (東に長く、地球を貫いて、輝	
ローマ・テ 教皇1 う (西暦 476年 - 強さと弱さの時間、	鉄の足、ホーン・ヴィル と粘土 分割された王国、小規模 ホルンので元気を奮い あなたの力を目と口に溶け込ませて して彼は破壊せよ (十字軍)と語る く、しかし傲慢ではなく、彼を縛り付け 教皇の聖なる人々 中世の	アンド スモール ホ 立たせる 終わりを あなたを縛り付け 十字軍)と語る 彼を縛り付け 教皇の聖なる人々 中世の	ーン 2 君の陰謀はすごいよ 繁栄するだろう 欺瞞 あなたの心に ることを確立する 彼女は寂しそくに目覚め に対して 王子 プリンセス	彼は王国を征服するでしょ 南の王の結婚に反対 時間 決定した 大きく成長す 「忌まわしいこと るだろう」 終了時間 エドム、1260年、1290年の 終わり、そしてモアブとアン るでしょう	日曜法 1260 / 1290日 苦惱の時 の
5.2. 教皇2	ローマ				
まず 6. キングダム・オブ・ストーン 神	来ない されました	グダム・オブ・パワー 壊れた終わりの息子よ 空からの雲、彼には 人間が与えられた 永遠の支配権	リリース アンリ その人々には人間 神なしては 助けがあれば助けは 手が破壊	極大なものが届き 外の王国が生まれるだろう	

付録 5

後の雨が降り注ぐ時期についてエレン・ホワイトが言ったこと

エレン・G・ホワイトの著作の中に、聖霊が注がれる時を知ってはならないと述べた文章が2つあります。そのうちの1つは、「Final Events」コンピレーションのページにあります。30、そしてもう1つはコンピレーション「Chosen Messages -」に収録されています。

1巻」、ページ。188. 両方の文章は、1891年9月5日に米国ミシガン州ランシングで彼女が行った説教の転写である。この説教は、1892年3月22日と29日および4月5日の「レビュー アンド ヘラルド」に3部構成で掲載された。この付録では、エレン・G・ホワイトが、聖霊が注がれる正確な時期は決して分からないと言いたかったのか、それともこの光は自分自身や彼女の同時代人のためのものではないと彼女が言っただけなのかを理解するために、それぞれのテキストを分析します。冒頭そして、この本で私たちが想定しているように、この光は死後も生きるクリスチャンに与えられる可能性があります。

『ファイナル・イベント』編集版、p.16に書かれているテキスト。30では次のように述べています。

「私たちは、聖霊の注ぎやキリストの到来の正確な時期を知ってはいけません。...なぜ神は私たちにこの知識を与えなかったのでしょうか? - もしそうなら、それを適切に活用できないからです。この知識は、私たちの人々の間に事態をもたらし、来るべき偉大な日に自らの足で立つ人々を準備する神の働きを大幅に遅らせることになるでしょう。私たちは時間に興奮して生きてはいけません。

...

神が1年後、2年後、または5年後に来るとは言えませんし、おそらく次のようなことを宣言して神の到来を遅らせるべきではありません。

10年や20年以内には起こらない。（レビューとヘラルド、1892年3月22日 / 最終出来事 30 ページ）」（強調あり）

このテキストは、英語で編集された「Last Day Events」というタイトルの本のテキストの忠実な翻訳であり、以下に示します。

章のタイトル: 「これらのことはいつになりますか?」

私たちは、聖霊の注ぎやキリストの再臨の明確な時期を知りません。。

。なぜそうしていないのか

神は私たちにこの知識を与えてくれたのでしょうか? なぜなら、もし神がその知識を与えたとしても、私たちはそれを正しく活用できないからです。このような知識が国民の間にあると、大いなる日に立ち向かうために国民を備える神の働きを大幅に遅らせる事態が生じるだろう

それはこれから来ることです。私たちは時間の興奮に頼って生きるべきではありません。。

あなたは、神が1年後、2年後、あるいは5年以内に来るとは言えないし、10年や20年ではないかもしれないと言って神の到来を延期することもできない。」

(最終日の出来事、33 ページ、段落 1 / RH、1892年3月22日)

この文章は出版物「Review and Herald, March 22, 1892」に書かれた原文から抜粋されたものであることが、本の抜粋に記載されています。

この原文を英語で検索すると、インターネットでwww.egwestate.andrews.edu から入手できます。この本に掲載されているテキストがテキストから「構築」されたことを確認しました。

オリジナル。また、英語のテキストを最も忠実に翻訳すると、ポルトガル語のテキストから導かれる理解とは異なる理解が得られることもわかります。これを証明するために、「レビュー アンド ヘラルド 1892 年 3 月 22 日」の原文とその正確な翻訳を以下に示します。

英語原文:

「記事タイトル : 時も季節も知らないのはあなたのためではない」

私たちは、聖霊の注ぎやキリストの再臨の明確な時期を知りません。 …

これは、先週の月曜日に自分の文章を調べていて見つけた文書であり、ここにある別の文書は、1884 年に時間を設定し、彼の理論を証明するために彼の議論を放送で送信していた男性に関して書かれたものです。彼が何をしていたのかについての報告は、ミシガン州ジャクソンのキャンプ会議で私にもたらされ、私は人々に、この男の理論に注意を払う必要はない、と言いました。なぜなら、彼はその出来事が起こらないと予測していたからである。神がご自身の力を注いでくださった時代と季節、そしてなぜ神はこの知識を私たちに与えてくれなかったのでしょうか?-

なぜなら、もし彼がそうした場合、私たちはそれを正しく利用できないからです。私たちの民の間でこのような知識が広まると、神の働きを大幅に遅らせる事態が生じるだろう。

来るべき偉大な日に人々が立ち向かう準備をすることです。

私たちは時間の興奮に頼って生きるべきではありません。私たちはそうではありません

神が明らかにしていない時代や季節に関する憶測に夢中になっている。イエスは弟子たちにこう言いました。

「見る」ことですが、一定期間ではありません。彼の追随者は参加する予定です。船長の命令を聞く者の立場。彼らは主の再臨の 때가 近づくにつれて、見守り、待ち、祈り、働きなさい。しかし、その時がいつ来るのかは誰も予測できません。なぜなら、「その日その時のことは誰にも分からない」からです。あなたは、彼が 1 年、2 年、または 5 年後に来るとは言えませんし、10 年や 20 年ではないかもしれないと言って彼の到来を延期することもできません。

(アドベント・レビューと安息日ヘラルド紙、1892年3月22日、段落10) 」

レイモンド著「Essential Grammar in Use」によると

マーフィー - ケンブリッジ大学出版局 1996 年、この表現の英語訳:

「私たちは知りません…」

これは、私たちが提示する英語のテキストの冒頭に相当し、次の 2 つの方法で理解できます。

1 - 「私たちは知るはずがない」、翻訳すると次のようになります。

「知らないほうがいい」「知らないほうがいい」

2 - 「私たちは知ってはいけない」、翻訳すると次のようになります。

「私たちが知るのとは良くないことです」

考えられるすべての翻訳を分析したところ、英語のテキストの最も可能性の高い意味は次のとおりであることがわかりました。

「私たちが知るのとは良くありません」

「聖霊が注がれる明確な時刻を今は知らないほうが良い」という意味で、その時刻が将来分かる余地を残しておいた方が良いのです。これは非常に論理的で神の賢明なように思えます。なぜなら、当時の開拓者たちが、時代より 100 年以上早い 2001 年までに、後の雨がまだ降っていないことを知っていたら、おそらく非常に落胆したであろうからです。同じ理由で、神はダニエルに、彼が受けたすべての幻についての理解を与えませんでした。先ほど紹介した英語全文の翻訳を読むと、本文の続きから、エレン・G・ホワイトの言葉の意味は次のようなものであることがわかりました。

翻訳：

「聖霊の注ぎやキリストの再臨の定められた時刻を知ることは、私たちにとって良いことではありません。 ...

これは先週の月曜日に自分の文章を調べて見つけた文書で、これは 1884 年に時間を計っていた男性に関して書かれた文書です。

自分の理論を証明するために自分の議論を送信します。彼が何をしていたのかについての報告書は、ミシガン州ジャクソンのキャンプ会議で私にもたらされましたが、私は人々にそれは必要ないと言いました。

この男の理論に注目してください。なぜなら、彼が予言した出来事は起こらないだろうから。神が自らの力で定めた時と季節、そしてなぜ神は私たちにこの知識を与えなかったのでしょうか？

なぜなら、神がそうするなら、私たちはそれを有効に活用できないからです。

来るべき偉大な日に立つために人々を準備する神の働きを大幅に遅らせる事態が、私たちの人々の間でこの知識から生じるでしょう。私たちは不安の時代に生きるべきではありません。私たちは神が明らかにしていない時間や季節についての憶測に夢中になるべきではありません。イエスは弟子たちに「見ていなさい」と言われましたが、それは定められた時間ではありませんでした。彼の信奉者は、船長の命令を実行する者の立場になければなりません。見守り、待ち、祈り、働くのは彼らのためです。こうして彼らは主の到来の時を近づけます。しかし、その時がいつ来るかを正確に予測できる人は誰もいません。なぜなら「その日とその時間は誰にも分からない」からだ。神が1年後、2年後、あるいは5年以内に来られると言う事も、10年や20年以内には来ないかもしれないと言って来臨を延期することもできない。」

(Advent Review and Sabbath Herald, 1892年3月22日、段落10 - 記事のタイトル: 時と季節を知るのはあなたのためではありません)

(強調あり)

エレン・G・ホワイトの著作の原文の翻訳を見た後、私たちは、編集された「最後の出来事」に登場するポルトガル語のテキストが、原文で示されている文脈の異なる理解を導くことに気づきました。ヘラルド誌。これを確認するために2つのテキストを並べて比較してみましょう。

編集されたテキスト - 最終イベント:

「私たちは、聖霊の注ぎやキリストの到来の正確な時期を知ってはいりません。 ...なぜ神は私たちにこの知識を与えなかったのでしょうか？ - もしそうなら、それを適切に活用できないからです。

(最終的な出来事、30 ページ)」

原文の翻訳 - 1891 年 9 月 5 日、ランシングでの説教:

「聖霊の注ぎやキリストの再臨の定められた時刻を知ることは、私たちににとって良いことではありません。 .. 神がご自身の力で定められた時と季節、そしてなぜ神は私たちにこの知識を与えてくれなかったのでしょうか？なぜなら、神がそうするなら、私たちはそれを有効に活用できないからです。

(ランシングでの説教、1891年9月5日 / Review and Herald、3月22日、29日、4月5日)」

原文を確認すると、主の使者とその同時代人たちは、聖霊が注がれる正確な時を知ろうとしていなかったという理解が得られます。

これは、この説教が伝えられた日から 100 年以上後に生きる私たちが知ることができないという意味ではありません。

この同じ説教をさらに読んでいくと、この文の目的が次のように述べられているという明確な印象を受けます。

「聖霊の注ぎやキリストの再臨の明確な時期を知ることは、私たちににとって良いことではありません。」

彼女とその同時代人たちはこの光（後の雨が降り注ぐ時期）を持っていないし、持つのに間に合わなかったと主張することであった。私たちはこれを証明する同じ説教の続きからの抜粋を確認しました。

「私には、聖霊の注ぎが起こる時期、つまり強力な天使が天から降りてきて、第三の天使と団結してこの世界のための働きを完了するときについて話すことは特にありません。私のメッセージは、私たちの唯一の安全は、天国のさわやかさに備えて、ランプを準備して燃やすことだということです。」

（ランシングでの説教、1891年9月5日／レビュー・アンド・ヘラルド、3月22日、29日、4月5日）（*ênfase suprida*）

これは、主の使者が「継続的」という言葉の意味について神の光を受けていないと述べたとき（この著作の第7章で分析しました）、また、次のように述べたときに使用したのと同じタイプの表現です。誰が144,000人になるのか全く分からず、次のように述べた。

「…神に選ばれた者たちは、間違いなくすぐに分かるだろう。」

（厳選されたメッセージ - Vol. 1, 174 ページ）

したがって、エレン G のこの声明は次のとおりであると理解しています。この説教の中で白というのは、彼女とその同時代人たちが後の雨の時代に関してこの光を持っていなかったし、またそれを手に入れようとしていなかったことを意味していました。したがって、この声明はこの研究で提示された結論を損なうものではありません。

私たちが今分析した編集版「Final Events, Page 30」にあるテキストと同様のテキストが、書籍「Chosen Messages Volume 1」にも見つかります。

「私たちが霊的な知識を進歩させれば、私たちがほとんど夢にも思わなかった方向に真実が発展し、拡大していくのを見ることになるでしょうが、私たちがその時代や季節を知ることができると想像させるような方向に発展することは決してありません。」お父様はご自身の力で確立されました。私は時間をマークすることについて何度も警告を受けてきました。神の民に対する時間ベースのメッセージは二度と存在しないでしょう。

私たちは聖霊の注ぎやキリストの再臨の定められた時刻を知ってはなりません。」

（『選択されたメッセージ』第 1 巻、188 ページ）（強調あり）

このテキストは、私たちが今分析したものと同一原文（ミシガン州ランシングでの説教、1891年9月5日）の翻訳です。したがって、私たちが到達した結論は同じです。つまり、英語の原文を分析することによって、この説教での発言は、彼女と彼女の同時代人たちが後の雨の時代についてこのような光を持っていなかった、また、彼らはそれを知っていたのでしょうか。

したがって、この声明はこの研究で提示された結論を損なうものではありません。

原文の出典を分析することで、重要と思われる事実を確認することもできます。エレン・G・ホワイトの説教が彼女自身によって書かれたことはほとんどありません。ほとんどの場合、説教は速記装置と呼ばれる装置（再現品質が良くない非常に旧式の装置）で録音され、後でコピーされるか、その目的で指名された人々が直接書き写したものでした。説教を書いて書きました。これは、ある方法で証明されました。

私たちが述べたことを確認するために、Ellen G. White State に直接質問が送られ、回答が得られました。以下に示します。

「ジャイロ、

私たちの主任研究員と准教授から受け取ったので、あなたの質問に対する答えを以下にコピーします。監督。 /
アーキビスト。

安息日の祝福を !ラリー

> それらは EGW によって書かれたのでしょうか、それとも、説教が行われたときにその場において、EGW から話を聞いた他の人によって書かれたのでしょうか?

EGW で彼女が説教として発表した記事が書き上げられることはほとんどありませんでした。通常、彼女の発言は秘書やその他の資格のある記録者によって速記で記録された。

ティム・ポワリエ

アソシエイトディレクター/アーキビスト

エレン G. ホワイト エステート

12501 オールド コロンビア パイク

メリーランド州シルバースプリング20904”

翻訳：

「ジャイロ、

あなたの質問に対する回答を、当社の主任研究員兼アソシエイトディレクター/アーキストから受け取り次第、すぐにコピーしました。

良い土曜日 !ラリー

(エレン・G・ホワイトの説教に関連して)それらはエレン・G・ホワイトによって書かれたのでしょうか、それとも説教が行われたときにその場においてそれを聞いた他の誰かによって書かれたのでしょうか？

答え: 「エレン・G・ホワイトが記事を書き、それを説教として発表したことはほとんどありません。通常、彼らのスピーチは秘書やその他の資格のある記録者によって速記録に記録されました。」

ティム・ボワラー

アソシエイトディレクター/アーキスト

エレン G. ホワイト エステート

12501 オールド コロンビア パイク

メリーランド州シルバースプリング 20904」 (強調あり)

ティム・ボワラー氏は、私たちが分析している説教がエレン・G・ホワイトによって書かれたものか、それともコピーされたものかについては答えることができませんでした。

当然のことながら、上記の録音および転写方法は、メッセージの伝達の忠実性を保証するものではありません。なぜなら、説教を転写する人々が転写エラーを生成する可能性があり、それが修正されなければ、将来の読者が説教について誤った理解を導く可能性があるからです。 。問題の説教 (ミシガン州ランシング、1891年9月5日)を分析する際に、

これはエレン G. ホワイトによって直接書かれたものではないようです。というのは、説教の語りの中で、彼女が以前に書いた文章を読みながら話し、引用していることに私たちは気づくからです。以下に、まさにこれを証明する説教の抜粋を紹介します。

「私はタイムを刻むことについて何度も警告を受けてきました。神の民に対する時間ベースのメッセージは二度と存在しないでしょう。私たちは聖霊の注ぎやキリストの再臨の定められた時刻を知ってはなりません。

私はこの集会に来る前に、オーストラリアに何を持っていくべきか考えて自分の書いたものを調べていたところ、「1851年6月21日、時間決定に関する証言。大切に保管してください。」と書かれた封筒を見つけました。

それを開いて、見つけたのがこれです。祈る：

「1851年6月21日にニューヨーク州カムデンで主がホワイト姉妹に与えられた幻のコピー。主は私に、メッセージは必ず伝わるものであり、時間に依存してはならないことを示されました。時間は二度と試練にならないからです。ある人たちは説教の時間から生じた誤った興奮を得ているのが見えました。第三の天使のメッセージはそれ自体の基盤の上に立つことができ、それを強化するのに時間は必要なく、強い力で働き、その働きを行い、義において短縮されるのがわかりました。」

(選択されたメッセージ - Vol. 1, 188 ページ) (強調あり)

主に強調された本文の内容から、主の使者がこの説教を書いているのではなく、話していることがわかります。これは主に、彼女の説教の途中で、彼女が書面にやる証言を取り、それを読んだことを告げたために証明されています。証言を読むときは、本文中に引用符が付けられ、朗読が開始されたことを示します。

上記のテキストを分析することで得られるもう 1 つの興味深い結論は、彼の説教の前の文が次のとおりであるということです。

「私たちは聖霊の注ぎやキリストの再臨の定められた時刻を知ってはなりません。」

私たちの分析の焦点であるこの本は、エレン G によって書かれたものではありません。ホワイトは、本文から明らかなように、彼女がこの文を「話した」のです。したがって、これはコピーされたフレーズであり、転写エラーが発生する可能性があり、その本当の意味が歪曲されている可能性があります。

他の人によって書かれ、エレン G. ホワイトのものと同様のテキストのほとんどは、出版前に彼女によってレビューされています。

しかし、この特定の説教は、彼女が後にオーストラリアに向かう米国西部（コロラド州）への旅行に出発するわずか4日前に行われました。この説教は、1892年3月22日、29日、および4月5日の「レビュー アンド ヘラルド」版に掲載されました。エレン・G・ホワイトが説教が行われた日より前に編集された出版物をチェックするという作業を行った結果、この説教の編集物は「レビュー」誌に掲載される前にエレン・G・ホワイトによって査読されなかった可能性が高いことを私たちは理解しています。そして「ヘラルド」（1892年）。

この説教が、1888年の総会議後に始まった教会の霊的衰退の時期に出版されたことを検証すると、転記ミスがあった可能性がより現実的になります。この霊的退廃は、エレンによって書かれたいくつかの証言によって確認されました。G.ホワイト

その後の数年間で、これを確認するために、その一部を以下に示します。

1889年:

「ミネアポリスで私が宣言したことはすべて確認されました。教会には改革が必要だということです。偉大な光と貴重な機会と特権に恵まれていた人々が霊的な弱さと盲目になったため、改革を実行する必要がありました。改革者として、彼らは宗派教会から出てきましたが、現在では教会と同様の役割を果たしていません。私たちは、別の方法で脱出する必要がないことを期待していました。私たちは「平和のきずなにおける御霊の一致を保つ」よう努力する一方で、ペンと声によって狂信に対して抗議することをやめることはありません。」

(Eventos Finais, 43 ページ / EGW '88, 356 e 357 (1889))

1893年:

「キリストは、ご自分の光を誇るが、その光の中を歩まない人々についてこう言われます。「だから、あなた方に言いますが、裁きの日のティルスとシドンにとっては、あなた方よりもそれほど厳しいものではないでしょう。」そして、カペナウム [大なる光を持ったセブンスデー・アドベンチスト] の皆さん、[特権に関して] 自分を天に上げようとする者たちは、地獄に落とされるでしょう。もしあなたの中で行われた奇跡がソドムで行われたなら、それは今日まで残っていたでしょう。」

(最終的な出来事, 43, 44 ページ / レビューとヘラルド, 1893 年 8 月 1 日)

1895年:

「総会そのものが、誤った感情と原則によって腐敗しつつあります。 ...

男性は、自分たちの管轄下にあると思われる人々を不当に利用してきました。彼らは個人に強制することを決意した。支配か破滅か。 ...

あたかもその地位が人間の神となったかのような専制的な権力が発達してきたことは、私に恐怖を与えますし、恐怖を引き起こすはずです。それはどこで、誰によって行使されたとしても呪いです。」

(最後の出来事、44 ページ / 大臣への証言、359 ページ-361 (1895))

1896年:

「仕事の進め方を決定する権威あると考えられてきたバトルクリークの声は、もはや神の声ではない。」

(最終的な出来事、45 ページ / 原稿リリース、第 17 巻、185 ページ (1896 年))

1896年総大会会長に宛てた手紙:

「主は私たちにアメリカからの出発を指示しておられたのではありません。彼は、私がバトルクリークを離れることが彼の意志であるとは明らかにしませんでした。主はこれを計画したのではなく、あなたが自分の想像に従って行動することを許可されました。主は、WC ホワイトとその母親、そして彼の従業員がアメリカに残ることを望んでおられました。私たちは働きの中心に必要とされており、あなたの霊的認識が本当の状況を認識していれば、あなたは決してその措置に同意しなかつただろう。」

しかし、主はみんなの心を読まれます。私たちが去りたいという強い意志があったため、主はこの出来事が起こることを許可されました。バトルクリークから私たちが分離したのは、人々に主の道よりも優れていると判断した自分の意志と道を行かせるためでした。

結果はあなたの目の前にあります。もし彼らが右サイドに残っていたら、この時点でそのような決断は下されなかったはずだ。主は別の方法でオーストラリアのために働き、働きの偉大な中心地であるバトルクリークで強い影響力が維持されたであろう。

そこでは私たちは肩を並べて立ち、すべての協会で感じられる健全な雰囲気を作り出していたでしょう。この問題を計画したのは主ではありません。アメリカを離れることについては一筋の光も得られなかった。しかし、主がこの質問をありのままに私に提示されたとき、私は誰にも口を開きませんでした。誰もこの問題の意味をすべて理解できないと分かっていたからです。私たちが出発したとき、多くの人は安堵を感じましたが、あなた自身はそれほどではありませんでした。主はそれを喜ばれませんでした。なぜなら、主は私たちをバトルクリークの機械の車輪に乗せたからです。」

(OA オルセンへの手紙、127、1896) (強調)

1898年:

「教会はラオデキアの状態にあります。神の臨在はその真っ只中にはありません。」

(Finis Events, 44 ページ / ノートブック リーフレット、Vol. 1, 99 ページ (1898))

「ここ数年、私は総大会が神の声であると考えてきました。」

(最終的な出来事、45 ページ / 原稿リリース、第 17 巻、185 ページ (1896 年))

1901年:

「私たちがかつて総会がそうであると信じていたように、これらの人々が神聖な場所に集まり、人々に対する神の声のようなものであるということは、過去のことです。」

(最後の出来事、45 ページ / 総大会報、1901 年 4 月 3 日、25 ページ)

また、これは、エレン・G・ホワイトが聖霊の注ぎの時期は分からないというメッセージを提示しているとされる唯一の文書である一方、同じ内容の他の記述（私たちが明らかにしている事柄）であるという事実も重くのしかかっています。推測すべきではない）、キリストの再臨の時期が定められたメッセージはこれ以上存在しないという声明など、何十回も繰り返される。したがって、聖書と啓示の記述に基づいて、ダニエル 12 章の預言によって決定された後の雨についてのヨエル書 2 章の預言の成就を主張する立場は、非常に強固で十分な根拠があります。